

地方独立行政法人
大阪府立環境農林水産総合研究所
「平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書」

添付資料集

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所
平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書 添付資料集

目次

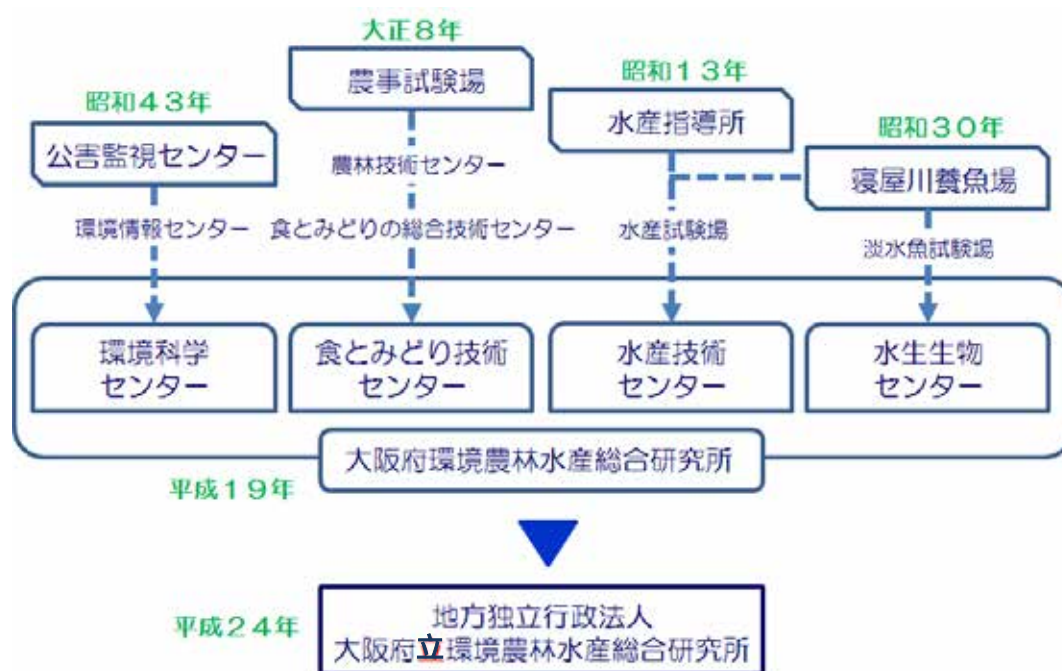
項目	ページ
研究所の概要 -----	1
平成26年度実績報告書に用いたデータ集	
1 受託研究利用者アンケート調査結果 -----	8
2 行政支援に係る現地指導、モニタリング及び行政依頼検 体分析 -----	9
3 緊急時への対応事例 -----	11
4 環境保全への取組支援 -----	15
5 環境農林水産分野の技術支援(その他)-----	17
6 農業大学校運営実績-----	19
7 情報発信ツール一覧 -----	20
8 セミナー・講習会・イベント -----	23
9 報道提供一覧 -----	31
10 新聞掲載・テレビ、ラジオ放送 -----	34
11 法人職員が参加した学会・シンポジウム等及び公設試験研究機関ネッ トワーク -----	37
12 調査研究関係業務一覧 -----	39
13 学術論文・学会発表一覧-----	44
14 重点研究分野への取組-----	50
15 新たな研究分野への取組-----	57
16 研究活力向上支援事業採択課題 -----	72
17 外部研究資金応募実績 -----	73
18 行政評価 -----	75
19 平成27年度に実施する行政依頼事項 -----	77
20 研究アドバイザー委員会による研究課題 評価 -----	79
21 法人が参画するコンソーシアム一覧 -----	80
22 法人の知的財産 -----	82
23 法人職員が受講した研修 -----	84
24 目的積立金使途計画及び実績 -----	86
25 研究所が有する資源の有効活用事例 -----	87
26 講師派遣実績 -----	88
27 委員・役員等派遣実績-----	93

研 究 所 概 要

研究所の概要

(1) 法人沿革・役員・施設・組織・要員・予算 沿革

- 平成19年 「環境情報センター」、「食とみどりの総合技術センター」、「水産試験場」を統合し、「大阪府環境農林水産総合研究所」として発足した。
- 平成24年 地方独立行政法人化し、「地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所」として発足した。



役員

理事長1名、副理事長1名、理事1名（以上常勤）、監事2名（非常勤）

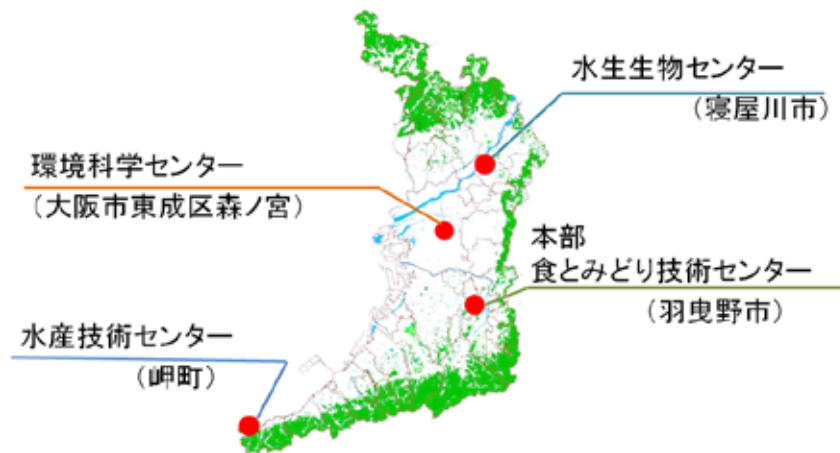
理事長	大河内 基夫
副理事長	山本 達也
理事	草薙 勝之
監事（弁護士）	黒田 清行
監事（公認会計士）	三谷 英彰

施設

食とみどり技術センター、環境科学センター、水産技術センター、水生生物センターの4サイトで運営している。本部は、食とみどり技術センターに置いている。

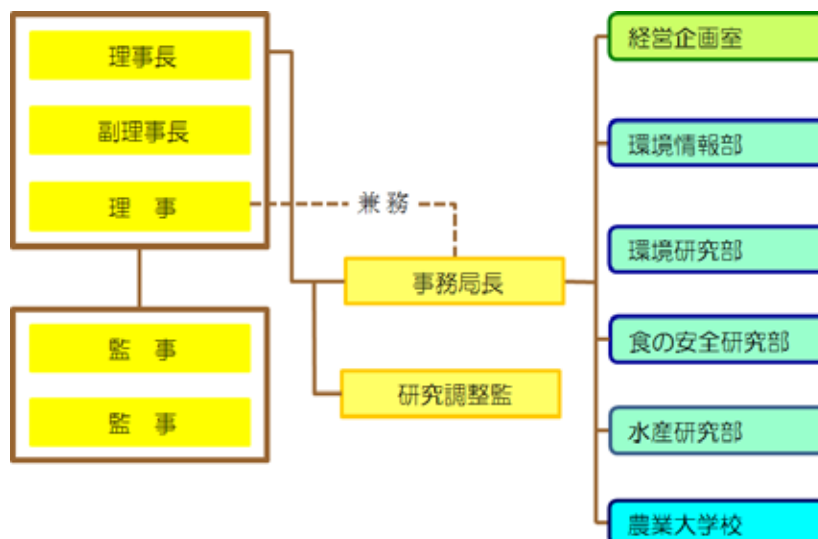
(平成27年3月31日現在)

	敷地面積	建物面積(延床面積)	役職員数
本部・食とみどり技術C	245,913 m ²	23,464 m ²	112名
環境科学C	2,078 m ²	5,240 m ²	25名
水産技術C	8,585 m ²	6,769 m ²	15名
水生生物C	23,477 m ²	920 m ²	8名
総計	280,053 m ²	36,393 m ²	160名



組織

役員、監事、本部(経営企画室)、4部(環境情報部、環境研究部、食の安全研究部、水産研究部)及び農業大学校から構成されている。



要員

独立行政法人化後は、法人採用職員、任期付職員、契約職員及び府派遣職員の雇用形態をとり、研究職、研究補助職、事務職、技術職、技能労務職の職種がある。平成 27 年 3 月末時の役職員数は 160 名である。

人員体制(平成 27 年 3 月 31 日)

合 計	役員	法人採用職員				契約職員		府派遣職員		
		研究職	事務職	研究補助職	任期付研究職	甲種	乙種	技術職	事務職	技能労務職
160	3	49	14	4	4	16	26	34	3	7

役員は上記以外に監事（非常勤）2 名を含む。契約職員甲種は、府における再任用（週 3 日勤務）。契約職員乙種は通常勤務形態

人員配置

人員体制	独法移行前	26 年度	
	平成 24 年 3 月 31 日	平成 26 年 4 月 1 日	
所長 / 理事長	1	1	
監事		2	大阪府 派遣職員数 (内数)
研究職	49	49	
研究補助職		4	
技術職	56	34	29
事務職	13	17	3
技能労務職	17	7	7
任期付研究職		4	
再任用 / 契約職甲種	27	16	
契約職乙種		26	
合計	163	160	39

表中の は非常勤職員を示す。

予算

a. 収入

平成26年度当初予算

(単位:千円)

予算区分		H26 予算額	割合(%)
収入		2,130,778	100
	運営費交付金収入	1,826,506	85.7
	運営費交付金収入(標準)	1,747,793	82.0
	運営費交付金収入(特定)	78,713	3.7
	自己収入	43,553	2.0
	授業料収入	6,624	0.3
	使用料及び手数料収入	1,855	0.1
	財産処分収入	19,192	0.9
	雑収入	15,882	0.7
	受託研究等収入	116,310	5.5
	補助金収入	69,011	3.2
	施設整備補助金収入	61,931	2.9
	事業補助金収入	7,080	0.3
	寄付金収入	14,673	0.7
	目的積立金取崩収入	60,725	2.8

b. 支出

(単位:千円)

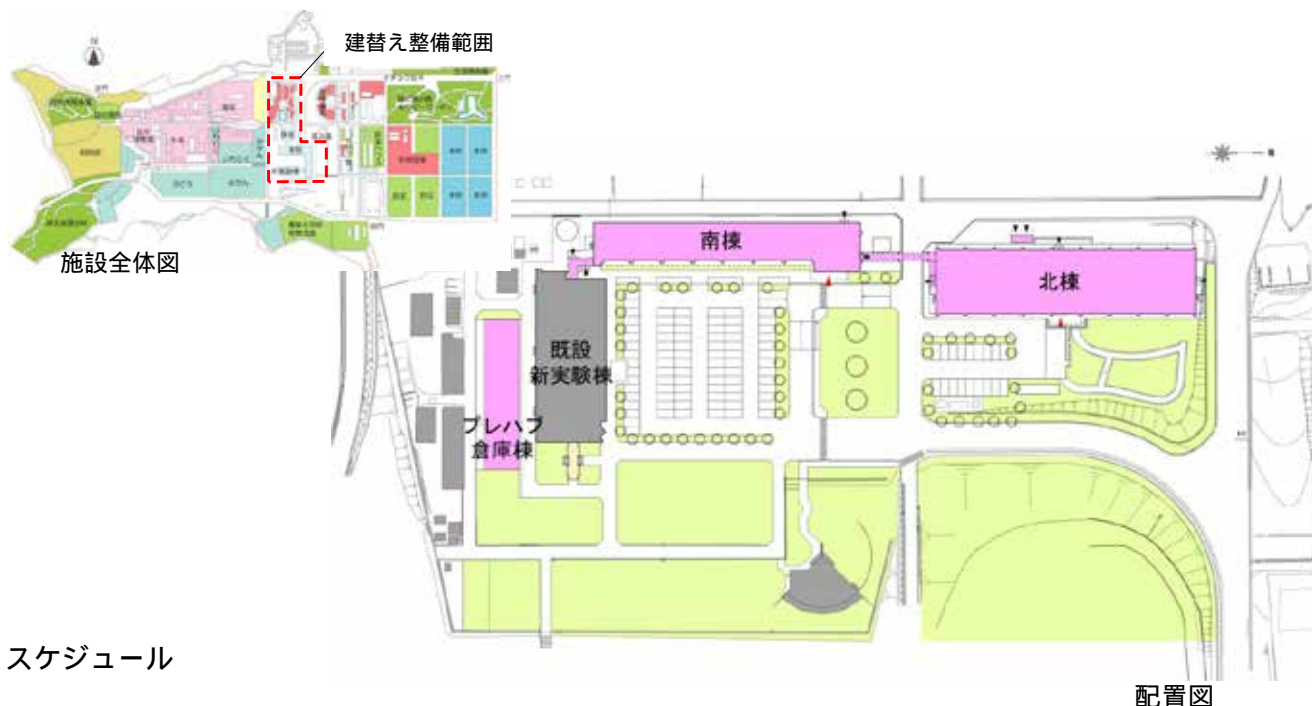
予算区分		H26 予算額	割合(%)
支出		2,130,778	100
	業務費	1,934,865	90.8
	事業経費	259,226	12.2
	人件費	1,395,911	65.5
	一般管理費	279,728	13.1
	本部・食みセンター費	239,189	11.2
	環境科学センター	20,025	0.9
	水産技術センター	12,156	0.6
	水生生物センター	8,358	0.4
	施設整備費	61,931	2.9
	受託研究等研究経費	116,310	5.5
	寄付金事業費	14,673	0.7
	予備費	3,000	0.1

- 施設整備等補助金 -

食みセンター建替実施設計策定費(予算:62百万円)

環境科学センターを羽曳野に移転し、研究所(食とみどり技術センター)一か所に集約する計画。

	食とみどり技術センター	環境科学センター	既設建物(新実験棟)
建設年度	昭和38年(築51年)	昭和43年(築46年)	平成13年度
延床面積	約6,075 m ²	約5,240 m ²	延床面積 約1,805 m ²
計画面積	延床面積 約5,805 m ² 北棟 約3,005 m ² 、(RC造、地上2階) 南棟 約2,360 m ² 、(RC造、地上3階) 附属棟(倉庫)約440 m ² 、(S造、平屋)		



スケジュール

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
実施設計	実施設計		
建設工事		建設工事	

(2) 調査研究課題

行政依頼課題の選定

府民・事業者の要望・問題点を解決するために大阪府環境農林水産部が立案した政策・事業・施策に必要な技術支援を課題化(目的・目標の吟味)して、府から法人に受け渡す会議体として、「大阪府環境農林水産試験研究推進会議」を設けている。推進会議は別表のようにテーマ毎に部会を持ち運営している。

大阪府環境農林水産試験研究推進会議メンバー

会長	環境農林水産部長
副会長	環境農林水産部環境政策監 環境農林水産部次長、環境農林水産総務課長、エネルギー政策課長、 みどり・都市環境室長、循環型社会推進室長、環境管理室長、農政室長、 流通対策室長、水産課長、動物愛護畜産課長
	地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所理事長

各部会

所管室・課	研究部会
環境農林水産総務課、関係所管室・課	総合部会（分野横断課題）
エネルギー政策課、みどり・都市環境室	みどり・都市環境部会
循環型社会推進室、環境管理室	環境部会
農政室、流通対策室	農政・食品部会
水産課	水産部会
動物愛護畜産課、家畜保健衛生所	畜産・野生動物部会
各農と緑の総合事務所	

調査研究課題の評価

a. 行政依頼課題

推進会議で依頼された課題と大阪府から委託を受けた事業及び運営交付金によって実施されている事業については、行政による評価を受ける（４段階評価）。

b. 競争的研究資金

競争的研究資金等外部資金の実施事業及び応募課題については、外部有識者から構成される「研究アドバイザー委員会」において評価を受ける（４段階評価）。

c. 民間受託研究

民間から受ける受託研究については、報告書提出後に依頼者（クライアント）に対してアンケートを実施し、その点数をもって評価としている（５段階評価）。

研究アドバイザー委員（平成 26 年度）

氏名	所属・役職
荒井 修亮	国立大学法人京都大学 フィールド科学教育研究センター 教授
池 道彦	国立大学法人大阪大学 大学院工学研究科 教授
大塚 耕司	公立大学法人大阪府立大学 大学院工学研究科 教授
尾崎 嘉彦	近畿大学 生物理工学部食品安全工学科 教授
切畑 光統	公立大学法人大阪府立大学 21世紀科学研究機構 BNCT 研究センター 特認教授

久保 浩三	国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究推進センター研究戦略部門長・教授
小谷 祐一	独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 所長
竹中 重仁	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 近畿中国四国農業研究センター 企画管理部長
鳥居 厚志	独立行政法人森林総合研究所 関西支所 地域研究監
藤本 高志	大阪経済大学 経済学部地域政策学科 教授
吉田 敏臣(特別顧問)	国立大学法人大阪大学 名誉教授

平成 26 年度実績報告書
に用いたデータ集

1 受託研究利用者アンケート調査結果(実績報告書5ページ)

5段階評価 5; 大変満足、4; やや満足、3; どちらともいえない、2; やや不満、1; 大変不満

受託研究例及び利用者アンケート	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7
	職員態度	契約手続	納期	報告書 難易度	報告内容 水準	研究費用	総合評価
クライアントA	4	4	2	4	4	3	4
クライアントB	5	5	3	4	3	4	4
クライアントC	5	4	5	5	5	5	5
クライアントD	4	5	3	4	4	4	5
クライアントE	5	5	4	4	4	4	5
クライアントF	4	5	4	3	3	-	3
クライアントG	4	4	4	4	4	4	4
クライアントH	5	5	3	4	3	4	5
クライアントI	5	5	2	4	4	3	4
クライアントJ	4	5	3	3	3	4	4
クライアントK	5	4	4	5	5	4	5
クライアントL	4	4	3	3	4	4	4
クライアントM	4	5	4	3	3	-	5
クライアントN	5	5	4	4	4	4	4
平均値	4.5	4.6	3.4	3.9	3.8	3.9	4.4

※「-」先方の設定費用を基に実施したため、アンケート回答辞退。

※アンケート未回答 1件

2 行政支援に係る現地指導、モニタリング及び行政依頼検体分析 (実績報告書 7ページ)

・現地指導

	内容・回数等	場所・回数等
1	森林害虫カシノナガキクイムシの分布拡大によるナラ枯れ被害状況調査及び防除方法の指導	河内長野市 2回
2	ため池養殖業者への魚病・外来種対策巡回指導と魚病検査用個体の採取	泉佐野市、岸和田市 1回
3	釣り堀事業者、ウナギ養殖事業者への巡回魚病指導	千早赤阪村、河内長野市、堺市 4回
4	野菜、花き等の土壌に係る障害事例についての技術指導	21回
5	ユリ収穫後開花技術の現地指導	太子町1回、東大阪市1回
6	獣害に係る指導(市町村鳥獣害防止対策事業の評価など)	7回
7	ヒツジ飼育による府民協働河川環境づくりに係る飼養管理の指導	28回
8	コイヘルペスウイルス病が疑われる魚類へい死発生時における現場確認	高槻市 1回
9	イチジク栽培技術指導	岸和田 1回、和泉市 1回
10	ブドウ休眠枝接ぎ木、新梢管理、剪定等技術指導	太子町8回
11	ユリ栽培技術講習会	茨木市1回
12	小ギク栽培講習会	河南町1回
13	メイタガレイ巡回指導	3回

・モニタリング調査

	名称	内容・回数等
1	微小粒子状物質(PM2.5)成分分析	3地点、年4季×14日、56項目
2	有害大気汚染物質及びVOCモニタリング調査	有害)11地点、月1回、30項目 VOC)1地点、春夏各7日間、60項目
3	粒子状物質の環境調査	1地点、年4季×2日、54項目
4	酸性沈着物質調査	9地点、年2回
5	シカ・イノシシのモニタリング調査	出猟カレンダーほか計5項目
6	アライグマのモニタリング調査	捕獲個体データ解析ほか計3項目
7	大阪湾環境モニタリング調査	水質、プランクトン等調査(42回)
8	漁業資源モニタリング調査	63回
10	漁業権河川(芥川)の環境及び生物モニタリング調査	3地点において春・秋の年2回

・行政依頼検体分析

	事例	回数・検体数など
1	ダイオキシン類の環境基準超過河川における原因特定及び汚染範囲確定の調査・分析	39検体
2	千里川におけるヒ素の継続監視分析	12検体
3	工場等からの排ガス中のVOC等分析	10検体
4	廃棄物焼却炉等の排ガス及び排水中のダイオキシン類分析	排ガス:3検体、排水:5検体
5	ごみ焼却施設等からの燃えがら・ばいじん中のダイオキシン類分析	35検体
6	自然海浜保全地区の水質検査(窒素、リン等)	10検体
7	ゴルフ場排水の農薬検査	21検体
8	河川・地下水の有機フッ素化合物分析	5検体
9	流通飼料の肉骨粉の水分測定	6検体

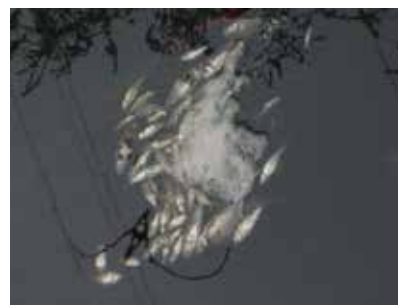
10	養豚場浄化槽排水の分析	10検体
11	府内畜産農家が生産した堆肥の分析	17検体
12	農空間整備事業に係るため池・農業用水路の水質分析	64検体
13	淀川河口域および二色浜・男里川河口の貝毒プランクトン分析	47検体
14	建築解体工事に伴うアスベスト緊急分析	大気:27件92検体、建材:5件15検体
15	異常水質に伴う原因究明調査	水質:9件20検体
16	東除川薄層流浄化施設の浄化効果の調査	14検体
17	見出川水質悪化の原因調査	46検体
18	豊能町残土崩落現場周辺の土砂搬入地の環境汚染調査	6検体
19	コイヘルペスウイルス病の検査	6検体
20	異常水質等、魚類へい死事故発生時の魚病検査、魚種判別	魚病検査4件13検体、魚種判別2件
21	肥料検査事業における収去肥料分析	2検体
22	エコ農産物および直売所農産物の残留農薬分析	56検体
23	登録申請のあった肥料の分析	1検体
24	イチジク株枯病検体調査	4検体

3 緊急時への対応事例（実績報告書 9 ページ）

（1）河川における異常水質の原因究明調査

発生した緊急事象の概要

大阪府域では、例年酸素欠乏や油の流出など河川の異常水質が発生し、魚類のへい死等が起こっている。原因不明の案件が多いが、繰り返し発生しているケースもあり、原因究明及び再発防止・未然防止の方策の確立が求められている。



魚類の大量へい死

業務の具体的内容

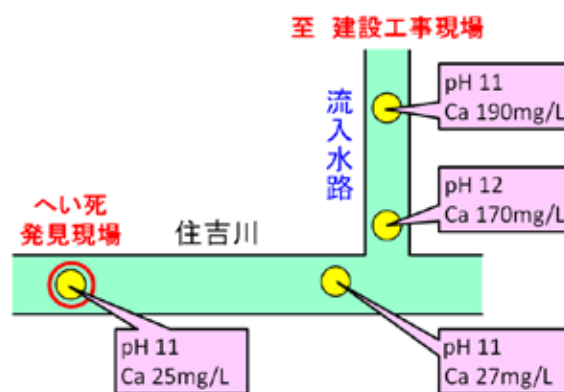
異常水質が発生し、付近住民等から市町村等を通じて大阪府に連絡があると、大阪府事業所指導課が緊急で現場に出動し、採水した水を環境科学センターに、回収したへい死魚は水生生物センターに搬入する。搬入後は直ちに原因究明のために、pH やシアン等の有害物質等の分析、コイヘルペスウイルス病をはじめとする魚病の検査を行い、その結果を事業所指導課、水産課に報告する。

実施期間

通年

業務実施結果の概要

平成 26 年度に発生した異常水質のうち、9 件の水質分析、6 件のへい死魚検査の依頼があった。うち 2 件は酸素欠乏によるもの、2 件は何らかの水質異常によるものと推定した。また、コイヘルペスウイルス病の発生が疑われるコイの PCR 検査を 4 件（府職員との現地確認によりコイヘルペスウイルス病の疑いが無かった 1 件を含まない）実施し、全て陰性であった。



住吉川採水地点・水質分析結果

10 月 2 日に住吉川で発生した魚類の大量へい死事故については、現場の水質が高 pH とカルシウムを多く含む生コンクリート由来の特徴を示していたことから、住吉川に流入する水路の上流の建設工事現場からの排水が原因と推定した。

また、油流出事故に対応するために油の種類の手法を検討し、「油種同定分析マニュアル」を作成し、異常水質対応マニュアルの現地調査記録票の解説とともに、現地調査で確認すべき項目、確認した項目から推定される原因等を「魚類へい死事故発生時の現地調査マニュアル」としてとりまとめた。

今後に向けた研究所の考え方

平成 26 年度に引き続き、大阪府に協力して異常水質の原因究明を行う。また、平成 26 年度に作成した「油種同定分析マニュアル」についてはさらに同定の精度を高め、判定までの時間を短縮する手法を検討し、盛り込んでいく。「魚類へい死事故発生時の現地調査マニュアル」についてはその内容の充実化をはかるとともに、事業所指導課が実施する府市町村の異常水質等を担当する方向けの研修会等で周知を図る。

(2) 廃棄物焼却施設におけるばいじん処理物中のダイオキシン類分析

発生した緊急事象の概要

平成 26 年 6 月に公表された、滋賀県高島市および京都府城南衛生管理組合の焼却施設から大阪湾フェニックス処分場へのダイオキシン類の受入基準を超える廃棄物（ばいじん処理物）の搬入事案を受け、大阪府所管の廃棄物焼却施設におけるばいじん処理物中のダイオキシン類の基準遵守状況等を確認した。

業務の具体的内容

平成 26 年 7 月に、廃棄物処理法、ダイオキシン類特別措置法を所管する大阪府の担当課（資源循環課、産業廃棄物指導課、事業所指導課、泉州農と緑の総合事務所）が廃棄物焼却施設の立入検査を行い、ばいじんのサンプリングを実施した。

当研究所においては、依頼を受け、妥当性等を速やかに検討した上で、搬入されたばいじん中のダイオキシン類 35 検体の分析を速やかに行った。

実施期間

平成 26 年 7 ~ 9 月上旬

業務実施結果の概要

大阪府所管の事業所において、基準超過はなかった。

事業区分	検体数	設置 ¹	測定結果 (ng-TEQ/g-dry)	基準値 ² (ng-TEQ/g-dry)
市町村ごみ焼却場	3	新設炉	0.27 ~ 1.4	3
	19	既設炉	0.0011 ~ 13	-
産廃業者	6	既設炉	0.57 ~ 55	-
事業所	1	新設炉	0.0017	3
	6	既設炉	0 ~ 42	-

(1) 新設炉とは、平成 12 年 1 月 15 日以降に設置されたもの

(2) 既設炉におけるばいじんの処分は、セメント固化処理、薬剤処理、酸処理で重金属が溶出ししない状態にした場合、基準値を適用しない。

今後に向けた研究所の考え方

平成 27 年度においても、ダイオキシン類に関して緊急時の対応事案があれば、必要性、妥当性等を速やかに検討し、依頼に協力していく。

(3) 豊能町残土崩落現場周辺の土砂搬入地の環境汚染調査

調査の概要

平成 26 年 2 月、豊能町木代の砂防指定区域内（私有地）で、大阪市内の建設業者が道路沿いに積み上げていた建設残土が土砂崩れを起こした事故を受け、現場周辺の他の建築業者が建設残土を搬入している地点について、有害な物質が環境中に浸出し、周辺住民の健康や農作物の生育等への影響を及ぼしていることがないかどうかを確認する。

業務の具体的内容

大阪府と協力し、建設残土搬入地点の浸出水と浸出水が流入する河川について 2 回（3 地点）採取し、ひ素について分析を実施して、その結果を大阪府に回答した。

実施期間

平成 26 年 4 月 10 日・30 日

業務実施結果の概要

全ての検体でひ素は検出されなかった。

今後に向けた研究所の考え方

今後も同様の事例が発生した際は、大阪府に協力し、環境汚染に係る分析を実施する。



建設残土搬入地点

(4) 見出川水質悪化の原因調査

調査の概要

平成 25 年度の公共用水域水質測定結果において、見出川が「全国で BOD が高い上位 5 河川」の 2 位になったことを受け、その水質悪化の原因調査のため、見出川に流入する水路が見出川本川に与える影響を調査する。

業務の具体的内容

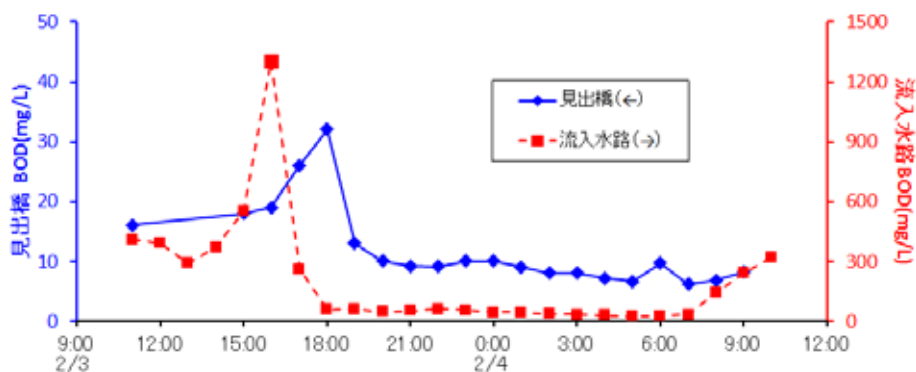
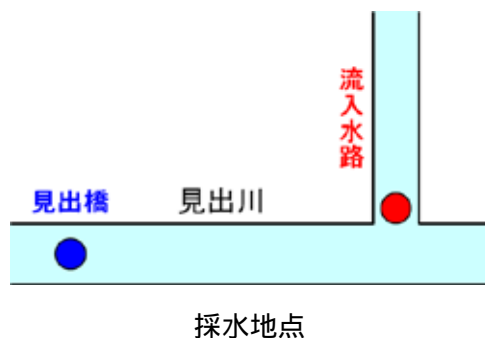
見出川の環境基準点（見出橋）と流入水路が見出川に合流する直前の 2 地点で 1 時間ごとに 24 時間連続採水を実施し、生物化学的酸素要求量（BOD）、水素イオン濃度（pH）、電気伝導度などの水質分析を行い、その結果を大阪府に回答した。

実施期間

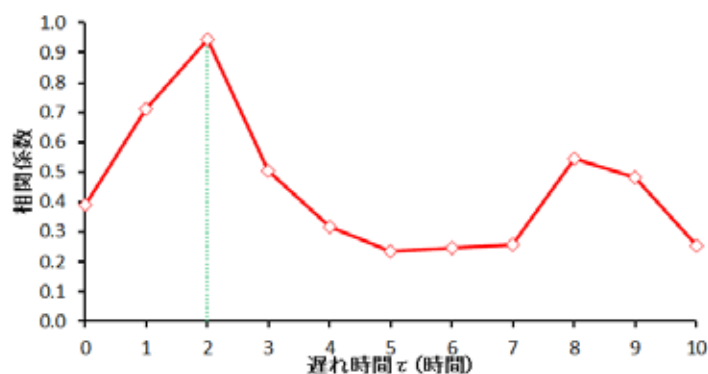
平成 27 年 2 月 3 日～4 日

業務実施結果の概要

流入水路は BOD が非常に高い値を示し、かつ、2 時間の時間差で見出橋の濃度と相関が高かったこと、BOD が高濃度になったときに塩化物イオンが高濃度になったことから、この水路に排水している事業所が環境基準点（見出橋）の水質に大きな影響を与えていることがわかった。



生物化学的酸素要求量（BOD）の結果



流入水路と見出橋の BOD の相関関係

今後に向けた研究所の考え方

大阪府に協力し、環境汚染に係る分析を実施する。

4 環境保全への取組支援(実績報告書 11 ページ)

(1) 省エネ・省CO2・相談窓口

【調査研究の目的とH26年度目標】

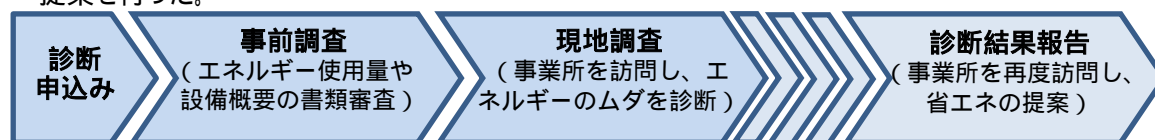
(目的)大阪府域全体の温室効果ガス排出量の4分の1を占める中小事業者の省エネルギーの取組みを支援することにより、温暖化対策を推進することを目的とする。

(H26 目標) 中小事業者の省エネ等対策の個々の事業内容に応じた支援
業界団体・市町村と連携した省エネ等対策の支援体制の構築
府職員に対するエネルギー管理に関する研修の実施
省エネ・省CO2・節電対策における効果、コスト等に関する情報の収集・分析・整理

【進捗の概要】

省エネ診断

○事業所の省エネ診断を行い、設備等の運用管理等における省エネ・省CO2・節電対策について提案を行った。



診断報告書作成



書類とヒアリングによる調査



設備の運転管理状況の診断



計測による診断

○環境省のCO2削減ポテンシャル診断事業に参画し、事業所の省エネ診断を行った。

○大阪府商工会連合会と連携し、10商工会(藤井寺市等)会員事業所の省エネ診断を行った。

(総診断件数:43件(年度目標件数:30件))

業界団体、市町村と連携した中小事業者の省エネ対策の推進

○大阪府・大阪市(おおさかスマートエネルギーセンター)、大阪商工会議所と省エネ・省CO2セミナーを共催した。(開催:2回、参加者合計:206人)

○業界団体等の要望に応じて講演を行った。(講演:2回)

○大阪府商工会連合会の経営指導員向けセミナーで講演を行った。

○吹田市の大学・研究機関省エネワーキングに参加し、講演を行った。

ホームページによる情報発信と普及啓発(更新:11回)

府職員等に対する研修

○府内市町村エネルギー・温暖化対策担当職員を対象に、省エネに係る講演を行った。

○省エネ診断への同行による現場研修を行った。(4回)



省エネ・省CO2セミナーの様子

(2) 環境技術評価・普及事業(おおさかエコテック)

【調査研究の目的とH26年度目標】

(目的) 大阪発の優れた環境技術の普及を通じて環境保全を推進する。

(H26 目標) 技術評価

大阪の中小・ベンチャー企業が開発した環境技術・製品の技術評価し、高い技術評価を受けたものを「おおさかエコテック」技術・製品として選定する。

普及支援

「おおさかエコテック」選定技術・製品について、様々な広報媒体を通じて普及を支援する。

【進捗の概要】

技術評価

平成 26 年度は、5 件の申請があり、うち 4 件がおおさかエコテック技術・製品に選定された。このうち 1 件は、特に優れた技術・製品「ゴールド・エコテック」の評価を受けた。

普及支援

i. 展示会出展

平成 26 年度は、「中小企業総合展 in Kansai」「びわ湖環境ビジネスメッセ 2014」「ENEX2015」など展示会 5 件に出展し、おおさかエコテック選定技術・製品の開発企業に技術・製品を展示する機会を提供した。商談件数 210 件(うち成約済は 33 件)

ii. セミナー開催

平成 26 年度は、「中小・ベンチャー企業のための環境技術セミナー」など 2 回のセミナーを開催し、おおさかエコテック選定技術・製品の開発企業に発表機会を提供した。

また、おおさかエコテック選定技術・製品の発表にあたっては、難解なものであっても少しでも一般の人々にとって理解しやすくなるよう企業担当者に対して助言した。

iii. メールマガジン・ホームページによる発信

メールマガジン「環境技術情報メール配信サービス」や、当研究所ホームページにおいて、おおさかエコテック選定技術・製品の紹介を行った。

iv. その他

おおさかエコテック選定技術・製品の紹介チラシを制作し、MOBIO や大阪商工会議所等の中小企業支援機関で配布・配架したほか、当研究所環境科学センターの玄関ホールにおいて、ポスター・パネル展示によるおおさかエコテック選定技術・製品の紹介を行った。



5 環境農林水産分野の技術支援(その他)(実績報告書13ページ)

1	シカ・イノシシ保護管理検討会、林業経営協議会ほか各種協議会等へ出席し、野生鳥獣・森林林業・花き栽培に関する情報提供。
2	府からの委嘱により委員会等へ参画。 ・環境農林水産総務課依頼： 大阪府環境審議会幹事 ・環境保全課依頼： 大阪府環境影響評価審査会委員 ・みどり推進室依頼： 林業経営協議会委員 ・安威川ダム建設事務所依頼： 大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会委員 など
3	環農総務課からの依頼により衛星画像を用いた緑被率調査を実施。
4	安威川ダム建設事務所からの委託により、ダム建設予定の安威川における魚類や河川環境について調査を実施。
5	府内内水面養殖業者が参加する内水面検討会(1回)、府内河川漁協が出席する内水面振興対策推進事業に係る検討会(3回)へ出席し、魚類や魚病についての情報を提供。
6	水産課より委託を受け、安威川および余野川の漁業権河川の調査を実施(2河川6地点)し、府の漁業権免許更新に係るデータの蓄積、漁場環境の経時的把握について技術的に支援。
7	水産課からの要請で、ため池の外來種の現状を聞き取り調査するとともに、駆除方法の情報収取を実施。
8	環境管理課からの要請で、安威川、余野川、淀川、大川、平野川、恩地川、天見川の生息魚類を調査した。大川、平野川、恩地川、天見川では、大阪府レッドデータブックの絶滅危惧種を含む魚類27種の生息を確認。
9	河川室、西大阪治水事務所からの要請で、大川のふれあいの水辺において、地曳調査を春と秋に2回実施。
10	河川室の要請で、技術職員向けの魚類調査実習を、千里川で実施。
11	河川室、富田林土木事務所の要請で、狭山池において魚類調査を実施。
12	事業所指導課からの要請で、市町村の水質関係担当者向けの魚類斃死時の対応研修を実施。
13	箕面整備事務所からの依頼で箕面森町の希少種保全のための技術支援を実施。

14	水産課より要請を受け、ノリ、ワカメなどの藻類養殖について巡回指導(5回)と採苗指導(1回)をおこない、併せて藻類養殖情報を発行して養殖漁家に対する技術支援を実施。
15	水産課の委託を受け、大阪湾内に造成された魚類増殖場の効果把握のための調査を4回実施。
16	大阪府漁連が開催する資源管理部会(船引き網部会、底引き網部会、刺し網部会など)での技術指導を実施(11回)。
17	花き園芸品評会、養液栽培トマト品評会において表彰者を選定。
18	中部農と緑の総合事務所より要請を受け、デラウェアの早期落葉について巡回指導(2回)および葉の分析を実施。

6 農業大学校運営実績（実績報告書 13 ページ）

(1) 養成科コース

新入生の志願者・入学者状況

入学年度	志願者数	入学者数()	うち女子	充足率(%)	平均年齢
24	37	25(7)	6	100	27.0
25	34	25(8)	5	100	31.0
26	38	25(7)	6	100	27.0

括弧内は短大、大学、大学院の卒業者数

履修時間

1 学年 学科 430 時間、実習 580 時間、課外学習・研修 70 時間で合計 1,080 時間

2 学年 学科 445 時間、実習 535 時間、課外学習・研修 70 時間で合計 1,050 時間

履修科目

1 学年 作物・果樹・野菜・花きなど 14 科目

2 学年 農業経営、マーケティング論、農産加工など 17 科目

実習

1 学年 農場実習：農大教育ほ場及び各研究部門での技術実習と販売実習

農家実習：先進的な農家である大阪府「農の匠」宅での農作業

2 学年 専攻実習：農大教育ほ場及び当研究所の研究部での卒業論文

講師

35 名(研究所職員 9 名 外部講師 26 名)

卒業生の進路状況

卒業年度	入学者数	卒業者数	就農	農業法人等	JA	農業関連	その他
24	21	19	2(*1)	6(*4)	3	4(*7)	4
25	25	19	3(*2)	9(*5)	2	1	4
26	25	22	6(*3)	8(*6)	2	1	5

* 就農形態 *1:親元就農 1、準農家 1 *2:親元就農 1、新規就農 2 *3:親元就農 2、新規就農 4

* 雇用就農 *4:農業法人 3、農の匠 3 *5:農業法人 5、農の匠 4 *6:農業法人 4、農の匠等 4

* 農業関連 *7:青果物流通・加工販売 2、鉢花加工・販売 1、農業機械販売 1

(2) 短期プロ農家養成コース

コース別の応募状況

年度 コース /分野	24			25			26		
	集中		入門	集中		入門	集中		入門
	野菜	果樹		野菜	果樹		野菜	果樹	
応募者数	30	15	65	37	19	55	33	14	50
受講者数	21	15	53	20	16	49	22	13	47

【備考】 募集定員は野菜 20 名、果樹 15 名、入門 50 名(年 2 回、各 25 名募集)

(3) 無料職業紹介

養成科コースの学生を対象に、農業生産法人や JA 等農業関連企業への就職を斡旋

農業大学校への募集件数の推移

24 年度: 18 件 25 年度: 20 件 26 年度: 19 件

地方独立行政法人への移行に伴い、厚生労働大臣への届出制から許可制となった無料職業紹介所を開設した。(平成 24 年 9 月 1 日許可)

(4) 新たな教育カリキュラム編成のための検討の実施

大阪農業の特性に重点をおいた新たなカリキュラムについては、実習時間を増加させるなど技術力の向上を図るほか、農業技術研鑽コース、農業実践コースなどのコース分けの実施を視野においた検討を行った。

7 情報発信ツール一覧(実績報告書 15 ページ)

1 危機管理情報（光化学スモッグ情報など緊急性が高く、府民の健康や業被害に影響がある情報）

No	名称と情報発信の方法	内 容	対 象 者 <メール配信 登録者数>	発信 時期 頻度
1	大阪湾赤潮情報 (大阪湾赤潮速報・月別赤 潮発生状況・有害プランク トン情報) ホームページ	プランクトン観測結果(赤潮・有 害)	漁業関係者・一般 府民	速報・有害:月2 ~5回 月別:月1回
2	大阪湾貝毒原因プランク トン情報 ホームページ	プランクトン観測結果(貝毒)	漁業関係者・一般 府民	月2~5回

2 総合情報（研究所本部や各サイトのHP、エコギャラリーや環境プラザなど施設利用サイトも含む）

No	名 称	内 容	対 象 者 <メール配信 登録者数>	発信 時期 頻度
1	大阪府環境農林水産総合 研究所 ホームページ	研究所の概要、各種お知らせ、研 究成果紹介、栽培技術情報など	一般府民・行政関 係者等	常時(随時更新)
2	環農水研メルマガ (旧 大阪府環境農林水産総 合研究所メールマガジン) Eメール	研究所が実施する事業に関する最 新情報やイベントの案内など	一般府民・行政機 関等 <842>	20回/年
3	環境技術情報メール配信 サービス Eメール	環境技術に関する最新情報や講習 会の案内など	配信登録企業 <1,392>	随時 月2回以上 (年間30回)
4	環境情報プラザ ホームページ	施設概要、貸出資料類の紹介、貸 室空き状況確認、環境学習に関す る情報提供	一般府民・NP O・行政機関等	常時(随時更新)
5	本部・食とみどり技術セン ター ホームページ	施設および研究内容の紹介、イベ ント情報	一般府民・事業 者・行政機関等	常時(随時更新)
6	環境科学センター ホームページ	環境科学センターの概要紹介、各 種環境分析の結果、省エネ・省C O ₂ 相談、環境技術コーディネート 事業など	一般府民・事業 者・行政機関等	常時(随時更新)
7	農業大学校 ホームページ	農業大学校の課程・施設・行事な どの概要紹介、募集案内など	一般府民	常時(随時更新) ・学生募集:8月 ・短期プロ農家養 成コース募集 集中コース:4月 入門コース:6、8 月
8	水産技術センター ホームページ	水産技術センターの概要紹介、大 阪湾の生きものの紹介、大阪府の 漁業概要、イベント情報等	一般府民・漁業者	常時(随時更新)
9	水生生物センター ホームページ	水生生物センター概要、イベント 紹介、府内の水生生物などに関す る情報、淡水魚・植物図鑑、淡水 魚の病気など	一般府民	常時(随時更新)

10	水産技術センター・メール マガジン Eメール	水産技術センターのイベント情報 等	一般府民等 <261>	随時(14件)
----	------------------------------	----------------------	----------------	---------

3 技術普及および技術支援情報(各種公表データのHP等)

No	名称	内容	対象者 <メール配信 登録者数>	発信 時期 頻度
1	過去に寄せられたよくある質問 ホームページ	府民から寄せられた代表的な技術相談のQA	一般府民・NPO・行政機関等	常時(随時更新)
2	環境技術コーディネート事業 ホームページ	在阪企業の環境分野における技術開発を大学や関係機関との連携体制でサポートする事業。	事業者	常時(随時更新)
3	省エネ・省CO ₂ 相談窓口 ホームページ	中小事業者の省エネルギーの取組支援を通じて温暖化対策を推進する相談窓口	事業者	常時(随時更新)
4	大阪府が発注する環境調査・検査業務に係る技術認定制度 ホームページ	大阪府が発注する環境調査・検査業務の適正な履行を確保するため、これらの業務を受託しようとする事業者の技術的適性の認定制度	事業者	常時(随時更新)
5	微小粒子状物質(PM _{2.5})成分分析 ホームページ	微小粒子状物質(PM _{2.5})の成分分析結果	一般府民	常時(随時更新)
6	ひと目でわかる花と野菜の病害虫(大阪府園芸植物病害虫図鑑) ホームページ	主な農作物の病害虫の診断・防除について	農業者・農協職員・府関係者など	更新予定なし
8	水稲栽培技術情報 ホームページ	新奨励品種情報、水稲栽培の手引き、水稲奨励品種特性表など	農業者・農協職員・府関係者・学校教育関係者など	常時(随時更新)
9	おおさかアグリメール Eメール	大阪府内主要農作物の栽培技術情報、気象情報、市況、各種お知らせなど	農業者・農協職員・府関係者など <1,196>	300回/年
10	緑化技術研修会の案内 ホームページ 、 Eメール 、 通送 、 報道提供	緑化技術研修 開催案内	緑化担当者(市町村・教育委員会等)・一般府民	随時(年4回)
11	漁況通報 ホームページ 、 郵送 、 通送	主な魚介類の種別漁獲量	漁業関係者・一般府民(郵送・通送37カ所)	月1回
12	藻類養殖情報 ホームページ 、 郵送 、 FAX	ノリ・ワカメ養殖に関する情報	藻類養殖関係者等(郵送は6カ所、FAXは2カ所)	月1回(11~3月)
13	大阪湾水温速報 ホームページ 、 FAX	水温定置観測結果	漁業関係者・一般府民(FAXは26カ所)	毎日(FAXは毎週月曜日)
14	大阪湾全域水温速報 FAX	水温観測結果	漁業関係者26カ所	月2回

15	大阪湾カタクチイワシ卵稚仔情報 <u>F A X</u>	カタクチイワシ卵稚仔の採集状況	漁業関係者 27 カ所	月 1 回
16	大阪湾シラス情報 (速報) <u>F A X</u>	シラス全長組成情報	漁業関係者 13 カ所	月 1~3 回
17	大阪湾シラス・イカナゴ新子(しんこ)漁況予報 <u>ホームページ、FAX</u>	シラス漁・イカナゴ漁に関する情報	漁業関係者・一般府民(FAXはイカナゴ38カ所、シラス29ヶ所)	4・6・9・10・1・2月
18	生物・植物図鑑 <u>ホームページ</u>	大阪湾や府内の魚類や水草、両生類、甲殻類、外来種などの情報	一般府民	常時
19	直売切り花技術情報 <u>ホームページ</u>	直売切り花技術マニュアル	農業者、一般府民	常時
20	ハートフル農業への支援 <u>ホームページ</u>	農業の福祉分野への活用に関する研究成果、障がい者を雇用する事業者などの情報	一般府民、事業者、農業者	常時

8 セミナー・講習会・イベント(実績報告書 4、12、15、16ページ)

※ 実施場所の“食みC”は食とみどり技術センター、“水技C”は水産技術センターの略

	手法	事業	内容	対象者	実施場所	回数	実施時期	実績報告書ページ				
								4ページ	12ページ	16ページ 出展 講習会	16ページ 公開講座 セミナー	
法人が主催・共催のもの	シンポジウム	環農水研シンポジウム	特別講演、研究成果発表、ポスターセッション	事業者・府民・行政	大阪産業創造館	1回	5月12日	1	1		1	
	シンポジウム	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター連携協定記念シンポジウム	滋賀県琵琶湖環境科学研究センターとの連携協定と記念講演等	事業者・一般・行政	大阪府立国際会議場	1回	1月30日	2	2		2	
	講習等	中小・ベンチャー企業のための環境技術セミナー	ヒートアイランド対策技術の最新動向	事業者	大阪商工会議所	1回	9月30日	3			3	
	講習等	中小事業者のための省エネ・省CO2セミナー	社員の意識向上の手法、省エネ省CO2方策や先進事例の紹介など	事業者	マイドームおおさか 大阪商工会議所	2回	6月20日 11月27日	4			4	
	講習等	「おおさかエコテック企画展 in おおさかATCグリーンエコプラザ」記念セミナー	環境対策などを企業の事業戦略に位置付ける経営理念「CSV」	事業者	おおさかATCグリーンエコプラザ	1回	9月5日	5			5	
	講習等	水なす漬物衛生管理マニュアル講習会	水なす漬物の原材料の塩素殺菌処理について	事業者	こーたリーな研修室	1回	3月12日	6			6	
	講習等	地域間連携による低投入型・高収益施設野菜生産技術体系の実証	省エネ型栽培装置の共同開発について	事業者・一般	大阪産業創造館	1回	5月12日	7			7	
	講習等	水産技術C研究業務成果発表会	水産技術センター研究成果についての発表会	漁業関係者・行政	大阪府漁連	1回	2月6日	8	3		8	
	講習等	大阪府大との連携セミナー	太陽光植物工場、養液栽培における病害虫防除	一般府民、事業者	大阪府大	1回	12月3日	9			9	
	対象に事業者を含むもの	シンポジウム	飛ばない天敵による害虫防除ミニシンポジウム	「飛ばない天敵」の露地適用の意義及び実用化の課題	事業者・一般・行政	奈良県社会福祉総合センター	1回	6月25日	10	4	1	
		シンポジウム	産業の水資源管理と閉鎖性海域環境に関するシンポジウム	大阪湾の水質環境について講演	事業者、行政等	大阪新阪急ホテル	1回	11月7日	11	5	2	
		講習等	大阪企業のコスト削減計画支援者研修会	省エネ診断の内容について紹介	大阪府内商工会経営指導員	マイドームおおさか	1回	6月24日	12		3	
		講習等	省エネ・省CO2研修会	省エネ・省CO2に関する講演	大阪商工会議所南支部会員	大阪商工会議所南支部	1回	7月23日	13		4	
		講習等	日本環境アセスメント協会技術セミナー	生物多様性に関する講習	日本環境アセスメント協会	大阪ガーデンパレス	1回	12月5日	14		5	
講習等		全国農薬協同組合	水稻病害虫の生態と防除について	農薬卸商事業者	大阪ガーデンホテル	1回	2月4日	15		6		
講習等		JA大阪中央会	スーパーアグリアドバイザー養成研修	JA職員	食みC	1回	11月6日	16		7		
講習等		土壌測定・診断室運営	堆肥施用の意義や土づくりの基本について	営農指導員、普及指導員	食みC	1回	4月4日	17		8		
講習等		野菜栽培技術講習会	野菜栽培について	野菜生産農家	藤井寺市民会館	1回	9月9日	18		9		
講習等		イチジク講習会	イチジクの年間栽培管理について	藤井寺市イチジク研究会会員	JA大阪南道明寺支店	1回	5月16日	19		10		
他機関が主催のもの	講習等	JA北河内野菜研修会	毛馬キュウリの栽培の実際について	JA北河内7名	食みC	1回	6月18日	20		11		
	講習等	田辺大根、天王寺蕪 検討会	伝統野菜研究の取り組みについて紹介	南河内農の普及課・泉州農の普及課	道の駅かなん	1回	7月2日	21		12		
	講習等	南河内地区果樹振興会連絡協議会研修会	果樹試験研究の取り組み状況	南河内地区果樹振興会会員	食みC	1回	7月17日	22		13		

対象に事業者を含むもの

他機関が主催のもの

講習等	イチジク栽培技術研修	イチジク栽培技術研修	河内長野市イチジク生産者	河内長野市	1回	9月25日	23		14	
講習等	なにわの伝統野菜の生産・出荷・販売会議	田辺大根、天王寺蕪、碓井豌豆の栽培研究について紹介	生産農家	食みC	1回	10月7日	24		15	
講習等	ブドウ土づくり講習会	ブドウほ場の土壌管理	柏原市ブドウ生産者	食みC	1回	11月12日	25		16	
講習等	イチジク講習会	今年のイチジク栽培を振り返って	藤井寺市イチジク研究会会員	JA大阪南道明寺支店	1回	11月25日	26		17	
講習等	天王寺カブ検討会	優良系統選抜越効果についての意見交換会	JA大阪南なにわの伝統野菜部会	食みC	1回	1月9日	27		18	
講習等	イチジク栽培技術研修	リフレッシュ剪定や台木栽培など新しい栽培技術研修	河南町イチジク生産者	食みC	1回	1月13日	28		19	
講習等	堆肥共励会	堆肥施用の意義とその効果について	耕種農家畜産農家	食みC	1回	1月22日	29		20	
講習等	剪定研修会	ブドウ剪定と翌年の新梢管理およびH型の仕立て方	太子町ブドウ生産者	太子町現地ほ場	1回	2月16日	30		21	
講習等	花き栽培技術講習会	小ギクの栽培について	道の駅かなん出荷者	道の駅かなん	1回	2月26日	31		22	
講習等	地力増進地域指定対策	土づくりの基本と作物生産との関係について	玉串花き生産組合	JA	1回	5月23日	32		23	
講習等	北河内伝統野菜協議会	田辺大根の栽培方法について	枚方市など生産者15名	JA北河内堂農センター	1回	8月6日	33		24	
講習等	紫ブドウ研修会	紫ブドウについての歴史とウイルス保毒状況について	ワイナリー	食みC	1回	10月9日	34		25	
講習等	今治市農業委員会視察	ほ場見学	農業委員会委員	食みC	1回	10月22日	35		26	
講習等	ブドウ栽培技術研修	ブドウ研究についての取り組み状況	太子町ブドウ生産者	食みC	1回	10月28日	36		27	
講習等	大阪府養液栽培研究会	養液栽培トマトの品評会および表彰式	大阪府養液栽培研究会会員	食みC	2回	12月15日 3月25日	37		28	
講習等	宮崎県農協青年組織協議会	研修、施設見学	生産者	食みC	1回	2月4日	38		29	
講習等	熊本県 植木町4Hクラブ	施設見学	会員	食みC	1回	11月13日	39		30	
講習等	吹田市農業委員会	施設見学	会員	食みC	1回	11月20日	40		31	
講習等	イチジク講習会	イチジク接ぎ木栽培の講習会	藤井寺市イチジク研究会会員	食みC	1回	11月25日	41		32	
講習等	北河内農業協同組合 守口ブロック	施設見学	生産者	食みC	1回	12月4日	42		33	
講習等	JAオホーツク網走	施設見学	生産者	食みC	1回	12月9日	43		34	
講習等	鈴鹿農業協同組合	施設見学	生産者	食みC	1回	12月10日	44		35	
講習等	JA大阪南道明寺支店	施設を利用した研修	団体	食みC	1回	5月16日	45		36	
講習等	羽咋郡市農業青年青雲会	施設見学	生産者	食みC	1回	6月25日	46		37	
講習等	JAかみまきし	施設見学	生産者	食みC	1回	7月8日	47		38	
講習等	大阪府植物防疫協会	農薬取り扱い研修	販売事業者	食みC	1回	7月18日	48		39	
講習等	JA滋賀県果樹連合組合	施設見学	生産者	食みC	1回	7月18日	49		40	

対象に事業者を含むもの

他機関が主催のもの

講習等	いずみの農協	研修	生産者	食みC	1回	7月25日	50		41	
講習等	愛媛県今治市農業委員会	施設見学	生産者	食みC	1回	10月22日	51		42	
講習等	滋賀県農政連盟湖南支所	施設見学	生産者	食みC	1回	11月4日	52		43	
講習等	関東園芸振興連絡協議会	施設見学	生産者	食みC	1回	11月25日	53		44	
講習等	野菜栽培研修視察	天敵利用による害虫防除	熊本県植木町4Hクラブ生産者	食みC	1回	11月13日	54		45	
講習等	栗栽培研修会	能勢町内のクリンギゾウムシの発生と温湯消毒機	能勢栗振興会・栗部会会員	止々呂美特産物センター(箕面市)	1回	2月26日	55		46	
講習等	花き栽培技術講習会	ユリの栽培について	見山の郷出荷者	見山の郷	1回	8月5日	56		47	
講習等	花き栽培技術講習会	小ギクの栽培について	道の駅かなん出荷者	道の駅かなん	1回	2月26日	57		48	
講習等	JA鳥獣被害対策研修会	大阪府における鳥獣害の現状	JA職員	泉南府民C	1回	2月27日	58		49	
出展	司厨士協会関西地方本部および大阪府本部総会	チャレンジ支援事業の成果品などの展示	司厨士	リーガロイヤルホテル	1回	6月30日	59		50	
出展	大阪産(もん)名品お披露目会、6次産業化マッチングイベント	チャレンジ支援事業の成果品などの展示	事業者	咲洲庁舎ホール	1回	7月18日	60		51	
出展	大阪新年互礼会	チャレンジ支援事業の成果品などの展示	行政・事業者	ホテルニューオオタニ	1回	1月5日	61		52	
出展	南河内事業者生産者マッチング相談会	チャレンジ支援事業の成果品などの展示	事業者	富田林市民会館	1回	1月27日	62		53	
出展	アグリフードエキスポ2015大阪	チャレンジ支援事業の成果品などの展示	事業者	ATCホール	1回	2月20日	63		54	
出展	信金中央「食の商談会」	食品の相談コーナー、チャレンジ支援事業の成果品	事業者	大阪産業創造館	1回	2月25日	64		55	
出展	堺・泉州の大阪産(もん)マッチング商談会	チャレンジ支援事業の成果品などの展示	事業者	堺商工会議所	1回	3月9日	65		56	
出展	食の安全技術展	食品の相談コーナー、チャレンジ支援事業の成果品	事業者	大阪産業創造館	1回	3月19日	66		57	
出展	食の商談会「天下の台所」	食品の相談コーナー、チャレンジ支援事業の成果品	事業者	大阪産業創造館	1回	11月20日	67		58	
出展	大阪産(もん)大集合	大阪産(もん)チャレンジ支援事業のパネルや成果品の展示、お魚タッチングプールなど。	事業者、一般	NHK大阪前広場	1回	11月1-2日	68		59	
出展	7信金合同・ビジネスマッチングフェア	チャレンジ支援事業の成果品などの展示	事業者	マイドームおおさか	1回	6月4-5日	69		60	
出展	信金発！地域 発見フェア	チャレンジ支援事業の成果品などの展示	事業者、一般	東京ドーム	1回	11月12,13日	70		61	
出展	アグリビジネス創出フェア	チャレンジ支援事業の成果品などの展示	事業者	東京ビックサイト	1回	11月12-14日	71		62	
出展	遊漁船等安全講習会	大阪湾の環境と生物について講習	遊漁船業者	関西エアポートフジントンホテル	1回	10月21日	72		63	
出展	おおさかATCグリーンエコプラザ常設展示	おおさかエコテックの事業PR及び選定技術・製品の普及支援	事業者	おおさかATCグリーンエコプラザ	1回	10月1日~3月27日	73		64	
出展	おおさかATCグリーンエコプラザ企画展示	おおさかエコテックの事業PR及び選定技術・製品の普及支援	事業者	おおさかATCグリーンエコプラザ	1回	6月17日~9月30日	74		65	
出展	バリアフリー2014	福祉施設における省エネ事例の紹介	事業者	インテックス大阪	1回	4月19日	75		66	

対象に事業者を含むもの	他機関が主催のもの	出展	中小企業総合展2014 in Kansai	おおさかエコテックの事業PR及び選定技術・製品の普及支援	事業者	インテックス大阪	1回	5月28～30日	76		67		
		出展	びわ湖環境ビジネスメッセ2014	おおさかエコテックの事業PR及び選定技術・製品の普及支援	事業者	滋賀県立長浜ドーム	1回	10月22日～10月24日	77		68		
		出展	ENEX2015 第39回地球環境とエネルギーの調和展	おおさかエコテックの事業PR及び選定技術・製品の普及支援	事業者	東京ビッグサイト	1回	1月28日～1月30日	78		69		
対象に行政を含むもの	法人が主催・共催のもの	講習等	大気中の石綿濃度測定技術研修	大気中石綿濃度の迅速測定のための位相差顕微鏡の使い方	府石綿規制業務従事職員	環境科学センター	1回	5月8日		6		10	
		講習等	省エネ診断に係る現場研修	府職員対象。省エネ診断への同行による現場研修を実施	府職員	省エネ診断受診事業所	4回	7月3日 7月9日 10月8日 11月7日		7		11	
		講習等	緑化技術等研修会	市町村職員等を対象に、緑化技術の研修を行う。	府市町村職員等	食みC	4回	9月11日 10月10日 11月17日 1月16日		8		12	
		報告会	研究所環境課題成果発表会	研究所環境分野の調査研究や業務成果について	環境農林水産部、市町村環境担当職員	大阪府咲洲庁舎	1回	1月21日		9		13	
		報告会	大阪府立環境農林水産総合研究所 業務成果報告会	H26年度行政依頼課題の業務成果の報告	府環境農林水産部担当職員・役員	大阪府咲洲庁舎	1回	3月25日		10		14	
	講習等	平成26年度エネルギー・温暖化対策に関する講習会	事業所の省エネのポイントについて	大阪府内市町村職員	おおさか市町村職員研修研究センター	1回	11月6日		11		70		
	講習等	普及指導員研修(野菜)	新任普及指導員研修(伝統野菜採種体験)	普及指導員	食みC	1回	7月31日		12		71		
	講習等	普及指導員研修(花き)	切り花の鮮度保持	普及指導員	なにわ花いちば	1回	2月24日		13		72		
	講習等	野菜担当者研修	野菜担当者野菜ほ場視察	本庁職員、普及指導員など	食みC	1回	2月27日		14		73		
	講習等	普及指導員研修(果樹)	イチジク接ぎ木の研修	府庁新採	食みC	1回	9月2日		15		74		
	講習等	地域間連携による低投入型・高収益施設野菜生産技術体系の実証	西南暖地でのイチゴ栽培と技術的解決の可能性	行政・研究者	沖縄県庁	1回	11月6日		16		75		
	講習等	平成26年度環境モニタリング技術研修	大気・水質等環境モニタリングに係る技術研修	国・地方公共団体の常時監視業務担当職員	環境省環境調査研修所	1回	8月1日		17		76		
	講習等	生物多様性セミナー「知ろう・伝えようおおさかの生物多様性」	冊子を使った生物多様性に関する講習	大阪府みどり都市推進室、一般	咲洲ホール	1回	2月20日		18		77		
	講習等	彩都あさぎ里山公園池ヒシ駆除	彩都あさぎ里山公園池のヒシ駆除と彩都周辺にすむ水生生物の講習	大阪府彩都建設協議会、一般	彩都あさぎ里山公園池	1回	9月19日		19		78		
	講習等	植物防疫全国協議会近畿地区研修会	病害虫の薬剤防除における薬剤選択と薬剤感受性検定法について	行政担当者	神戸植物防疫所	1回	1月14日		20		79		
	講習等	植物防疫協力員研修会	稲、野菜類の病害について解説	植防協力員、JA職員	食みC	1回	7月18日		21		80		
	講習等	保健師への講習会	大阪湾の魚と食文化について講習	保健師	水技C	1回	2月18日		22		81		
	教育者対象	講習等	府立農業系高等学校初任者研修	農業系高等学校の教員に必要な基礎知識・技術に係る研修	教員	食みC	1回	9月18日		23		82	
		講習等	ものづくりから始まる技術指導力向上研修	培養土等の栽培及び播種等栽培技術に関する基礎知識と指導方法	中学及び支援学校技術分野担当教員	食みC	1回	8月12日		24		83	
講習等		守口市教育研究会理科部会研修	環境教育プログラムに関する研修	守口市教育研究会理科部会	水生生物センター	1回	7月2日		25		84		
講習等		大阪府教育センター研修会	環境教育プログラムに関する研修	大阪府教育センター	水生生物センター	1回	8月18日		26		85		

教育者対象	他機関が主催のもの	講習等	四条畷市教育研究会理科部会研修	環境教育プログラムに関する研修	四条畷市教育研究会理科部会	水生生物センター	1回	10月8日		27	86			
		講習等	小中学校「理科」指導者養成長期研修	環境教育プログラムに関する研修	小中学校「理科」指導者	水生生物センター	1回	10月30日		28	87			
		講習等	東大阪市学校園芸講習会	種蒔きから始める花苗の育て方	小中学校教員	花園中央公園	1回	8月20日		29	88			
		講習等	「かけはし」事業 環境活動力アッププロジェクト	環境活動をより活発に効果的に行うための連続講座	環境活動に取り組む個人、事業者、行政	環境情報プラザ、万博記念公園	10回	7月23日～12月6日				15		
府民対象など	法人が主催・共催のもの	講習等	「かけはし」交流エコセミナー	①環境活動のための「ワールド・カフェ」 ②環境行政の取組と資金調達事例、NPO活動事例など	府民・事業者・行政担当者等	環境情報プラザ	2回	12月6日 2月26日				16		
		講習等	「かけはし」事業 中学数学で学ぶ統計学勉強会	環境施策の立案・評価・改善等のための統計学の勉強会	環境行政職員	環境情報プラザ	10回	6月18日～3月18日				17		
		講習等	環境科学Cこども環境教室(環境月間行事)	小学生対象。環境に関する講演により暮らしの中で環境問題を考えるヒントを身につける	大阪市立森之宮小学校5年生	環境情報プラザ	1回	6月11日				18		
		講習等	環境情報プラザ『わかる！楽しい！みんなで環境教室』キッズプログラム	指導員の指示のもと、環境紙芝居やビデオテープでの自然体験、ワークショップなどを実施	小学生	環境情報プラザ	6回	7月30日 8月6日 8月20日 (午前午後の2回開催)				19		
		講習等	食とみどりの探検隊	研究所の中を探検し、研究員と一緒に「食」や「農」について学ぶ。	小学生・保護者	食みC	1回	8月21日				20		
		講習等	おおさか生物多様性パートナー協定の締結	積水ハウスとのおおさか生物多様性パートナー協定の締結	府、研究所、府立大学、積水ハウス	積水ハウス	1回	3月25日				21		
		講習等	出前授業「天然記念物イタセンバラを知ろう」	イタセンバラの出張展示と淀川やイタセンバラ、生物多様性の講習	小学生	府内小学校2校	2回	10月17日 10月27日				22		
		講習等	水生生物センターサポートスタッフ講習会	魚類の繁殖や府内水辺の生物、標本の作製、現地観察会	サポートスタッフ	水生生物センター	4回	4月26日 9月20日 12月14日 2月22日				23		
		講習等	大川ふれあいの水辺地曳網調査	大川の魚類の採集(地曳網体験)とそれらについての講習	小学生・保護者・府民	大川ふれあいの水辺	2回	5月17日 11月3日				24		
		講習等	水産技術Cのこども体験教室	大阪湾の魚類の講習と稚魚の放流	深日小学校	深日漁港	1回	6月18日				25		
		講習等	海の教室	海岸生物の観察、栽培漁業の体験、地引き網体験など	小中学生・保護者	水産技術C	1回	7月27日				26		
		講習等	大阪湾セミナー	研究成果と調査船運行状況の紹介	府民(高校生以上)	環境情報プラザ	1回	7月14日				27		
		講習等	田んぼの生きもの教室	水生C実験田んぼでの生物採取や観察と、それらについての講習	小中学生・保護者	水生生物センター	3回	6月21日 7月26日 10月11日				28		
		出展	魚庭のうみづくり大会	タッチングブル、パネル展示等、研究所業務と大阪湾の魚介類の紹介	一般	岸和田市波切ホール	1回	11月2日				89	29	
		他機関が主催のもの	講習等	富田林市民見学会	秋野菜の栽培について	富田林市民	食みC	1回	11月19日				90	
			講習等	五條市生活学校	施設見学		食みC	1回	3月3日				91	
講習等	羽曳野市商工会		施設見学	会員	食みC	1回	10月28日				92			
講習等	南花台中学校青少年健全育成会		施設見学	会員	食みC	1回	11月5日				93			

府民対象など

他機関が主催のもの

講習等	大和川水生生物観察会	大和川にすむ水生生物の採集と観察、講習	一般、八尾市	大正コミュニティセンター	1回	1月31日			94	
講習等	大阪シニア自然カレッジ見学研修	水生生物センターの業務紹介、施設見学	大阪シニア自然カレッジ	水生生物センター	1回	3月4日			95	
講習等	生活クラブ生協大阪見学研修	淀川の魚類と外来生物に関する講習と施設見学	生活クラブ生協大阪	水生生物センター	1回	4月26日			96	
講習等	三井ヶ丘5丁目老人会見学研修	水生生物センターの業務紹介、施設見学	三井ヶ丘5丁目老人会	水生生物センター	1回	5月23日			97	
講習等	トンボのヤゴ救出作戦in服部緑地	プールのヤゴの採集と移植、トンボ(ヤゴ)の飼育について	服部緑地管理事務所	服部緑地	1回	5月24日			98	
講習等	俳誌の会見学研修	水生生物センターの業務紹介、施設見学	俳誌の会	水生生物センター	1回	6月3日			99	
講習等	近畿水環境交流会in淀川・寝屋川見学研修	淀川の魚類相等についての講習と施設見学	近畿水環境交流会	水生生物センター	1回	7月26日			100	
講習等	ねやがわ自然塾体験学習	ピオトープ池での水辺体験、水草押し葉作り、施設見学	ねやがわ自然塾	水生生物センター	1回	8月7日			101	
講習等	交野市自立センター見学研修	水生生物センターの業務紹介、施設見学	交野市自立センター	水生生物センター	1回	8月22日			102	
講習等	知って親しみ塗って親しむ「イタセンパラ」講座	イタセンパラの生態や生息環境に関する講習	一般	中央流域センター	1回	11月8日			103	
講習等	水辺に親しむ会	淀川左岸用水路の生きものについての講習	水辺に親しむ会	水生生物センター	3回	4月13日 8月13日 1月25日			104	
講習等	近鉄文化サロン	大阪府にすむ魚類や水生生物に関する講習	一般	近鉄あべのハルカス	2回	7月27日 8月3日			105	
講習等	安威川水辺の学校	安威川の生きもの採集とそれらに関する講習	茨木市立山手台小学校、安威川ダム建設事務所	茨木市安威川	1回	5月16日			106	
講習等	千里川水辺体験学習	千里川の生きもの採集とそれらに関する講習	豊中市立豊島北小学校	豊中市千里川	1回	6月12日			107	
講習等	なにわ子供エコクラブ体験学習	ピオトープ池での水辺体験、水草押し葉作り、施設見学	なにわ子供エコクラブ	水生生物センター	1回	8月23日			108	
講習等	水辺体験学習	ピオトープ池での水辺体験、水草押し葉作り、施設見学	府内小学校	水生生物センター	4回	5月9日 7月4日 8月5日 11月5日			109	
講習等	羽曳野市立西浦小学校	施設見学	児童	食みC	1回	2月3日			110	
講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	3月10日			111	
講習等	羽曳野市立西浦小学校	施設見学	児童	食みC	1回	4月14日			112	
講習等	羽曳野市立西浦小学校	草花の観察	児童	食みC	1回	5月16日			113	
講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	6月18日			114	
講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	7月16日			115	
講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	9月9日			116	
講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	9月26日			117	
講習等	羽曳野市立西浦小学校	自然観察	児童	食みC	1回	11月11日			118	
講習等	高鷺南小学校	自然観察	児童	食みC	1回	11月17日			119	
講習等	ミズアオイ出前授業	ミズアオイの移植とミズアオイに関する講習	寝屋川市立石津小学校	寝屋川市立石津小学校	1回	7月7日			120	
講習等	箕面市立彩都の丘学園特別授業	彩都川合裏川にすむ水生生物の採集とそれらに関する講習	彩都の丘学園、大阪府彩都建設協議会	彩都川合裏川	1回	10月16日			121	

府民対象など

他機関が主催のもの

講習等	茨木市立彩都西小学校特別授業	彩都周辺にすむ生物に関する講習	茨木市立彩都西小学校	茨木市立彩都西小学校	1回	10月20日			122	
講習等	四天王寺大学教育学部	食の安全講習	学生	食みC	2回	7月30日 11月21日			123	
講習等	CST野外体験学習	環境教育プログラム研修、ピオトープ池での生物採集、淀川ワンドでの地曳網	府内大学生	水生生物センター、淀川ワンド	1回	8月25日			124	
講習等	滋賀県立大学見学研修	水生生物センターの業務紹介、施設見学	滋賀県立大学	水生生物センター	2回	11月7日 11月10日			125	
講習等	寝屋川市立第9中学校	水生生物センターの業務紹介、施設見学	寝屋川市立第9中学校	水生生物センター	1回	3月18日			126	
講習等	河原城中学校	地域学習(フィールドワーク)	生徒	食みC	1回	11月5日			127	
講習等	高鷲中学校	職場体験	学生	食みC	2回	11月12日			128	
講習等	河原城中学校	施設見学フィールドワーク	学生	食みC	1回	11月12日			129	
講習等	職業体験研修	総合学習の一環として職場体験を通じた教育の機会を提供する	府内中学校(3校)	水技C	3回	5月28,29日 6月12,13日 7月3,4日			130	
講習等	職業体験研修	総合学習の一環として職場体験を通じた教育の機会を提供	府内中学校、高等学校	水生生物センター	5回	9月17-19日 9月22-26日 11月12,13日 11月13,14日 11月28-30日			131	
講習等	—	施設見学	府民	食みC	1回	10月22日			132	
講習等	大阪友の会	施設見学	府民	食みC	1回	10月29日			133	
講習等	青山デイサービス道明寺	施設見学	府民	食みC	1回	11月17日			134	
講習等	羽曳野市立はびきの保育園	施設見学	園児	食みC	1回	3月5日			135	
講習等	羽曳野市立軽里保育園	自然観察	園児	食みC	1回	3月13日			136	
講習等	社会福祉法人坂門ヶ原保育園	自然観察	園児	食みC	1回	3月20日			137	
講習等	羽曳野市立はびきの保育園	施設見学	園児	食みC	1回	4月8日			138	
講習等	梅の里保育園	施設見学	園児	食みC	3回	5月16日 5月20日 6月10日			139	
講習等	羽曳野市立向野保育園	自然観察	園児	食みC	1回	6月3日			140	
講習等	藤井寺市立第二保育園	施設見学	園児	食みC	1回	10月22日			141	
講習等	羽曳が丘幼稚園	施設見学	園児	食みC	1回	6月2日			142	
講習等	羽曳野市立西浦東幼稚園	自然観察	園児	食みC	1回	6月11日			143	
講習等	奈良学園SSH科学専攻クラス研修	水辺の生きものや生態系についての講習、施設見学	奈良学園高校	水技C	1回	9月30日			144	
講習等	大阪府立大手前高校集中セミナー	水辺の生きものや生態系についての講習	大阪府立大手前高校	水生生物センター	1回	12月11日			145	
講習等	大阪府立枚方なぎさ高校見学研修	水辺の生きものや生態系についての講習、施設見学	大阪府立枚方なぎさ高校見学研修	水生生物センター	1回	12月26日			146	
講習等	奈良学園SSH科学専攻クラス研修	理数系の授業と水生生物センターの業務の関わりについて	奈良学園高校	水生生物センター	2回	11月6日 11月11日			147	
講習等	里海公園磯浜見学会	大阪府の漁業の講義	小学生	せんなん里海公園	1回	9月9日			148	
講習等	アマモ学習会	アマモ場の生物、苗床づくり	西鳥取小学校小学生	西鳥取小学校	1回	10月7日			149	

府民対象など

他機関が主催のもの

講習等	光善寺保育園体験学習	コイなど魚類への餌やり体験と施設見学	光善寺保育園	水生生物センター	1回	3月17日			150	
講習等	大阪体操クラブ体験学習	コイなど魚類への餌やり体験と施設見学	大阪体操クラブ	水生生物センター	1回	6月26日			151	
講習等	(独)農研機構中央農業総合研究センター土壌肥料研究領域セミナー	大阪府の農業と土壌肥料調査研究について	(独)農研機構中央研C研究職員	(独)農研機構中央農研究センター	1回	1月26日			152	
講習等	日本アジア青少年サイエンス交流事業	農業技術研修、施設見学	海外研修生	食みC	1回	9月29日			153	
講習等	韓国尚州市	施設見学	海外生産者	食みC	1回	12月1日			154	
講習等	JICA研修生への研修	大阪湾の環境について講習	JICA研修生	水技C	1回	6月11日			155	
講習等	シニア自然カレッジ	施設を利用した研修	団体	食みC	1回	4月16日			156	
講習等	富田林市民見学会	秋野菜の栽培について	富田林一般市民	食みC	1回	11月19日			157	
講習等	大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度成果発表会	平成25年度研究助成事業の成果発表	一般(公募)	神戸市ラッセルホール	1回	7月2日			158	
講習等	大阪府高齢者大学校自然文化研究科	大阪における環境保全の取組の歴史	大阪府高齢者大学校受講者	大阪府助産師会館	1回	12月9日			159	
講習等	大阪府立大学地域連携研究機構施設見学	環境科学センター、大阪府大気汚染常時監視業務紹介、施設見学	ベトナム大学留学生	環境科学センター	1回	12月4日			160	
講習等	一般財団法人海外産業人材育成協会 一般研修	日本の省エネルギー活動、低炭素技術について講義	海外研修生	(一財)海外産業人材育成協会関西研修センター	10回	7月18日～1月9日			161	
講習等	フィリピン水ビジネスセミナー	最新の水処理技術について講義	海外研修生	(一財)海外産業人材育成協会関西研修センター	1回	3月13日			162	
講習等	大阪府立大学 国際環境学特論	地方公共団体の環境行政の概要、途上国における環境問題についてグループ討論	府立大学院生	大阪府立大学	2回	6月26日 7月3日			163	
講習等	大学と研究機関による省エネルギーワーキンググループ	省エネの考え方と取組みについて講演	吹田市内の大学・研究機関	吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館	1回	2月23日			164	
講習等	大阪府立大学 環境活動演習	環境啓発(環境啓発パネル・環境学習教材の作成、環境テーマ展示)	大阪府立大学学生	府立大学、万博記念公園など	15回	4月19日～11月8日			165	
出展	大漁 いわしとしらすの親子まつり	タッチングプール、大阪湾の魚介類	一般	大阪府鱈巾着網漁業協同組合	1回	10月4日			166	
出展	深日漁港ふれあいフェスタ	タッチングプール、大阪湾の魚介類	一般	深日漁港	1回	10月26日			167	
出展	堺エコロジー大学堺の海再発見	大阪湾の環境と生物	一般	堺2区友愛ビーチ、堺市出島漁協等	2回	5月14日 10月28日			168	
出展	「来て見て体験in村野浄水場」	淀川魚類の出展と説明	一般	村野浄水場	1回	11月2日			169	
出展	淀川わいわいガヤガヤ祭	移動水族館	一般	摂津市淀川右岸河川敷公園	1回	6月1日			170	
出展	彩都10周年記念「彩都祭り」	彩都周辺にすむ魚や水生生物の展示と説明	一般	彩都あさぎ里山公園	1回	11月9日			171	
出展	生物多様性協働フォーラム	メダカやカワバタモロコ及び生物多様性関連パネルの展示と説明	一般	グランフロント大阪	1回	12月23日			172	
出展	エコフェスタ in ExpoPark	研究所の環境保全の取組や「かけはし」の紹介、パネル展示など	一般	万博記念公園	1回	11月1日～11月3日			173	

9 報道提供一覧（実績報告書17ページ）

No.	タイトル	報道提供日
1	短期プロ農家養成コース(集中コース)受講者募集します	4月11日
2	環農水研シンポジウムを開催します～ニーズに応えた研究所の取り組みを紹介～<マスコミへの取材依頼>	4月28日
3	第1回家庭園芸セミナー「春から増える野菜と花の害虫・病気の対策」を開催します	4月28日
4	地域の小学校と連携した「こども体験教室」を開催します	5月8日
5	9年ぶりに城北ワンドでイタセンパラの稚魚を確認～イタセンパラの野生復帰事業が着実に前進～	5月8日
6	大阪発の優れた環境技術「おおさかエコテック選定技術・製品」を「中小企業総合展2014 in Kansai」に出展します	5月21日
7	中小事業者のための省エネ・省CO2セミナー「現場における省エネ・節電の取組実例」を開催します。	5月23日
8	環境活動で地域をたのしく元気に！「環境活動連続講座」を開催します！	6月5日
9	農業大学校では平成26年度短期プロ農家養成コース(第1回入門コース)を開催いたします	6月5日
10	環境について楽しく学ぼう！～地元の小学校と連携した環境学習を実施します～	6月9日
11	平成26年度法人職員採用選考【研究職(農学)】【技術職(環境・森林生態環境)】募集中	6月10日
12	「おおさかエコテック企画展 in おおさかATCグリーンエコプラザ ～大阪発！中小・ベンチャー企業の環境技術～」を開催します	6月16日
13	大阪湾の環境と生物を考える「第9回大阪湾セミナー」を開催します	6月18日
14	第2回家庭園芸セミナー「夏から秋の野菜づくり」を開催します	6月27日
15	夏休みこども体験「海の教室」を開催します	7月1日
16	はびきの市民大学との連携講座「南河内の大阪産(もん)あれこれ」を開催します	7月10日
17	夏休みこども体験教室「食とみどりの探検隊」を開催します	7月14日
18	今年もイタセンパラの稚魚を確認しました～野生復帰が着実に前進～	7月28日
19	大阪発の優れた環境技術「おおさかエコテック」として2技術・製品を選定しました	7月31日
20	「おおさかエコテック企画展 in おおさかATCグリーンエコプラザ」記念セミナー「環境・エネルギーをめぐる新たな挑戦」を開催します	7月31日
21	緑化技術研修会『緑化樹に多い病害虫と薬剤の安全な使用方法』を開催します	8月7日
22	第3回家庭園芸セミナー「春だけでなく冬も鮮やかな花壇づくり」を開催します。	8月28日

No.	タイトル	報道提供日
23	平成27年度農業大学校学生を募集します。	8月29日
24	短期プロ農家養成コース(入門コース)受講者募集します	8月29日
25	こども体験教室「イタセンパラとふれあおう」を開催します。	9月1日
26	いちじく生産と太陽光発電の両立を目指すソーラーシェアリングの研究を開始！	9月5日
27	緑化技術研修会『危険木の見つけ方とその管理方法』を開催します	9月12日
28	追加募集中！はびきの市民大学との連携講座「南河内の大阪産(もん)あれこれ」を開催します	9月17日
29	中小・ベンチャー企業のための環境技術セミナー「ヒートアイランド対策技術の最新動向」を開催します	9月30日
30	緑化技術研修会『樹木と草花の手入れ』を開催します	10月10日
31	小学校へへの出前授業「天然記念物の淡水魚イタセンパラを知ろう」を実施します	10月14日
32	大阪発の優れた環境技術「おおさかエコテック選定技術・製品」を「びわ湖環境ビジネスメッセ2014」に関西アーバン銀行と共同出展します	10月16日
33	中小事業者のための「省エネ・省CO2セミナー」を開催します	10月20日
34	大阪府から環境調査・検査業務を受託しようとする分析事業者に対して技術認定を実施します	10月24日
35	第4回家庭園芸セミナー「挿し木、接ぎ木で果樹を楽しむ」を開催します	10月30日
36	『都市の未利用空間を利用し「みどりの風」を感じる大阪をつくる』シンポジウムを開催します	10月31日
37	府大連携セミナー「植物工場の現状と将来展望」を開催します	11月10日
38	連携協定記念シンポジウム「水の恵みを琵琶湖から大阪へつなぐ」を開催します	12月4日
39	当研究所の共同研究成果が2014年農林水産研究成果10大トピックスに選出されました	12月11日
40	緑化技術研修会「緑化樹の剪定」を開催します	12月16日
41	平成27年度「大阪産(もん)チャレンジ支援事業」を募集をします(H27/1/5～2/27)	12月19日
42	第5回家庭園芸セミナー「野菜も花もいきいき!地球にもやさしい土づくりのお話」を開催します	12月24日
43	農林水産省の2014年農林水産研究成果10大トピックスに「飛ばないナミテントウの育成と利用技術の開発」が選出されました	12月24日
44	平成27年度 農業大学校学生の二次募集(一般入学)を行います	1月9日
45	大阪発の優れた環境技術「おおさかエコテック選定技術・製品」を 省エネ機器の展示会「ENEX2015」に出展します	1月21日

No.	タイトル	報道提供日
46	連携協定記念シンポジウム「水の恵みを琵琶湖から大阪へつなぐ」を開催します <マスコミへの取材依頼>	1月28日
47	大阪府が発注する環境調査・検査業務に係る分析事業者の技術認定を実施しました	2月2日
48	あこう(キジハタ)の新魚水槽を新設しました	2月6日
49	『環境パートナーシップ「かけはし」交流エコセミナー』開催します～環境活動に必要な『情報』『資金』『広報』『ネットワーク』をあなたに～	2月9日
50	大阪発の優れた環境技術「おおさかエコテック」として1技術・製品を選定しました	2月27日
51	企業による大阪の生物多様性保全の取組みをサポートします～積水ハウスとおおさか生物多様性パートナー協定を締結～	3月23日
52	平成27年度に「環農水研」が支援する大阪産(もん)を使った商品開発5件が決定	3月27日
53	微生物生存率90%以上の乾燥技術を開発 乳酸菌粉末などが低コストで大量生産可能に	3月30日
54	省エネ技術「サーモレジンスV工法」を大阪発の特に優れた環境技術「ゴールド・エコテック」に選定	3月30日

10 新聞掲載・テレビ、ラジオ放送（実績報告書 17ページ）

●新聞掲載記事

No.	掲載日	掲載紙	掲載内容
1	4月7日	毎日新聞	大阪生まれ新種ブドウ
2	4月17日	読売新聞	大阪オリジナルブドウ復活
3	4月18日	読売新聞	PM2.5など研究紹介(シンポ)
4	4月23日	産経新聞	環農水研シンポジウム開催
5	4月25日	産経新聞	タマレンセと漁獲
6	5月2日	日刊工業新聞	12日に環農水研シンポ
7	5月6日	産経新聞	40年前のブドウを品種登録出願
8	5月9日	読売新聞	イタセンパラ稚魚確認
9	5月19日	読売新聞	イタセンパラ待望の稚魚
10	6月18日	読売(山梨)新聞	大阪ゆかり紫ブドウで白
11	6月20日	読売新聞	秀吉夢ワイン山梨より
12	6月23日	大阪日日新聞	大阪湾の生物や環境などを考える(大阪湾セミナー)
13	7月11日	毎日新聞	イタセンパラ届かぬ魚心
14	7月13日	読売新聞	野菜づくりセミナー(園芸S)
15	7月27日	読売新聞	来月子ども体験教室(食みどり探検)
16	7月31日	毎日新聞	食とみどり体験隊
17	8月6日	毎日新聞	堺の海とサカナを知ろう!
18	8月13日	産経新聞	緑化の知識や技術テーマに研修会
19	8月14日	読売新聞	マダコの産卵記録
20	8月30日	中日新聞	ポインタと命名した。
21	9月1日	大阪日日新聞	ポインタ
22	9月2日	産経新聞	41年前に開発のブドウ新品種ポインタと命名
23	9月22日	読売新聞	栽培しながら太陽光発電
24	10月5日	朝日新聞	ソーラシェアリング実験
25	10月25日	大阪日日新聞	貴重な魚大切に(イタセン出張授業)
26	11月1日	朝日新聞	すっぽん
27	11月6日	朝日新聞	大阪湾泳げ幻の魚
28	11月14日	朝日新聞	瀬戸内海にクジラ
29	11月18日	産経新聞	21日羽曳野で家庭園芸セミナー
30	12月18日	大阪日日新聞	琵琶湖淀川水環境考える
31	12月24日	大阪日日新聞	大阪産使用商品開発を技術支援
32	1月11日	産経新聞	農業大学校が一般入学生募集
33	1月22日	朝日(滋賀)新聞	環境保全で協定
34	1月25日	朝日新聞	琵琶湖淀川水守れ
35	1月31日	京都新聞	琵琶湖環境科学県環境保全向け協定
36	1月31日	産経新聞	県と大阪府の研究所環境保全へ連携協定

37	2月5日	産経新聞	琵琶湖淀川の環境保全で滋賀の研究センターと協定
38	2月12日	朝日新聞	やせゆく瀬戸内海
39	2月14日	読売新聞	迷子の迷子のクジラちゃん
40	3月1日	読売新聞	大阪のアヒル

●専門紙掲載記事

No.	掲載日	掲載紙	掲載内容
1	4月15日	日刊工業新聞	省エネ診断
2	4月25日	日本食糧新聞	環農水研シンポジウム
3	5月23日	日本食糧新聞	成果実績を紹介(シンポ)
4	6月1日	日本農業新聞	なにわの伝統野菜を復活
5	6月10日	大阪農業時報	消費者ニーズに合った農の技術開発事業展開を(シンポ)
6	6月13日	水産経済新聞	さわら共同種苗生産
7	7月11日	全国農業新聞	飛ばないナミテントウ実用化
8	7月21日	朝日小学生新聞	大阪湾ではどんな魚が取れるのかな？
9	7月21日	日本水道新聞	水と農業
10	7月21日	日本水道新聞	地域協同で外来魚駆除イタセンパラ復元へ
11	7月23日	日本下水道新聞	地域協同で外来魚駆除イタセンパラ復元へ
12	9月19日	日本農業新聞	イチジク樹上で発電
13	9月20日	日本農業新聞	名前はポンタに
14	10月7日	日刊工業新聞	ソーラーシェア農法実習
15	10月25日	大商ニュース	省エネ省CO2セミナー
16	11月12日	みなと新聞	第12回魚庭(なにわ)の海づくり大会
17	1月10日	日本養殖新聞	大阪で第8回生物多様性共同フォーラム開催
18	1月28日	日刊工業新聞	水系環境保全で連携
19	2月10日	みなと新聞	新設水槽で種苗生産
20	2月10日	大阪農業時報	大阪産(もん)チャレンジ支援事業募集中
21	3月4日	建通新聞	大阪エコテック環境配慮型塗料を選定
22	3月13日	全国農業新聞	中空培地でイチゴ
23	3月20日	全国農業新聞	中空培地でハウスイチゴ
24	3月21日	日本農業新聞	イチジク台木の品種選びを
25	3月28日	フジサンケイビジネスアイ	大阪府などと生物多様性の協定締結

●テレビ・ラジオ放送

No.	放送日	放送局	番組	内容
1	4月5日	朝日放送	おはよう朝日土曜日です！	日本海のカマイルカ大群等と地震の関係
2	5月11日	NHK	ニュース(正午)	城北ワンドでイタセンパラ稚魚確認
3	5月11日	朝日放送	ニュース(夕方)	城北ワンドでイタセンパラ稚魚確認
4	6月5日	読売テレビ	ZIPスマタン	大阪湾の金太郎いわし

5	6月27日	朝日放送	キャスト(夕方ニュース)	田んぼの生き物観察会
6	6月27日	朝日放送	キャスト(夕方ニュース)	イタセンパラについて
7	7月25日	朝日放送	探偵ナイトスクープ	用水路未知生物(タウナギ)
8	7月29日	朝日放送	キャスト(夕方ニュース)	ニホンウナギ
9	8月1日	毎日放送	TBSニュースNスタ(関東ローカル)	夏場のコイの酸欠死について
10	10月27日	NHK	ニュース(昼)	イタセンパラの出前授業
11	10月30日	NHK	ニュース(夕方)	イタセンパラの保全活動について
12	11月2日	テレビ大阪	男子ごはん	エコテック選定技術製品を琵琶湖環境技術メッセに銀行と共同で出展
13	11月3日	NHK	ニュース(夕方、夜)	大阪ふれあいの水辺地引網調査イベント
14	11月4日	読売テレビ	MONOモノ倶楽部	エコテック選定技術製品を琵琶湖環境技術メッセに銀行と共同で出展
15	11月5日	関西放送	ニュース(14:55-)	キジハタ「あこう」の放流について
16	11月11日	読売テレビ	かんさい情報ネットten(夕方ニュース)	キジハタ「あこう」について
17	11月27日	読売テレビ	ZIPスマタ	東チモールのふるさとの味センク(ユムシ)が食べたい
18	12月18日	毎日放送	TBSひるおび	ケガニ、ズワイガニ、タラバガニについて
19	2月3日	読売テレビ	かんさい情報ネットten(夕方ニュース)	中空培地によるイチゴ栽培について
20	2月4日	ラジオ大阪	ほんまもん原田年晴です	中空培地によるイチゴ栽培について
21	2月9日	NHK	あさいち	松波キャベツの甘さやお好み焼きの科学的データについて
22	2月16日	毎日放送	VOICE	PM2.5のモニタリングについて
23	3月22日	読売テレビ	ザ・鉄腕ダッシュ	マダコの口器

1.1 法人職員が参加した学会・シンポジウム等及び公設試験研究機関等ネットワーク

(実績報告書19ページ)

		名称						
学 会	1	日本応用動物昆虫学会	9	日本食品保蔵科学会	17	日本水産増殖学会	25	日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会
	2	日本農業学会	10	日本水環境学会	18	日本森林学会		
	3	日本土壌肥料学会	11	日本水処理生物学会	19	日本砂丘学会		
	4	日本土壌微生物学会	12	日本生態学会	20	水産海洋学会		
	5	日本ペドロロジー学会	13	日本哺乳類学会	21	大気環境学会		
	6	日本植物病理学会	14	日本藻類学会	22	園芸学会		
	7	日本畜産学会	15	日本陸水学会	23	関西畜産学会		
	8	日本農業作業学会	16	日本水産学会	24	環境微生物系学会合同大会		
シン ポ ジ ウ ム ・ セ ミ ナ ー ・ 研 究 会	1	The Vth International Wildlife Management Congress			31	CRESTシンポジウム 食糧とバイオ材料の品質・生産性の向上を図る樹木・作物技術：新たな緑の革命、グルタチオン農業の実現に向けて		
	2	The North Pacific Marine Science Organization (PICES)			32	第45回北洋研究シンポジウム～北海道周辺海域における最近の気象・海洋環境変化と海洋生物の動向～		
	3	The 3rd Design Symposium on Conservation of Ecosystem(SEASTAR2000)			33	紀伊半島研究会シンポジウム		
	4	13th International Conference on the Biogeochemistry of Trace Elements			34	生物地球化学研究会現地セッション		
	5	9th IWA International Symposium on Waste Management Problems in Agro-Industries			35	環境保全・公害防止研究発表会		
	6	International Conference of Asian Environmental Chemistry			36	関西病虫草害研究会		
	7	Joint Aquatic Sciences Meeting 2014			37	淡水貝類研究会		
	8	近畿中国四国農業試験研究推進会議土壌肥料推進部会問題別研究会			38	エコパス研修会		
	9	近畿土壌肥料研究協議会研究会			39	魚病症例研究会		
	10	関西土壌肥料協議会講演会			40	瀬戸内海環境保全セミナー		
	11	日本水環境学会市民セミナー			41	瀬戸内海研究フォーラム		
	12	インベントリ研究会			42	シンポジウム 沿岸漁業における漁船漁業ビジネスモデル研究会		
	13	土水研究会			43	瀬戸内海の環境保全・創造研究ワークショップ		
	14	関東東海北陸農業試験研究推進会議 関東東海・土壌肥料部会			44	シーフードショー大阪（水産総合研究センターセミナー）		
	15	第3回ナラ枯れ研究会			45	アユ研究会		
	16	全国森林・林業シンポジウム			46	資源海洋研究会		
	17	関西自然保護機構シンポジウム			47	水産海洋学会地域研究集会		
	18	森林総研シンポジウム			48	日本魚類学会市民公開講座		
	19	林業普及指導員近畿ブロックシンポジウム			49	生物多様性協働フォーラム		
	20	紀伊半島研究会シンポジウム			50	外来魚情報交換会		
	21	全農肥料委託試験花き成果研究会			51	にじゅうまるプロジェクト パートナーズ会合		
	22	全農農業参入ビジネスシンポジウム			52	関西自然保護機構シンポジウム（地域自然史と保全研究発表会）		
	23	フラワーEXPO			53	シンポジウム「どうするミドリガメーペットと外来生物の規制のあり方を考えるー」		

	24	日本水環境学会シンポジウム	54	生物多様性協働フォーラム ウナギの未来をつなげよう
	25	全国環境研究所交流シンポジウム	55	関西サイエンスフォーラムシンポジウム
	26	化学物質環境実態調査環境科学セミナー	56	水産多面的機能フォーラム
	27	大気環境セミナー	57	あなご漁業資源研究会
	28	残留農薬分析セミナー	58	うなぎシンポジウム
	29	農林害虫防除研究会	59	稚魚研究会
	30	天敵利用研究会		
公設試等ネットワーク	1	全国環境研協議会	14	水産試験場長会瀬戸内ブロック会議
	2	地方公共団体環境試験研究機関等所長会議	15	瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議
	3	瀬戸内海水環境研究会	16	瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議増養殖部会オニオコゼ研究会
	4	東海近畿地区農薬残留分析担当者会議	17	瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議増養殖部会キジハタ分科会
	5	全国農業関係試験研究場所長会	18	栽培漁業ブロック会議（西ブロック）
	6	全国林業関係試験研究機関場所長会議	19	瀬戸内海・四国ブロック魚病検討会
	7	全国林業関係試験研究機関協議会	20	近畿産業ネットワーク「水産部会交流会」
	8	近畿中国四国農業試験研究推進会議	21	南海・瀬戸内海洋調査技術連絡会
	9	林業研究・技術開発推進近畿・中国ブロック会議	22	近畿中国四国ブロック内水面魚類防疫検討会
	10	関西地区林業試験研究機関連絡協議会	23	全国養殖衛生管理推進会議
	11	土壌保全調査事業全国協議会	24	東海・近畿・北陸ブロック畜産関係場所長会議
	12	関西土壌肥料協議会	25	全国水産試験場場長会
	13	近畿土壌肥料研究協議会		

12 調査研究関係業務一覧(実績報告書20ページ)

※研究課題の分野は、中期計画・年度計画に記載された研究分野の区分。“調査研究”は技術支援の基盤となる調査研究。
なお、依頼試験はこの表に含んでいない。

分類	No.	事業・研究課題名称	研究課題の分野	資金分類
環境	1	PM2.5の短期的/長期的環境基準超過をもたらす汚染機構の解明	新たな研究分野	運営費交付金
	2	ライダー観測データを用いた大気環境の調査	新たな研究分野	運営費交付金
	3	国内における化審法関連物質の排出源及び動態の解明	新たな研究分野	運営費交付金
	4	生物多様性分野の環境教育における研究成果・施設の活用	新たな研究分野	運営費交付金
	5	酸性沈着に関する調査研究	調査研究	運営費交付金
	6	粒子状物質調査	調査研究	運営費交付金
	7	光化学オキシダント生成物質の挙動に関する研究	調査研究	運営費交付金
	8	府特産農産物に適応した対象農薬拡大のための農薬分析高度化技術の確立	調査研究	運営費交付金
	9	寝屋川水域における浄化浚渫の水質改善に関する実証試験	調査研究	運営費交付金
	10	有害化学物質濃度と排出量データ等の解析	調査研究	運営費交付金
	11	ジオキサン等汚染物質の低減対策検討	調査研究	運営費交付金
	12	マイナー作物農薬登録拡大事業	調査研究	運営費交付金
	13	農空間整備事業に係る水質・土壌調査	調査研究	運営費交付金
	14	異常水質事故の原因究明手法の確立	調査研究	運営費交付金
	15	外来生物対策調査業務	調査研究	運営費交付金
	16	ため池における外来生物の駆除技術の確立と駆除支援	調査研究	運営費交付金
	17	希少魚の保護増殖試験	調査研究	運営費交付金
	18	淡水生物増殖試験	調査研究	運営費交付金
	19	化学物質環境実態調査	新たな研究分野	府委託
	20	ヒートアイランド対策における緑化手法検討委託	調査研究	府委託
	21	大阪エコ農産物および直売所での農産物の安全・安心確保に向けた残留農薬検査	調査研究	府委託
	22	生物多様性研修用プログラムの開発	新たな研究分野	府委託
	23	生物多様性保全活動ガイドライン作成業務	新たな研究分野	府委託
	24	海域の難分解性有機化合物の特性と挙動の解明	重点研究分野	外部資金
	25	全国の環境研究機関の有機的連携によるPM2.5の実態解明と発生源寄与評価に関する研究	新たな研究分野	外部資金
	26	農薬残留対策調査事業	調査研究	外部資金
	27	管理型廃棄物最終処分場の調整池における窒素低減技術に関する研究	調査研究	外部資金
	28	淀川流域の希少在来魚の保護に関する調査研究	調査研究	外部資金
	29	淀川における外来水生生物の生態調査研究	調査研究	外部資金
	30	淀川魚類資源動態調査	調査研究	外部資金

環境	31	イシガイ類寄生虫実態調査	調査研究	外部資金
	32	河川農薬サンプリング	調査研究	外部資金
	33	彩都の生物多様性基礎調査並びに普及啓発支援	新たな研究分野	外部資金(民間受託)
	34	ワンドタナゴ類仔稚魚調査	新たな研究分野	外部資金(民間受託)
農林畜産・食品	35	シカ・イノシシのモニタリング調査	調査研究	運営費交付金
	36	特産花きの省エネルギー開花調節技術の確立	調査研究	運営費交付金
	37	発酵飼料の給与法改善による乳牛の生産性向上	調査研究	運営費交付金
	38	乳牛のストレスに関する研究	調査研究	運営費交付金
	39	スギ・ヒノキ花粉発生源地域推定事業	調査研究	運営費交付金
	40	間伐等実施林分モニタリング調査	調査研究	運営費交付金
	41	衛星画像による緑被率の調査	調査研究	運営費交付金
	42	水なす漬物の色落ち防止策の検討	新たな研究分野	運営費交付金
	43	八尾若ごぼうの加工品開発	新たな研究分野	運営費交付金
	44	紅たでを利用した加工品開発	新たな研究分野	運営費交付金
	45	超甘にんじん「彩誉ブレッド、彩誉パウンドケーキ、彩誉クッキー」の開発(大阪産(もん)チャレンジ支援事業)	新たな研究分野	運営費交付金
	46	南河内スイーツの開発(大阪産(もん)チャレンジ支援事業)	新たな研究分野	運営費交付金
	47	水ナスカクテルシロップの開発(大阪産(もん)チャレンジ支援事業)	新たな研究分野	運営費交付金
	48	「カリカリ茄子・胡瓜」の開発(大阪産(もん)チャレンジ支援事業)	新たな研究分野	運営費交付金
	49	「デラジュレ」の開発(大阪産(もん)チャレンジ支援事業)	新たな研究分野	運営費交付金
	50	6次産業化関連事業における技術支援	新たな研究分野	運営費交付金
	51	「なにわの伝統野菜」の新作型の開発	調査研究	運営費交付金
	52	地球温暖化による施設栽培の夏季高温対策技術の確立	調査研究	運営費交付金
	53	販売形態の多様化に対応した果樹の栽培管理技術の開発	調査研究	運営費交付金
	54	水稲作況調査事業	調査研究	運営費交付金
	55	水稲の高温登熟障害対策	調査研究	運営費交付金
	56	酸性雨モニタリング(土壌・植生)調査	調査研究	府委託
	57	ナラ枯れ被害跡地の実態調査	調査研究	府委託
	58	放置竹林の樹種転換のための基礎調査	調査研究	府委託
	59	発生予察支援業務	重点研究分野	府委託
	60	大阪エコ農業推進研究(IPM普及推進事業)	重点研究分野	府委託
	61	大阪エコ農業推進研究(天敵・フェロモン等活用型防除技術)	重点研究分野	府委託
	62	大阪エコ農業推進研究(基幹的マイナー作物病害虫防除技術体系化緊急確立)	重点研究分野	府委託
	63	葉菜類エコ農産物等安定生産対策事業(安全性向上措置の検証・普及のうち食品の安全性向上措置の検証)	重点研究分野	府委託

農林畜産・食品

64	水稲採種事業における原原種及び原種生産業務	調査研究	府委託
65	安全安心な特産農産物生産を目指した総合的作物管理(ICM)技術	調査研究	府補助金
66	青果物に対するアルゴンガスプラズマとカテキンの殺菌・静菌効果	新たな研究分野	目的積立金
67	イチジク栽培におけるソーラーシェアリングの可能性調査	調査研究	目的積立金
68	短時間紫外線(UV-B)照射がブドウの果皮アントシアニン蓄積に及ぼす影響	調査研究	目的積立金
69	膜濃縮を用いた湿潤バイオマス的高速処理技術	重点研究分野	目的積立金
70	牛用腸溶性生菌剤カプセルが牛の腸内細菌相に与える影響	調査研究	目的積立金
71	地域資源を活用した発酵完全混合飼料開発	重点研究分野	外部資金
72	人為的な生息地攪乱がもたらすシカ被害強度変動パターンの解明	調査研究	外部資金
73	高齢・障がい者など多様な主体の農業参入支援技術の開発	調査研究	外部資金
74	花き日持ち性向上対策実証事業	調査研究	外部資金
75	牛血中成分による胎子の性別判別	調査研究	外部資金
76	新農薬実用化試験	重点研究分野	外部資金
77	施設園芸作業の省力・軽労化アシストシステムの開発	重点研究分野	外部資金
78	発生予察事業の調査実施基準の新規手法策定事業	重点研究分野	外部資金
79	薬剤を用いない農産物の殺菌・消毒法の開発	重点研究分野	外部資金
80	クリの燻蒸処理から脱却するクリシギゾウムシ防除技術の開発	重点研究分野	外部資金
81	ゲノム情報等を活用した薬剤抵抗性管理技術の開発	重点研究分野	外部資金
82	水ナス果実の空洞果判別技術の開発	重点研究分野	外部資金
83	豚ふん中の有用資源を循環利用する事業モデルの構築	調査研究	外部資金
84	土壌有害化学物質のリスク管理措置の検証	調査研究	外部資金
85	農地管理実態調査	調査研究	外部資金
86	水稲におけるヒ素リスクを低減する栽培管理技術の開発	調査研究	外部資金
87	農地土壌温室効果ガス排出量算定基礎調査事業	調査研究	外部資金
88	地域間連携による低投入型・高収益施設野菜生産技術体系の実証	調査研究	外部資金
89	乳酸菌添加発酵飼料の包装と給与に関する試験	調査研究	外部資金(民間受託)
90	野菜・花き栽培における肥培管理技術の確立試験	調査研究	外部資金(民間受託)
91	新規有用菌の野菜類土壌病害に対する防除効果の検証	重点研究分野	外部資金(民間受託)
92	災害時保存食に関する産学連携商品開発	新たな研究分野	外部資金(民間受託)
93	水稲新奨励品種有望系統調査	調査研究	外部資金(民間受託)
94	容器・資材の組み合わせによる野菜鮮度保持効果の比較	調査研究	外部資金(民間受託)
95	省力施肥および省力肥料の技術普及の確立	調査研究	外部資金(民間受託)
96	昆布加工品の開発	新たな研究分野	外部資金(民間受託)

農 林 畜 産	97	夏季の野菜冷却栽培に関する研究	調査研究	外部資金(民間受託)
	98	養液栽培の防藻に関する技術開発	調査研究	外部資金(民間受託)
	99	新資材等を利用した家禽免疫増強効果	調査研究	外部資金(民間受託)
	100	新植物調節剤実用化試験	調査研究	外部資金(民間受託)
水 産	101	府民の食と安全を守る海洋環境・資源総合調査(イカナゴ漁況予報・漁況調査)	調査研究	運営費交付金
	102	栽培漁業技術開発事業(キジハタ)	調査研究	運営費交付金
	103	資源回復計画推進事業(マコガレイ)	調査研究	運営費交付金
	104	府民の食と安全を守る海洋環境・資源総合調査(水質監視調査)	調査研究	運営費交付金
	105	府民の食と安全を守る海洋環境・資源総合調査(有害有毒プランクトン発生監視調査)	調査研究	運営費交付金
	106	府民の食と安全を守る海洋環境・資源総合調査(気象・海象の定置観測)	調査研究	運営費交付金
	107	府民の食と安全を守る海洋環境・資源総合調査(イワシ類漁況予報)	調査研究	運営費交付金
	108	生物モニタリング調査(海域G資源・海域等調査・研究・監視業務)	調査研究	運営費交付金
	109	漁場環境保全対策推進事業(芥川における水生生物モニタリング事業)	調査研究	運営費交付金
	110	アマモ場造成支援事業	調査研究	運営費交付金
	111	藻類養殖指導	調査研究	運営費交付金
	112	漁業権河川における河川調査	調査研究	運営費交付金
	113	増殖場効果調査	調査研究	府委託
	114	漁場環境保全対策推進事業(コイヘルペスウイルス病モニタリング調査)	調査研究	府委託
	115	魚類防疫体制整備事業	調査研究	府委託
	116	安威川魚類資源保全対策事業	調査研究	府委託
	117	キジハタのブランド化に関する調査研究	新たな研究分野	目的積立金
	118	淀川水系の魚類に発生した疾病の調査研究	調査研究	外部資金
	119	サワラ資源回復計画推進事業(栽培漁業試験費・資源造成支援事業)	調査研究	外部資金
	120	大阪湾産シャコの漁獲量減少と環境変化に関する調査(資源状況等効果調査)	重点研究分野	外部資金
	121	陸起源有機物の影響を考慮した大阪湾底質の類型化と底生動物分布との関係に関する研究	重点研究分野	外部資金
	122	生態系ネットワーク修復による持続的な沿岸漁業生産技術の開発(カレイ類)	重点研究分野	外部資金
	123	新たなノリ色落ち対策技術開発(沿岸海域の栄養塩管理技術の開発事業)	重点研究分野	外部資金
	124	微生物相に基づく漁業被害の発生予測・抑制技術の開発	重点研究分野	外部資金
	125	瀬戸内海等での有害赤潮発生機構解明と予察・被害防止等技術開発	重点研究分野	外部資金
	126	貝毒リスク管理措置の見直しに向けた研究	重点研究分野	外部資金
	127	東部瀬戸内海における植物プランクトン群集の基礎生産力とその1960年代からの変化	重点研究分野	外部資金
	128	環境研究総合推進費事業	重点研究分野	外部資金
	129	資源管理型漁業推進事業(資源状況等効果調査+海域G資源・海域等調査・研究・監視業務)	調査研究	外部資金

水産	130	栽培漁業センター指導事業	調査研究	外部資金
	131	資源評価調査	調査研究	外部資金
	132	浅海定線調査(資源状況等効果調査)	調査研究	外部資金
	133	資源評価調査(イワシ類)	調査研究	外部資金
	134	ウイルスと海洋生物多様性に関する研究	調査研究	外部資金
	135	魚類の種苗が好む魚礁の構造と明度条件の評価	調査研究	外部資金(民間受託)

13 学術論文及び学会発表等一覧（実績報告書20ページ）

※ 研究区分の“重点”“新”“基盤”は、中期計画の重点研究分野、新たな研究分野、技術支援の基盤となる調査研究を示す。

(1) 論文(職員が第一著者の論文; アンダーラインが法人職員)

No.	論文	掲載誌	著者	研究区分	分類	
					第1	第2
1	Seed disinfection effect of atmospheric pressure plasma and low pressure plasma on <i>Rhizoctonia solani</i>	Biocontrol Science	<u>西岡輝美</u> ・高井雄一郎・瓦谷光男・岡田清嗣・谷本秀夫・草刈眞一・ほか1名	重点	農水	農林
2	ナスへの赤色LED照射がミナミキイロアザミウマの生息密度に及ぼす影響	日本応用動物昆虫学会誌	<u>柴尾 学</u> ・田中 寛	重点	農水	農林
3	天敵糸状菌(メタリジウム粒剤)の利用による施設ナス・キュウリの微小害虫の防除	日本農薬学会誌	<u>柴尾 学</u>	重点	農水	農林
4	ブドウにおけるブドウヒメハダニの発生状況と薬剤殺虫効果	関西病虫害研究会報	<u>柴尾 学</u> ・細見彰洋・田中寛	重点	農水	農林
5	大阪府内の4地域から採集したミナミキイロアザミウマに対する各種薬剤の殺虫効果	関西病虫害研究会報	<u>濱崎健児</u> ・ <u>柴尾 学</u> ・田中寛	重点	農水	農林
6	メタリジウム粒剤に対する各種薬剤の影響	関西病虫害研究会報	<u>城塚可奈子</u> ・ <u>濱崎健児</u> ・ <u>山中 聡</u> ・ <u>柴尾 学</u> ・ <u>岡田清嗣</u>	重点	農水	農林
7	ミナミキイロアザミウマ1齢幼虫に対する簡易な薬剤検定手法	関西病虫害研究会報	<u>浜崎健児</u> ・ <u>城塚可奈子</u> ・ <u>柴尾 学</u>	重点	農水	農林
8	パルス燃焼式乾燥された乳酸菌の生存性に対する抗酸化剤の効果	低温生物工学会誌	<u>平康 博章</u> ・ <u>因野 要一</u> ・ <u>西村 和彦</u>	重点	農水	畜産
9	淀川淡水域における魚類相の現状	地域自然史と保全	<u>内藤 馨</u> ・ <u>石橋 亮</u> ・ <u>金丸善紀</u> ・ <u>宮下敏夫</u>	新	環境	自然
10	Population dynamics and reproductive biology of the mysid <i>Orientomysis japonica</i> in Tango Bay, Japan	Plankton and Benthos Research	<u>Satoshi Akiyama</u> , <u>Masahiro Ueno</u> , <u>Yoh Yamashita</u>	基盤	農水	水産
11	Characteristics of man-made soils of greenhouse fields in urban areas, Osaka Prefecture, Japan	Soil Science and Plant Nutrition	<u>佐野修司</u> ・ <u>金剛穂波</u> ・ <u>内山知二</u>	基盤	農水	農林
12	Shoot growth and fruit production of 'Masui Dauphine' variety of fig (<i>Ficus carica</i> L.) undergoing renewal long pruning	Japan Agricultural Research Quarterly	<u>細見彰洋</u> ・ <u>磯部武志</u> ・ <u>三輪由佳</u>	基盤	農水	農林
13	イチジク緑枝接ぎ苗の当年育成に向けた台木および穂木の好適採穂条件	園芸学研究	<u>細見彰洋</u> ・ <u>三輪由佳</u> ・ <u>磯部武志</u>	基盤	農水	農林
14	関西国際空港の一期島と二期島におけるトノサマバッタの大発生と管理	関西病虫害研究会報	<u>田中寛</u> ・ <u>保田淑郎</u> ・ <u>柴尾学</u>	基盤	農水	農林

(2) 論文(職員が共著のもの; アンダーラインが法人職員)

No.	論文	掲載誌	著者	研究区分	分類	
					第1	第2
1	シロナ根こぶ病に対するアミスルブロン粉剤と土壌改良資材でんろ苦土石灰の防除効果	関西病虫害研究会報	<u>川崎佑子</u> ・ <u>角田美由紀</u> ・ <u>西岡輝美</u> ・ <u>佐野修司</u> ・ <u>瓦谷光男</u> ・ <u>岡田清嗣</u>	重点	農水	農林
2	大阪湾, 2013年の底層環境—主成分分析による水域区分と既往調査との比較—	日本水産学会誌	<u>横山 寿</u> ・ <u>佐野雅基</u>	重点	農水	水産
3	瀬戸内海東部海域の栄養塩低下とその低次生産過程への影響	沿岸海洋研究	<u>多田邦尚</u> ・ <u>西川哲也</u> ・ <u>樽谷賢治</u> ・ <u>山本圭吾</u> ・ <u>一見和彦</u> ・ <u>山口一岩</u> ・ <u>本城凡夫</u>	重点	農水	水産
4	Species composition of <i>Skeletonema</i> (Bacillariophyceae) in plankton and resting-stage cells in Osaka and Tokyo Bays	Plankton and Benthos Research	<u>Tamada M.</u> , <u>Uchida M.</u> , <u>Kodama M.</u> , <u>Yamamoto K.</u> , <u>Nishikawa T.</u> , <u>Ichimi K.</u> , <u>Tada K.</u> and <u>P. J.</u>	重点	農水	水産

5	Effective spatial scales for evaluating environmental determinants of population density in Yakushima macaques	American Journal of Primatology	揚妻直樹・幸田良介・辻野亮・揚妻一柳原芳美	新	環境	自然
6	Capitulum and rosette leaf avoidance of Taraxacum from grazing by large herbivores	Ecological Research	藤田昇・幸田良介	新	環境	自然
7	Phylogenetic relationships of Acheilognathidae (Cypriniformes: Cyprinoidea) as revealed from evidence of both nuclear and mitochondrial gene sequence variation: Evidence for necessary taxonomic revision in the family and the identification of cryptic species	Molecular phylogenetics and evolution	Chang CH, Li F, Shao KT, Lin YS, Morosawa T, Kim S, Koo H, Kim W, Lee JS, He S, Smith C, Reichard M, Miya M, Sado T, Uehara K, Lavoué S, Chen WJ, Mayden RL.	新	環境	自然
8	Canal type affects invasiveness of the apple snail Pomacea canaliculata through its effects on animal species richness and waterweed invasion	Biological Invasions	Akiko Hara・Kenji Hamasaki・Kazuhiro Yoshida・Yoichi Yusa	新	環境	自然
9	Seasonal dynamics of culturable thraustochytrids (Labyrinthulomycetes, Stramenopiles) in estuarine and coastal waters	AQUATIC MICROBIAL ECOLOGY	Mayumi Ueda, Yuka Nomura, Kosaku Doi, Masaki Nakajima, Daisuke Honda	基盤	環境	自然
10	Growth, reproduction and ontogenetic migration of the greasyback shrimp Metapenaeus ensis in Osaka Bay, Japan	Plankton and Benthos Research	Hiroyuki Ariyama	基盤	環境	自然
11	The life cycle and molecular phylogeny of a gorgoderid trematode recorded from the mussel Nodularia douglasiae in the Yodo River, Japan	日本寄生虫学会誌	浦部美佐子・石橋 亮・上原一彦	基盤	環境	自然
12	Investigation of routes of Salmonella contamination via soils and the use of mulch for contamination control during lettuce cultivation	Food science and Technology Research	Kenichi Honjoh, Tomoko Mishima, Nozomi Kido, Misako Shimamoto and Takahisa Miyamoto	基盤	農水	食品
13	Annual variation in otolith increment widths of walleye pollock(Gadus chalcogrammus) larvae in Funka Bay, Hokkaido, Japan	Fisheries Oceanography	Yota Kano, Tetsuya Takatsu, Yutaro Hashimoto, Yuta Inagaki, Toshikuni Nakatani	基盤	農水	水産
14	和歌山県の河川における面源汚染の実態	E-journal GEO (日本地理学会電子ジャーナル)	熊木雅代・山田 誠・浜崎健児・高村仁知・高田将志・和田恵次	基盤	環境	自然

(3) 学会発表(アンダーラインが法人職員)

No.	タイトル	学会	発表者	研究	分類	
				区分	第1	第2
1	水ナスにおける褐紋病の発生とその防除	日本植物病理学会関西支部会	西岡輝美・瓦谷光男・谷川典宏・岡田清嗣	重点	農水	農林
2	大阪府内の4地域から採集したミナミキイロアザミウマに対する各種薬剤の殺虫効果	関西病虫害研究会大会	濱崎健児・柴尾 学・田中寛	重点	農水	農林
3	ミカンハダニとコウズケカブリダニの葉における表裏分布	農林害虫防除研究会	城塚可奈子・矢野修一	重点	農水	農林
4	中空培地の移動性を利用したイチゴの省スペース直接採苗	園芸学会秋期大会	内山知二・森川信也・金剛穂波	重点	農水	農林
5	真砂土への土壌かん注による液状魚かすの臭気軽減と無機化特性	日本砂丘学会全国大会	磯部武志・三輪由佳・内山知二・遠藤常嘉	重点	農水	農林
6	メタリジウム粒剤における殺菌剤および殺虫剤の影響	天敵利用研究会大会	城塚可奈子・柴尾学・岡田清嗣	重点	農水	農林
7	ミナミキイロアザミウマ幼虫に対する殺虫剤の検定手法の検討	日本応用動物昆虫学会中国支部例会	濱崎健児・柴尾 学	重点	農水	農林
8	メタン発酵消化液および液状魚かす肥料の施用方法の違いが幼植物生育に及ぼす影響	日本土壌肥料学会関西支部会	金剛穂波・内山知二・佐野修司・磯部武志・遠藤常嘉	重点	農水	農林
9	ナスへの赤色LED照射がミナミキイロアザミウマの生息密度に及ぼす影響	日本応用動物昆虫学会大会	柴尾 学・城塚可奈子・田中寛	重点	農水	農林

10	ミナミキイロアザミウマ幼虫に対する簡易な薬剤検定手法の有効性	日本応用動物昆虫学会	濱崎健児・城塚可奈子・柴尾 学	重点	農水	農林
11	牛ふん堆肥の長期施用による施設栽培シロネの生産性向上	園芸学会春季大会	佐野修司・木村良仁・金剛穂波・内山知二	重点	農水	農林
12	ミナミキイロアザミウマ1齢幼虫に対する簡易な薬剤検定手法	関西病虫害研究会大会	濱崎健児・城塚可奈子・柴尾 学	重点	農水	農林
13	Removal of ammonia from aqueous solution for swine wastewater with swine manure compost-based char	50 9th IWA International Symposium on Waste Management Problems in Agro-Industries	Y. Dote, T. Sekito, K. Ueda, R. Sakamoto, I. Suzuki, S. Sano	重点	農水	農林
14	玄米によるNFC補充が発酵TMRを摂取した乳牛の窒素利用性に及ぼす影響	日本畜産学会大会	吉田 弦・平康博章・瀬山智博・笠井浩司・田淵雅彦・藤谷泰裕	重点	農水	畜産
15	Development of a Technology for Recovering Resource from Livestock waste	9th IWA International Symposium on Waste Management Problems in Agro-Industries	J. Kabaya, K. Ueda, R. Sakamoto, M. Tokuo, I. Suzuki, S. Sano, T. Sekito, Y. Dote	重点	農水	畜産
16	Development of A Technology for Recovering Resources from Livestock Waste	International Conference of Asian Environmental Chemistry	K. Ueda, R. Sakamoto, J. Kabaya, I. Suzuki, S. Sano, T. Sekito, Y. Dote	重点	農水	畜産
17	夜間を利用した発酵TMR給与による暑熱期の乳生産性改善	日本畜産学会第119回大会	平康博章・瀬山智博・笠井浩司・林田耕一・藤谷泰裕	重点	農水	畜産
18	デンブンの添加が発酵TMRの窒素利用性に及ぼす影響	関西畜産学会大会	吉田 弦・瀬山智博・平康博章・笠井浩司・田淵雅彦・藤谷泰裕	重点	農水	畜産
19	瀬戸内海の窒素・リンの動態について～大阪湾を中心として～	水産海洋学会 地域研究集会	中嶋昌紀・山本圭吾・佐野雅基・秋山 諭	重点	農水	水産
20	大阪湾東部海域におけるマクロベントスのβ多様性の季節間変動に影響する環境要因	日本水産学会春季大会	秋山 諭・鍋島靖信	重点	農水	水産
21	東部瀬戸内海における基礎生産	日本生態学会大会	安佛かおり・笠井亮秀・一見和彦・山口一岩・大美博昭・秋山 諭・宮原一隆・山本昌幸	重点	農水	水産
22	Changes of Fishery Resources in Relation to Water Environments in Osaka Bay	The 3rd Design Symposium on Conservation of Ecosystem(SEASTAR2000)	中嶋昌紀・樽谷賢治・矢持 進	重点	農水	水産
23	大阪湾に流入する河川水および海域に含まれる難分解性有機窒素化合物	日本陸水学会大会	相子伸之・矢吹芳教・中嶋昌紀・吉田光方子	重点	農水	水産
24	大阪湾北東海域におけるキジハタの放流効果	日本水産増殖学会大会	辻村浩隆	重点	農水	水産
25	大阪湾における海域の類型化と底生動物相の変化	日本水産増殖学会大会	佐野雅基・大美博昭・横山 寿	重点	農水	水産
26	大阪湾, 2013年の底層環境—主成分分析による水域区分と既往調査との比較—	日本水産学会秋季大会	佐野雅基・横山 寿	重点	農水	水産
27	東海・近畿地域におけるPM 2.5 高濃度事象の要因について	大気環境学会年会	山本勝彦・西村理恵	新	環境	環境
28	大阪府域におけるPM2.5高濃度日の特徴について	環境保全・公害防止研究発表会	西村理恵・多々野秀二・山本勝彦・下川紗世・福山由依子・西村香織	新	環境	環境
29	大阪府におけるアライグマ, ヌートリア, ハクビシンの分布拡大状況	関西自然保護機構大会	幸田良介	新	環境	自然
30	大阪府におけるシカの昔と今～保護対象から管理対象へ～	紀伊半島研究会シンポジウム	幸田良介	新	環境	自然
31	大阪府におけるニホンジカの生息密度分布と頭数推定・糞塊除去法による試み	日本生態学会大会	幸田良介・小林徹哉・辻野智之	新	環境	自然
32	大阪府泉南地域で分布拡大している国内外来種アオモジの初期成長特性	関西自然保護機構大会	上森真広・奥田史郎・幸田良介	新	環境	自然

33	淀川流域における外来魚類の分布状況	関西自然保護機構2015年度大会	川瀬成吾・石橋 亮・内藤 馨・山本義彦・鶴田哲也・田中和大・木村亮太・小	新	環境	自然
34	企業と連携した絶滅危惧種保護の取り組み	関西自然保護機構2015年度大会	山本義彦・上原一彦	新	環境	自然
35	ヌマエビ類と体表共生性ヒルミズ類の分布と両者の関係	日本生態学会大会	田中薫子・和田恵次・浜崎健児	新	環境	自然
36	特定外来生物・アライグマの食性把握に向けた試み-安定同位体情報($\delta^{13}C$, $\delta^{15}N$ 値)の活用-	日本生態学会近畿地区会総会	幸田良介・原口 岳	新	環境	自然
37	大阪府内を流下する石川流域におけるPOCISを用いた河川農薬モニタリング	日本陸水学会大会	矢吹芳教・相子伸之・永井孝志・稲生圭哉	基盤	環境	自然
38	アカガイにおける麻痺性貝毒の部位別分布	日本水産学会秋季大会	山本圭吾・吉田貴子・及川寛・川津健太郎	基盤	農水	水産
39	瀬戸内海におけるサワラ資源回復の試み・大阪府での取組	「瀬戸内海研究フォーラムin和歌山」	睦谷一馬	基盤	農水	水産
40	大阪湾産ヨシエビの成長・成熟・移動について	日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会	有山啓之・佐野雅基	基盤	農水	水産
41	液状有機資材を用いた土壌灌注の作業性とその効果	農業作業学会春季大会	内山知二・磯部武志・三輪由佳・佐野修司・宮本拓磨	基盤	農水	農林
42	砂質樹園地で発生した果実肥大期のブドウ葉黄化症状-ミイラ葉(仮称)の原因調査-	日本砂丘学会第60回全国大会	三輪由佳・磯部武志・瓦谷光男・内山知二	基盤	農水	農林
43	塩類集積土壌でのろろ苦土石灰によるpH調整での留意点	日本砂丘学会全国大会	佐野修司・小坂吉則・内山知二・森岡こころ	基盤	農水	農林
44	自然熱エネルギーを利用した根域温度制御と有機肥培管理による砂ベッド栽培システムの開発	日本砂丘学会全国大会	金剛穂波・遠藤常嘉・山本定博	基盤	農水	農林
45	難溶性画分を考慮した大阪府農地土壌のリン酸の形態別賦存量の評価	日本土壌肥料学会大会	内山知二・佐野修司・金剛穂波	基盤	農水	農林
46	豚ふん堆肥炭化物の速効性有機質リン酸肥料としての利用	園芸学会秋季大会	鈴木敏征・佐野修司	基盤	農水	農林
47	難溶性画分を考慮した大阪府農地土壌の養分塩基の形態別賦存量の評価	日本土壌肥料学会大会	金剛穂波・佐野修司・内山知二	基盤	農水	農林
48	難溶性画分を考慮した大阪府農地土壌の窒素および炭素の形態別賦存量の評価	日本土壌肥料学会大会	佐野修司・内山知二	基盤	農水	農林
49	ブドウ波状型ハウスの天井面換気装置の開発	園芸学会近畿支部大会	森川信也・磯部武志・三輪由佳	基盤	農水	農林
50	環状はく皮および透明果実袋が‘巨峰’および‘クイーンニーナ’の着色に及ぼす影響	園芸学会近畿支部大会	三輪由佳・磯部武志	基盤	農水	農林
51	補正した棚下相対照度によるブドウ‘デラウェア’の葉面積指数(LAI)の推定	園芸学会近畿支部大会	森川信也・三輪由佳・磯部武志・細見彰洋	基盤	農水	農林
52	中空培地を利用した培地交換をしないトマトの連続栽培(1)腋芽の直接挿しによるトマト植え付け法の有効性	園芸学会近畿支部会	内山知二・森川信也・金剛穂波	基盤	農水	農林
53	ジベレリン処理方法の違いがブドウ‘シャインマスカット’の果皮色の推移に及ぼす影響	園芸学会秋季大会	三輪由佳・磯部武志・朝倉小夜子	基盤	農水	農林
54	屋久島照葉樹林におけるヤクシカ生息密度と採食圧	日本哺乳類学会大会	幸田良介	基盤	環境	自然
55	寝屋川流域における水質汚濁の現状と対策について	環境保全・公害防止研究発表会	小野純子・矢吹 芳教・辻野 咲季・小西 弘和・田淵敬一・水嶋 正伸	基盤	環境	環境

56	管理型廃棄物最終処分場の浸出水調整池底泥のアナモックス活性	日本水処理生物学会大会	相子伸之・矢吹芳教・平大輔・中村知喬・諏訪裕一	基盤	環境	環境
57	Long-term Trends of Red Tides by Eutrophication and Toxic Blooms by Oligotrophication in the Seto Inland Sea of Japan	The North Pacific Marine Science Organization (PICES)	今井一郎・夏池真史・山本圭吾・西川哲也・長井敏	基盤	農水	水産
58	Ecological Study of Fungoid Protists, Thraustochytrids (Labyrinthulomycetes, Stramenopiles)	Joint Aquatic Sciences Meeting 2014	中嶋昌紀・上田真由美・土井耕作・本多大輔	基盤	農水	水産
59	沿岸域の継続的な定点調査による菌様原生生物ラビリンチュラ類の生態学的調査	環境微生物系学会合同大会	中嶋昌紀・上田真由美・土井耕作・本多大輔	基盤	農水	水産
60	大阪湾におけるメイタガレイの分布とその季節変化	日本水産学近畿支部例会	大美 博昭・辻村 浩隆・稲垣 祐太	基盤	農水	水産
61	淀川感潮域におけるアユ仔稚魚の出現状況	日本水産学会近畿支部例会	大美博昭・日下部敬之	基盤	農水	水産
62	刺網の操業実態から推定されたイヌノシタ Cynoglossus robustusの産卵生態	2014年度稚魚研究会	日下部敬之	基盤	農水	水産
63	由良川河口から丹後海における基礎生産構造	2014年度生物地球化学研究会現地セッション	安佛かおり・舟橋達宏・渡辺謙太・秋山諭・上野正博・笠井亮秀	基盤	農水	水産
64	収穫期の土壌水分管理によるエダマメのカドミウム吸収抑制	日本土壌肥料学会関西支部会	佐野修司・内山知二	基盤	農水	農林
65	主枝高設樹形イチジク‘榊井ドーフィン’での主枝更新剪定と結果枝水平誘引の併用効果	園芸学会春季大会	細見彰洋・磯部武志・三輪由佳	基盤	農水	農林
66	太陽電池パネルの設置がイチジクの収量・品質に及ぼす影響	園芸学会春季大会	磯部武志・森川信也・三輪由佳	基盤	農水	農林
67	大阪府におけるナラ枯れ被害の現状について	日本森林学会	小林徹哉・上森真広・辻野智之	基盤	農水	農林
68	小房化のための房管理法の違いがブドウ‘シャインマスカット’の果実品質に及ぼす影響	園芸学会春季大会	三輪由佳・磯部武志	基盤	農水	農林
69	イチジクにおけるアザミウマ類の発生消長及び果実内虫数と被害程度との関係	日本応用動物昆虫学会	城塚可奈子・磯部武志・三輪由佳・柴尾 学	基盤	農水	農林
70	ウシ用腸溶性カプセルの開発	日本畜産学会大会	瀬山智博・足立卓彦・平康博章・杉本敬之・笠井浩司	基盤	農水	農林
71	関西国際空港の一期島と二期島におけるトノサマバッタの大発生と管理	関西病虫害研究会大会	田中寛・保田淑郎・柴尾学	基盤	農水	農林
72	中空培地を用いた無育苗栽培での採株時期がイチゴの開花に及ぼす影響	園芸学会春期大会	内山知二・宮本拓磨・森川信也・金剛穂波	基盤	農水	農林
73	カシノナガキクイムシ捕獲トラップを用いた防除の事例紹介	関西自然保護機構大会	小林徹哉・安田 晃・幸田良介	基盤	農水	農林
74	タンポポの花茎とロゼット葉の倒伏は何のためか～大型草食獣の摂食からの逃避～	日本生態学会大会	藤田昇・幸田良介	基盤	環境	自然
75	管理型廃棄物処分場浸出水調整池の池水の好気化が底泥のアナモックス活性に及ぼす影響	日本水環境学会年会	相子伸之・矢吹芳教・平大輔・中村知喬・諏訪裕一	基盤	環境	環境
76	生息地域の異なるカワシンジュガイの成長量の比較	淡水貝類研究会	近藤美麻・黒田沙織・伊藤健吾・岸 大弼・秋山吉寛・近藤高貴	基盤	環境	自然
77	次世代シーケンサーを用いた道の海洋細菌-ウイルス感染系の推定	日本水産学会春季大会	綿井博康・本田貴史・山本圭吾・緒方博之・五斗進・西村洋介・左古芳彦・吉田天士	基盤	農水	水産

78	2014年に大阪湾で毒化した二枚貝のPSP組成	日本水産学会秋季大会	西尾幸郎・江戸梢・橋本多美子・山本圭吾	基盤	農水	水産
79	沿岸複合生態系の構造と資源生物生産機能-4 スズキ稚魚による丹後海複合生態系の利用	日本水産学会春季大会	山下洋・笠井亮秀・富士泰期・秋山 諭・渡辺謙太・上野正博・鈴木啓太	基盤	農水	水産
80	大阪湾におけるマコガレイの成長率と生残率の関係	水産海洋学会研究発表大会	稲垣祐太・辻村浩隆・大美博昭	基盤	農水	水産
81	ラビリンチュラ類の定点調査から明らかになった系統群ごとの季節的消長と海洋生態系への影響	日本藻類学会	上田真由美・野村友佳・土井耕作・柿本結生・中嶋昌紀・本多大輔	基盤	農水	水産
82	噴火湾と陸奥湾におけるカレイ類とマダラの漁獲量の変化とその要因	北洋研究シンポジウム	高津哲也・中屋光裕・鈴木孝太・稲垣祐太	基盤	農水	水産
83	種特異的ミトコンドリアDNAマーカーによるクロダイ浮遊卵と浮遊DNAの検出	日本水産増殖学会	宮奥昂次・苫野哲史・海野徹也・辻村浩隆	基盤	農水	水産
84	スギ、ヒノキへの酸化型グルタチオン施用の影響	CRESTシンポジウム	上森真広	基盤	農水	農林
85	非火山灰土地帯で有効な耕盤検知型探土器の開発	日本ペドロジー学会大会	内山知二・佐野修司	基盤	農水	農林
86	大阪府都市近郊農業地帯での施設栽培造成土壌の特性	日本ペドロジー学会大会	佐野修司・金剛穂波・内山知二	基盤	農水	農林

(4) 出版物

No.	タイトル	掲載誌等	著者	研究	分類	
				区分	第1	第2
1	メタリジウム粒剤を利用した施設ナスおよびキュウリのミナミキイロアザミウマの防除	日本植物防疫協会「植物防疫」	柴尾 学	重点	農水	農林
2	中空培地を使ったイチゴ栽培	農業電化協会「農業電化」	内山知二	重点	農水	農林
3	梅酒漬け梅	デーリィ・ジャパン刊「飼料特性を理解して上手に設計に活かす」	瀬山智博	重点	農水	農林
4	水ナス褐紋病菌の伝染と防除	近中四農研推進会議病害虫推進部会成果情報	西岡輝美・瓦谷光男・岡田清嗣	重点	農水	農林
5	青色LEDと青色粘着板を組み合わせたトラップによるミナミキイロアザミウマの誘引	近中四農研推進会議病害虫推進部会成果情報	柴尾 学・田中 寛	重点	農水	農林
6	大阪府におけるシカ・イノシシの生息状況の経年変化―出猟カレンダーによるモニタリング調査―	全国森林病虫獣害防除協会「森林防疫」	幸田良介・虎谷卓哉	新	環境	自然
7	イチジク栽培でのソーラーシェアリングを目指して	施設と園芸	磯部武志	基盤	農水	農林
8	イチジク株枯病の新しい防除技術―苗木の熱消毒と土壌の病害抑止力向上―	日本植物防疫協会「植物防疫」	三輪由佳・瓦谷光男	基盤	農水	農林

1 4 重点研究分野への取組

(1) 「安全・安心な特産農産物生産を目指した総合的作物管理 (ICM) 技術」 (実績報告書 22 ページ)

病害虫の防除の推進について

①必要性

農政室施策 3 本柱の 1 つである「生産振興・地産地消の推進」の中で、農産物の安全安心確保が求められている。とくに“大阪エコ農産物”の安定生産のために化学合成農薬の使用回数を減らすことが急務であり、その技術的課題解決のための研究・実証が必要である。

②業務の具体的内容 (26 年度)

ハウス栽培ナス・キュウリ等の果菜類では薬剤抵抗性の発達したミナミキイロアザミウマやコナジラミ類、アブラムシ類等の難防除害虫による被害が大きく、とくにミナミキイロアザミウマの防除に苦慮している。また、いちじくにおいては果実内に侵入するアザミウマ類によって外観健全に見える果実でも内部腐敗被害が生じ問題となっている。そこで、これらの難防除害虫の防除法として、ナスではハウス開口部を赤色ネットで被覆して、捕食性の天敵と天敵糸状菌を併用した総合的害虫管理法を開発する。いちじくでは赤色ネットで樹体を被覆した場合の防除効果について検討する。さらに、府内特産野菜である水ナスでは褐紋病の発生により生産低下を招いたことから、これらの緊急的な防除対策について検討する。

③業務実施結果の概要 (26 年度)

ア アザミウマ類に対する総合防除

施設ナス (半促成栽培、4~6 月) において、赤色ネットの展張、メタリジウム粒剤の土壌表面処理、スワルスキーカブリダニの放飼の組合せによるミナミキイロアザミウマの防除効果を調査した。その結果、IPM 区では慣行区と比較してミナミキイロアザミウマの生息密度が低く抑えられた (図 1)。また、調査期間中のミナミキイロアザミウマに対する薬剤散布回数は、慣行区では平均 7 回であるのに対し、IPM 区は 4 回であり、4 割削減された。

また施設キュウリ (抑制栽培、8~11 月) においても赤色ネットの展張、メタリジウム粒剤の土壌表面処理、スワルスキーカブリダニの放飼を組合せたミナミキイロアザミウマの防除効果を調査した。その結果、IPM 区では慣行区と比較してミナミキイロアザミウマの生息密度が低く抑えられた (図 2)。



メタリジウム菌に感染したアザミウマ

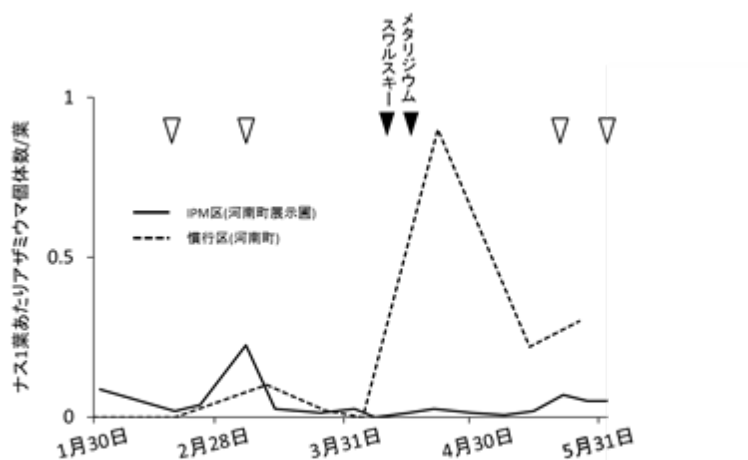


図1. 施設ナスにおける赤色ネットの展張、メタリジウム粒剤の処理、スワルスキーカブリダニの放飼の併用によるミナミキイロアザミウマの防除効果(2014年、河南町)
▼: IPM区における天敵資材の処理、▽: IPM区における農薬の散布

イ 天敵糸状菌に対する各種散布薬剤の影響

各種薬剤(殺菌剤 11 剤・殺虫剤 11 剤)を添加した培地にメタリジウム粒剤を置床し、メタリジウム粒剤に悪影響のある農薬を調査したところ、殺菌剤ではベノミルとトリフルミゾール、殺虫剤では MEP で悪影響が見られた。

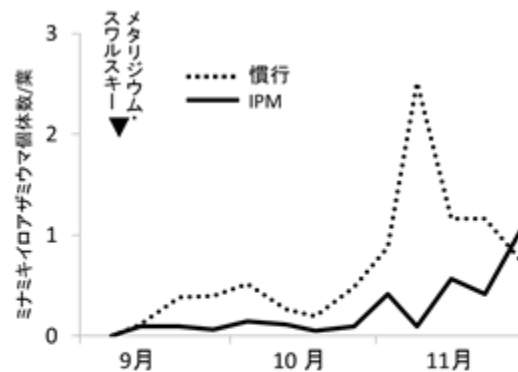


図2.施設キュウリにおける赤色ネットの展張、メタリジウム粒剤の処理、スワルスキーカブリダニの放飼の併用によるミナミキオアザミウマの防除効果(2014年、羽曳野市)
▼: IPM区における天敵資材の処理

ウ アザミウマ類によるいちじく果実被害と赤色ネットによる防除効果

アザミウマ類は5月下旬～8月上旬に誘殺がみられ、2013年は6月中旬、2014年は6月上旬に誘殺ピークが認められた。収穫果実の被害程度は8月上旬(収穫初期)で大きく、8月中旬以降では軽微であった。果実内虫数が多いと被害程度が大きくなる傾向が認められた(図3)。アザミウマ類の誘殺虫数はネット内がネット外の約半数で推移し、8月26日の被害果率はネット内が10%、ネット外が20%となり、ネット内では被害抑制効果が認められた。



いちじくの果実被害



赤色ネットの展張

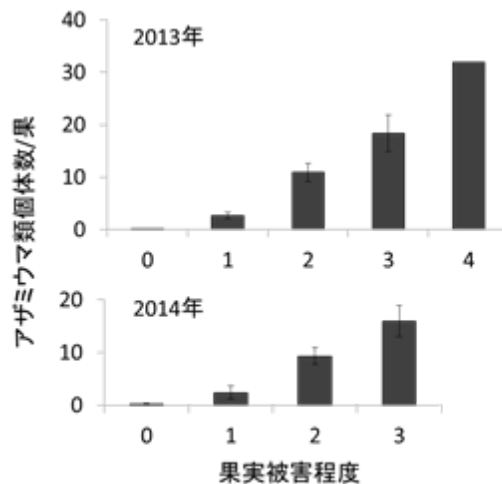


図3. いちじく果実におけるアザミウマ類の果実内虫数と被害程度の関係(2013-2014年、羽曳野市)

エ 水ナス褐紋病に対する防除薬剤の選定

培養試験やポット試験で褐紋病菌に効果の認められたベンレート水和剤およびベルコート水和剤をほ場試験において10-11日間隔で3回散布して防除効果を調べた結果、ベンレートの防除効果が安定して高かった。地域限定の作物および病害であることから、有効試験例数の軽減を国へ要望し、登録メーカーの協力を得て2例(2カ年)の試験例により登録取得の見込みである。



水ナス果実の被害

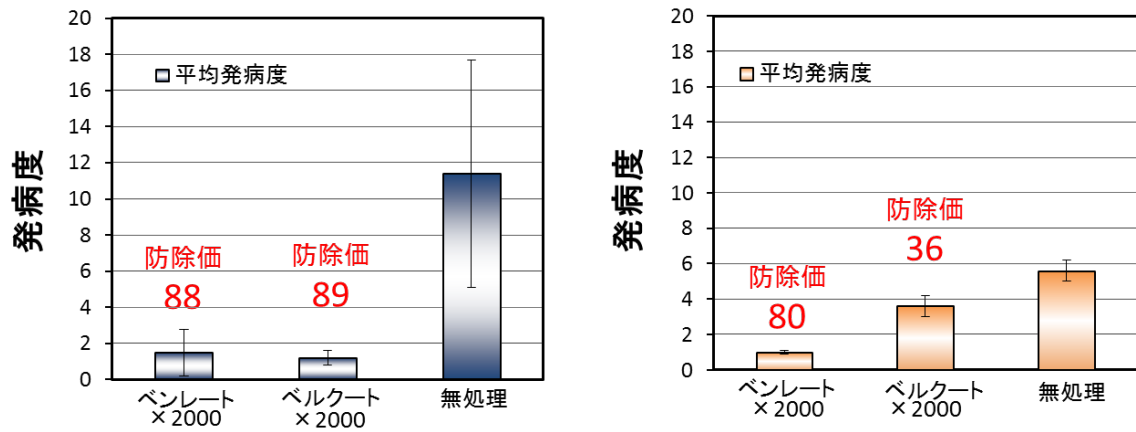


図 4. 水ナス褐紋病に対する薬剤散布による防除効果

左図: 所内(羽曳野)試験 6/23-7/23、9 株(180 葉)/区、3 連制

右図: 現地(貝塚)試験 6/23-7/28、20 株(400 葉)/区、3 連制

④ 今後に向けた研究所の考え方

近年の病害虫の発生は、突発的、かつ、同時多発的に発生することから最新の診断・調査技術を用いた的確な判断に基づく防除対策の構築が必要である。本業務で得られた病害虫の制御技術やノウハウは、持続可能な大阪エコ農業推進の観点から継続的な調査研究が不可欠である。

(2)「都市域におけるバイオマスの地域循環システム」(実績報告書 22 ページ) 高速汚泥処理技術の開発

①必要性

下水汚泥は、大阪府で排出されるバイオマスの 40%を占める主要な資源であり、府の行政目標では、2025 年に利用率を 100%とすることを掲げている。しかし、現在の利用率は 36%程度で、全国平均値(74%)の半分程度でしかないため、府の実情に即した汚泥利用率向上に資する技術開発は喫緊の課題である。メタン発酵は、汚泥を減容化しつつエネルギー化できる優れた技術であるが、処理速度が遅いため大規模な施設が必要であり、普及が進まない。そのため、処理速度を大幅に短縮し、施設の小型化を可能にする技術を開発する必要がある。

②業務の具体的内容(26 年度)

処理速度の速い UASB 方式のメタン発酵を、下水汚泥の処理に応用可能にするシステムの開発を目指し、実験室規模の装置を作製して以下の項目を検証した。

- ・汚泥減少率
- ・処理日数の大幅短縮
- ・バイオガスの生成効率

③業務実施結果の概要(26 年度)

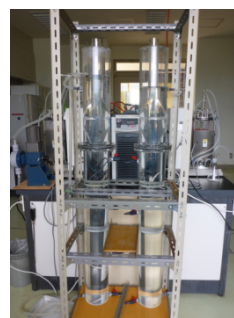
下水処理場由来の濃縮余剰汚泥に人工的に合成したモデル汚泥を混合したものを用いて 31 日間の運転を実施し、以下の結果を得た。

- ・固形物での汚泥減少率は、従来のメタン発酵とほぼ同等の成績を維持した。
- ・処理日数は、従来のメタン発酵と比べ大幅に短縮された。
- ・バイオガスの生成効率も安定していた。

(本研究の成果については、現在特許出願中であるため、詳細の公表を差し控える。)



下水汚泥



UASB 型メタン発酵槽

④今後に向けた研究所の考え方

今後、実際の下水処理場の初沈汚泥と余剰汚泥の混合物を用いて、新システムの性能を検証した上、段階的にスケールアップした実験プラントでの実証を行う。さらにバイオガスの安定生産、廃熱の有効利用等を可能にする新しい処理システムの提案を目指す。

(3) 「大阪湾の環境変化が生態系に与える影響の解明」(実績報告書 23 ページ)

大阪湾における栄養塩の適正管理と底生魚介類への影響に関する研究

①必要性

- 大阪湾では栄養塩濃度の低下とともに、シャコ、マコガレイ等の底魚類の漁獲量が減少しているが、両者の因果関係は、食物連鎖において様々な生物が介在するため明確ではない。このため、餌料生物を含めた動向調査によって因果関係を明らかにする必要がある。
- 大阪府を含む瀬戸内海関係漁連連絡会議は、栄養塩濃度の低下と漁獲量の減少の関係性を解明して、豊かな海を再生することを行政に要望しており、そのための研究は急務である。

②業務の具体的内容 (26 年度)

栄養塩を適正に管理し、環境と生物生産の調和を図って豊かで美しい大阪湾を目指すために、流入負荷変動に伴う海域の栄養塩濃度変化の解析と栄養塩変化が食物連鎖(底生動物)に及ぼす影響の解析を進めた。平成 26 年度は以下の項目に取り組んだ。

- ア 海域に存在する難分解性有機窒素化合物の実態調査
- イ 海域の難分解性有機窒素化合物の由来の解明
- ウ 底泥、餌料底生動物、底生魚の現地調査による食物連鎖の関係把握
- エ 底質環境、餌料底生動物、底生魚介類と栄養塩濃度との関係の比較分析
- オ 栄養塩変化と食物連鎖との関係の解明

③業務実施結果の概要 (26 年度)

ア 海域に存在する難分解性有機窒素化合物の実態調査 (図 1)

- 今年度の春～夏では、難分解性有機窒素が、季節、場所を問わず同程度の濃度で分布していることが示唆された。
- 全窒素濃度に占める難分解性有機窒素濃度の割合は、全窒素濃度の低い St. 3 と St. 8 で高いことが示唆された。

イ 海域の難分解性有機窒素化合物の由来の解明 (図 1)

- 今年度の春～夏の琵琶湖～淀川では、難分解性有機窒素が継続的に存在していることが示唆された。
- 全窒素濃度に占める難分解性有機窒素の割合は、全窒素濃度の低い琵琶湖南湖で高く、その割合は大阪湾湾口・湾央のそれと同程度であった。

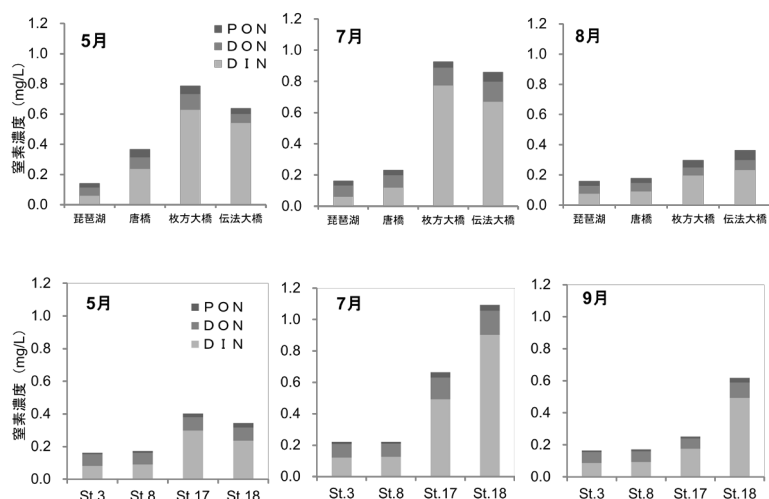


図 1 海域と琵琶湖・淀川の 100 日分解後の窒素濃度
PON 濃度と DON 濃度の合計が難分解性有機窒素濃度を示す。

ウ 底泥、餌料底生動物、底生魚の現地調査による食物連鎖の関係把握

- サワラ、タチウオ、ハモ、スズキ、タイ類、シタ・カレイ類など 20 種の魚類について胃内容物を調査し、重量組成比を算出した。胃内容物中にみられた底生動物ではエビ類

やシャコ、多毛類、棘皮動物（オカメブンブク、クモヒトデ類）の重量組成比が高かった（図2）。

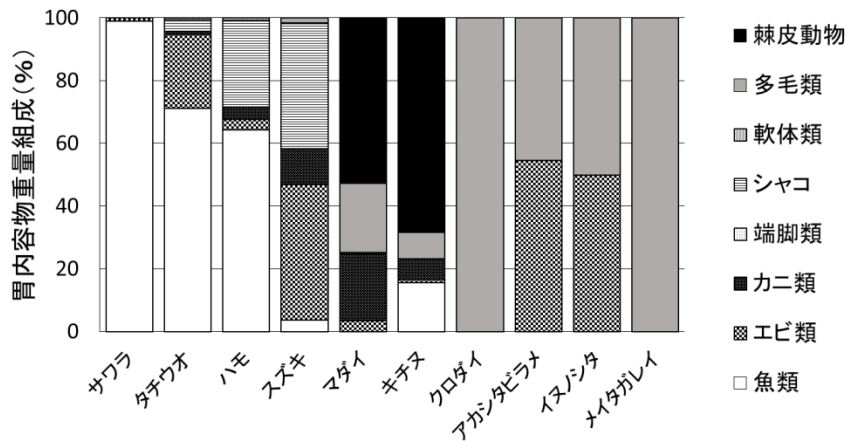


図2 主要魚種の胃内容物重量組成

- 大阪湾の31定点で6・9月に採集したマクロンベントスを生息密度に基づくクラスタ分析によりa～eの5群集に区分した。併せて採取した海底堆積物の粒度組成（中央粒径値、淘汰度、歪度）、全窒素、全有機炭素、炭素・窒素安定同位体比、酸揮発性硫化物の主成分分析により得た第1～3主成分スコアと底層の水温、塩分、溶存酸素を外的要因の指標としてマクロベントス生息密度について正準対応分析（CCA）を行ったところ、マクロベントス群集 a～e の空間分布は底質の有機物量と溶存酸素が影響した結果と推察された（図3）。

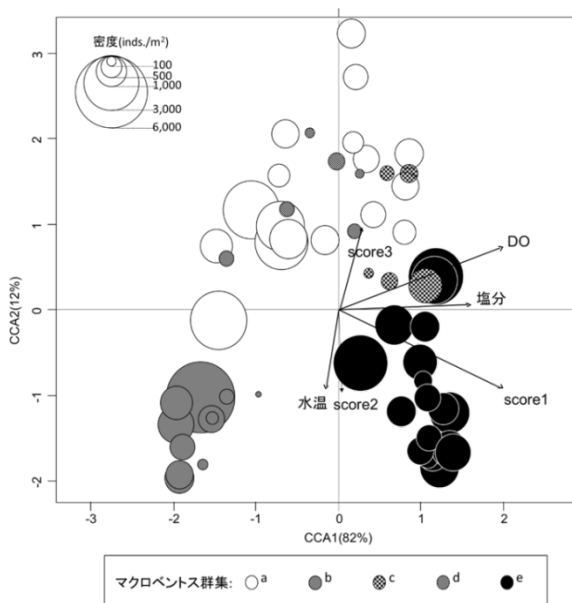
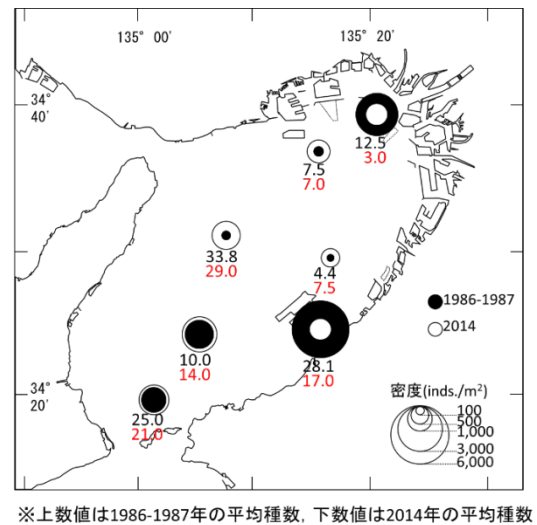


図3 正準対応分析の結果



※上数値は1986-1987年の平均種数、下数値は2014年の平均種数

図4 マクロベントス密度と種数の比較（1986-1987年平均値と2014年6・9月平均値）

- マクロベントス生息密度、種数の1986-1987年（昭和61-62年）データの平均値と今回の6・9月の平均値を比較したところ、湾奥部沿岸と関西空港東側で生息密度と種数の低下が認められ（図4）、これらの海域の生息環境の悪化が示唆された。
- 平成26年5月に大阪湾内の20定点でカバーネット付き石げた網により採集したメガベントスと底生魚類と上記のマクロベントスのデータより、平成25年度に実施した大阪湾の類型区分毎のマクロベントス、メガベントス、底生魚類の優占種を抽出した。

エ 底質環境、餌料底生動物、底生魚介類と栄養塩濃度との関係の比較分析

- 大阪府が実施している公共用水域水質測定で取得、公表しているデータを整理し、主要な植物プランクトン出現の経年変化をまとめた。大阪湾における植物プランクトンは1980年代を除き珪藻類が90%以上を占めていた。珪藻類では *Skeletonema* 属が最も優占していたが、本属の優占度は近年低下傾向にあった(図5)。

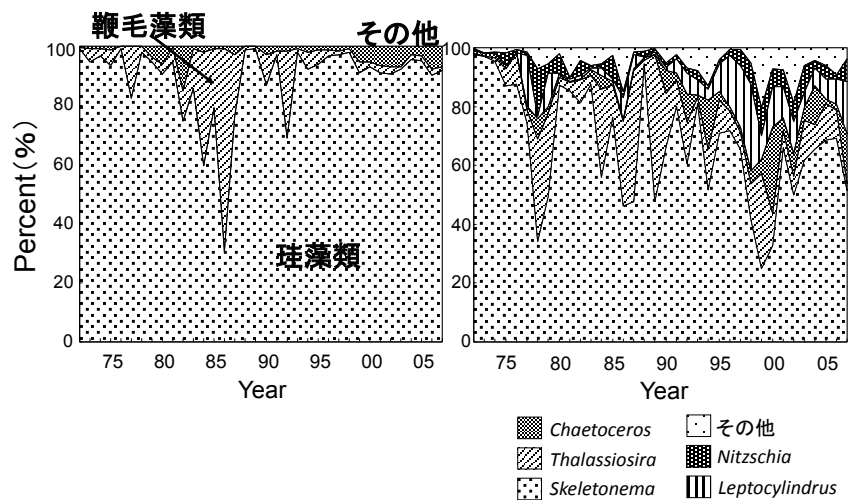


図5 大阪湾における主要植物プランクトン出現の経年変化(左:主要分類群、右:珪藻類)

オ 栄養塩変化と食物連鎖との関係の解明

- 環農水研をはじめとした共同研究機関により行われた形態別窒素の調査結果を用いて、瀬戸内海区水産研究所の低次生態系モデルにより、瀬戸内海東部海域における近年のノリ漁期中(12~3月)の溶存態無機窒素(DIN)の収支が計算された。ノリ漁期中に大阪湾に負荷されるDINは、陸域からの負荷が40tN/day、海底からの溶出が17tN/day、紀伊水道からの流入が95tN/dayとなっていた。一方、大阪湾から失われるDINは、湾内でのみかけの生産(生産から分解を引いたもの)が57tN/day、ノリ生産による消費が0.4tN/day、播磨灘への流出が96tN/dayとなっていた(図6)。

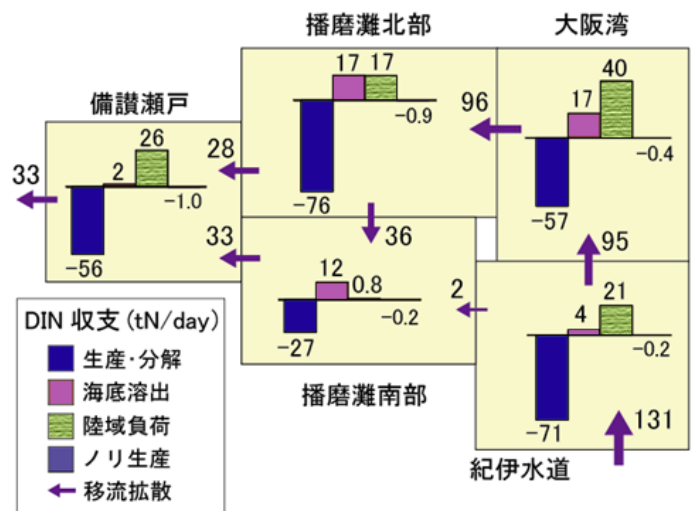


図6 瀬戸内海東部海域におけるノリ漁期中のDIN収支(12~3月)

④ 今後に向けた研究所の考え方

流入負荷変動に伴う海域の栄養塩濃度変化の解析として、① 河川の流下過程における有機態窒素化合物の動態把握、② 下水処理場等からの栄養塩負荷の把握、③ 海域の難分解性有機窒素化合物の由来の解明について調査研究を進める。栄養塩変化が食物連鎖に及ぼす影響の解析として、① 栄養塩から浮魚へ至る低次生態系の解析、② 堆積物中有機物と餌料底生動物及び底生魚介類の食物網の解析等の調査研究を進める。また、望ましい栄養塩環境についてのシミュレーションができる流動モデルや生態系モデルの構築を目指す。

1 5 新たな研究分野への取組

a 農林水産業の六次産業化の促進支援

(1)府内産農産物の商品化に関する技術開発(大阪産(もん)チャレンジ支援事業)
(実績報告書 24 ページ)

必要性

「大阪産(もん)」の生産・流通・消費を拡大するため、「大阪産(もん)」を使用した商品の開発・改良などの事業者の取組に対して、研究所が技術面から支援を行い、それにより大阪府内の農林水産業・食品産業の振興を図る。

業務の具体的内容(26年度)

大阪産(もん)の6次産業化等をテーマに、「大阪産(もん)」の生産・流通・販売を行う事業者などを公募し、外部審査で採択された事業計画(5課題)に対して、実現に必要な支援を研究所が行った。

業務実施結果の概要(26年度)

<地域特産野菜(なす、えびいも、きゅうり)を使った、色彩豊かな南河内スイーツの開発>

大阪南河内の地域特産野菜であるなす、えびいも、きゅうりを使い、なすの紫、えびいもの白、きゅうりの緑を生かした彩り豊かな3種類の野菜ジャムにおいて、なす紫色の退色防止やきゅうりの緑色の発色、えびいもの白色の褐変防止などの技術を開発した。

また、これらのジャムを料理や菓子に利用することにより、南河内の3色の野菜ジャムの活用方法も提案した。



3色野菜ジャムのスイーツ

<岸和田うまれの超甘にんじん「彩誉(あやほまれ)ブレッド」の開発>

岸和田市内で育成され、岸和田市が新たな地域特産品としてPRを進めている「彩誉」ニンジンを用いて、彩誉の甘さとくせのない特徴を生かしたパン「彩誉ブレッド」の商品開発を行った。彩誉にんじんでピューレを作り、それを添加したパンを試作し、彩誉の特徴がもっとも感じられる配合比率などを検討した。



彩誉ブレッド

<水なすうまれのカクテルシロップ>

傷のついた水なすの新たな活用法として、カクテルの割材の開発を行った。水なすの果皮から抽出した色液でなすの色の再現を試み、果肉加糖ペーストを配合することで水なすの風味や香りを出したカクテルシロップが完成した。



水なすカクテルシロップ

< 富田林産きゅうりを使った手軽につまめる「カリカリ胡瓜」の開発 >

長期保存のため塩蔵された規格外品きゅうりを用いて、カリカリとした食感のおつまみを開発した。手を汚さずにつまめる商品の開発を目指し、脱水、乾燥、形成、味付けなどの処理方法を工夫し、完全に乾燥させず手に調味液がつかない製品を開発した。



カリカリ胡瓜

< デラウェアの飲むジュレ >

府内で生産量の多いブドウ（デラウェア）を用いて、粒々感を楽しめる飲むジュレの商品開発を行った。ブドウの果肉を多量に皮むきする加工法や色と糖分を抽出する方法を開発した。



デラウェアの飲むジュレ

【平成 26 年度までの商品開発の状況】

- 黒字 : 共同開発製品名
- 赤字 : 共同開発事業者
- 青色ぬり : 商品化済み
- 緑色ぬり : 商品化検討中

	平成 2 3 年度	平成 2 4 年度	平成 2 5 年度	平成 2 6 年度
1	玉葱おこげ 七庭本店	みかンドレッシング 富田林市 生活改善クラブ	水なすのジャム 川崎農園	南河内スイーツ 喜多農 ますだジャム
2	止々呂美柚子・ 包近桃のキャンデー 豊下製菓	ふき水煮 J A 大阪泉州	泉州水なす塩 Flour bee	彩誉ブレッド 米麦館 (まいばくかん) タマヤ
3	ドライイチジク 果樹振興会 K U レディース	イチジク グラッセ ㈱かつら屋	白みそドレッシング 農事組合法人 かなん	水なす カクテルシロップ 株式会社トータス
4	ウメビーフ コロッケ ウメビーフ協議会	水なす お茶漬の素 堺共同漬物㈱	ミニ水なす 丸ごとピクルス 日本スチールワイヤロープ㈱	カリカリ胡瓜 JAPAN 総合ファーム
5	泉だこのやわらか煮	八尾えだまめ スイーツ ㈱瓢月堂	紅たで ジンジャーシロップ お野菜料理 ふれんちん	デラウェア 飲むジュレ 葡萄園たちばなや
6	タモロコの佃煮	シャコ・トビアラ・ 穴子のふりかけ	服部しろり粕漬けの スナック菓子 服部白しろり生産部会	

今後に向けた研究所の考え方

今後も、府と協議して府内の農林水産業振興および食品産業支援のため農林水産業の六次産業化に関わる支援を強化していくことを検討。

(2) 大阪府内農林水産物のブランド化促進 (キジハタ資源の増大)(実績報告書 25 ページ)

必要性

大阪府がブランド化を進めている高級魚キジハタ (地方名「あこう」) は、漁獲量が少なく安定的な供給が出来ていない。そのため、10 万尾の安定的種苗放流による資源増大を目指しているが、卵の安定生産と飼育初期の生き残り率向上の 2 点が課題となっている。また、今後の放流技術向上のため、過去に実施した放流の効果の検証も行う必要がある。

業務の具体的内容 (26 年度)

- ・ 安定的な採卵を可能にする大水深親魚水槽の整備
- ・ 初期の生き残り率向上に向けた飼育技術開発
- ・ 過去に実施したサイズ別放流の効果の検証

業務実施結果の概要 (26 年度)

- ・ FRP 製の親魚養成水槽 (直径 6m、深さ 3m) の設計を行い、これを 2 基整備した (図 1)。
- ・ 飼育初期に加温することにより餌生物の活力が向上し、日齢 6 ~ 11 の間の仔魚の生き残り率が向上した。
- ・ 放流種苗のサイズを変えて (平均全長 5cm と 10cm) 放流したキジハタの回収率をそれぞれ算出して、10cm サイズ放流の回収率が高いことを明らかにした。



図 1 親魚養成水槽

今後に向けた研究所の考え方

整備した親魚養成水槽を用いた種苗量産技術を確立させるとともに、種苗生産の過程で問題となっている形態異常防除技術開発を行う。放流技術向上のため、放流したキジハタの放流効果把握を引き続き実施する。

b 新たな環境汚染への対応

(1) PM_{2.5}対策等に係る発生源及び環境中の動態の解明(実績報告書 25 ページ)

必要性

平成 24 年度より常時監視を本格的に実施している微小粒子状物質 (PM_{2.5}) は、環境基準の達成率が極めて低い状況にある。PM_{2.5} の低減対策の方向を導き出すためには、汚染実態の把握と高濃度メカニズムの解明が必要である。

業務の具体的内容 (26 年度)

PMF 法()による発生源寄与評価を行うため、当研究所が参画している国立環境研究所と地方環境研究所との共同研究「PM_{2.5}の短期的/長期的環境基準超過をもたらす汚染機構の解明」において検討した解析手順に沿って、大阪府域の成分分析結果(平成 24 年度:6 地点、平成 25 年度:11 地点)を用いて解析を試行した。さらに、東アジア規模の大気汚染移流の寄与の量的把握を行うため、広域気象モデル(WRF)、化学輸送モデル(CMAQ)を導入し、国立環境研究所が作成した発生源テストデータを用いて計算を行った。

PMF 法:観測データ(成分分析結果)を用いて因子分析を行い、多成分の変動要素からいくつかの因子(発生源)を抽出する手法

業務実施結果の概要 (26 年度)

PMF 法による解析を試行した結果、7つの因子(発生源)にわかれた。平成 24 年度 6 地点および平成 25 年度 11 地点の因子寄与割合を季節ごとに平均すると、PM_{2.5} 濃度に対する重油燃焼の寄与は春季・夏季に高く、硝酸系二次粒子の寄与は冬季に高かった。また、石炭燃焼の寄与は年間で 30%程度であった(図 1)。

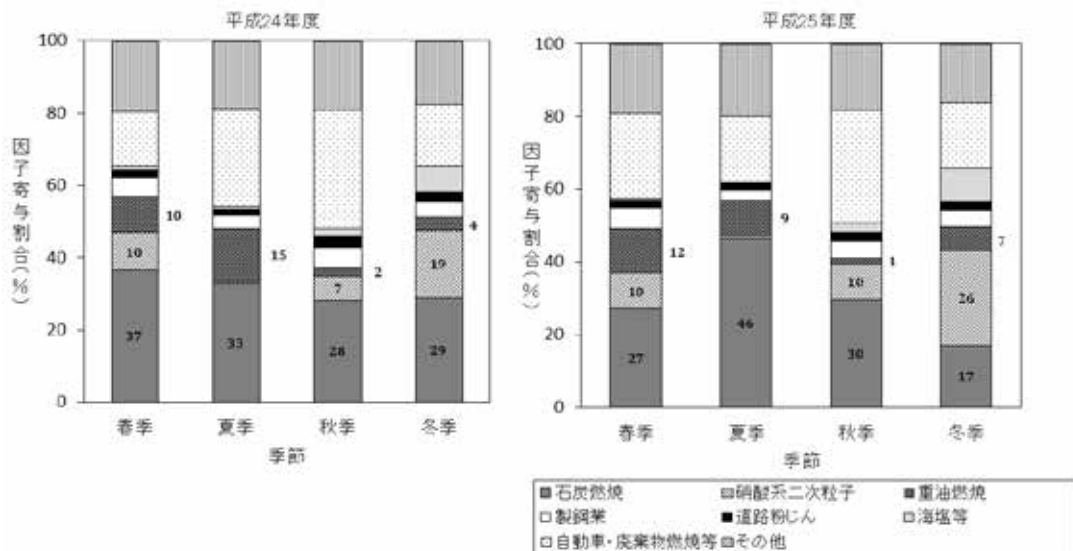
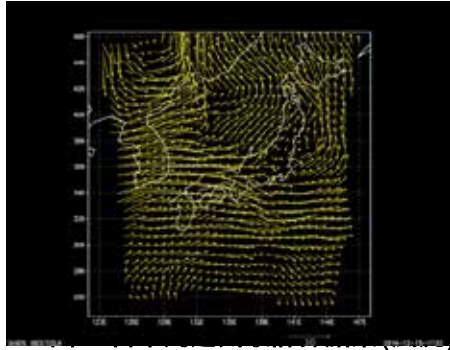
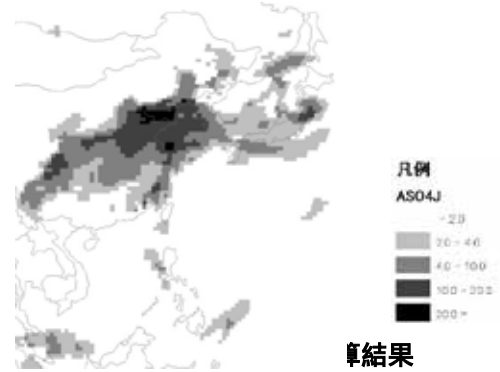


図 1. PM_{2.5}濃度に対する季節別の因子寄与割合

大気汚染広域シミュレーションモデルを国立環境研究所が作成した 2013 年 7 月 26~29 日のテストデータを用いて実行した。計算は、東アジア域(グリッド 60km)について行い、その結果を用いて日本周辺域(グリッド 15km)の計算を行った。WRF による日本周辺域の風況図を図 2 に、CMAQ による東アジア域を図 3 に、日本周辺域を図 4 の計算結果(硫酸エアロゾル)を示す。いずれも地上観測データとの比較は行っていないが、地上濃度分布とよく似た分布を見せている。



(2013年7月28日 21時 JST)



結果
硫酸イオン $\mu\text{g}/\text{m}^3$
(2013年7月29日 18時 JST)

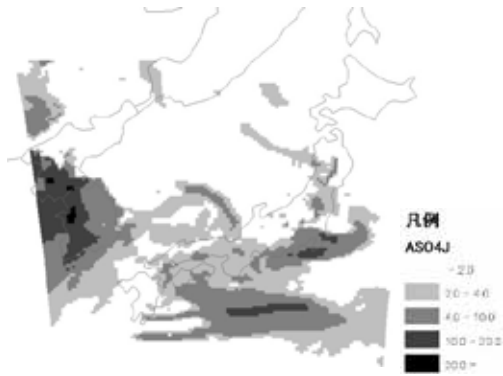


図 4. 日本周辺域濃度計算結果
硫酸イオン $\mu\text{g}/\text{m}^3$
(2013年7月29日 18時 JST)

今後に向けた研究所の考え方

- PMF 法による解析では、突発的な高濃度や極端に低い濃度の分析結果を用いるか各成分濃度が解析結果に及ぼす重みづけの調整をどうするかによって、分けられる因子数や各因子の中身がかわってくるため、引き続き、手法の検討を行い、精度の向上をめざす。
- 大気汚染広域シミュレーションモデルを用いて、高濃度時の再現計算を行うことで、精度向上を目指す。また、国内外の発生源寄与について、数量的把握を行う手法を確立するとともに、国内外の発生源情報の収集を行い、実データを用いた計算を行う。

(2) 事業所が排出する有害化学物質の影響 (実績報告書 26 ページ)

必要性

環境リスクが高い有害大気汚染物質等の事業所からの排出削減や化学物質リスクコミュニケーションを推進していくためには、事業者の自主的取組を支援していかねばならない。そこで、事業者が実施した対策を評価し、事業者の意欲向上を図ることを目指す。また、効果的に対策削減を進めていくために、重点的に指導に取り組み物質や地域、事業者を絞っていく必要がある。

業務の具体的内容 (26 年度)

有害大気汚染物質等の常時監視データと大阪府が提供する P R T R 排出量データを比較検討し、経年的な傾向及び地域特性等、その関連性について解析を行うことにより、事業所からの化学物質の排出量が府域や事業所周辺に及ぼす影響について明らかにする。また、有害大気汚染物質の常時監視データが高い測定地点について、その要因を明らかにする。

業務実施結果の概要 (26 年度)

i. 有害大気汚染物質濃度と PRTR 排出量データの経年変化

大気への排出量が多い有害大気汚染物質について、大気濃度との比較検討を行った。いずれの物質の届出排出量と届出外排出量の合計は減少傾向であり、環境濃度についても長期的には減少傾向にある。大気濃度と排出量合計の相関は、一般局ではベンゼン、キシレン、ジクロロメタン、トリクロロエチレンで高く、自排局ではベンゼン、ジクロロメタン、キシレン、トルエンで高かった。また、キシレン、トルエン、エチルベンゼンは届出排出量との相関が高かった。

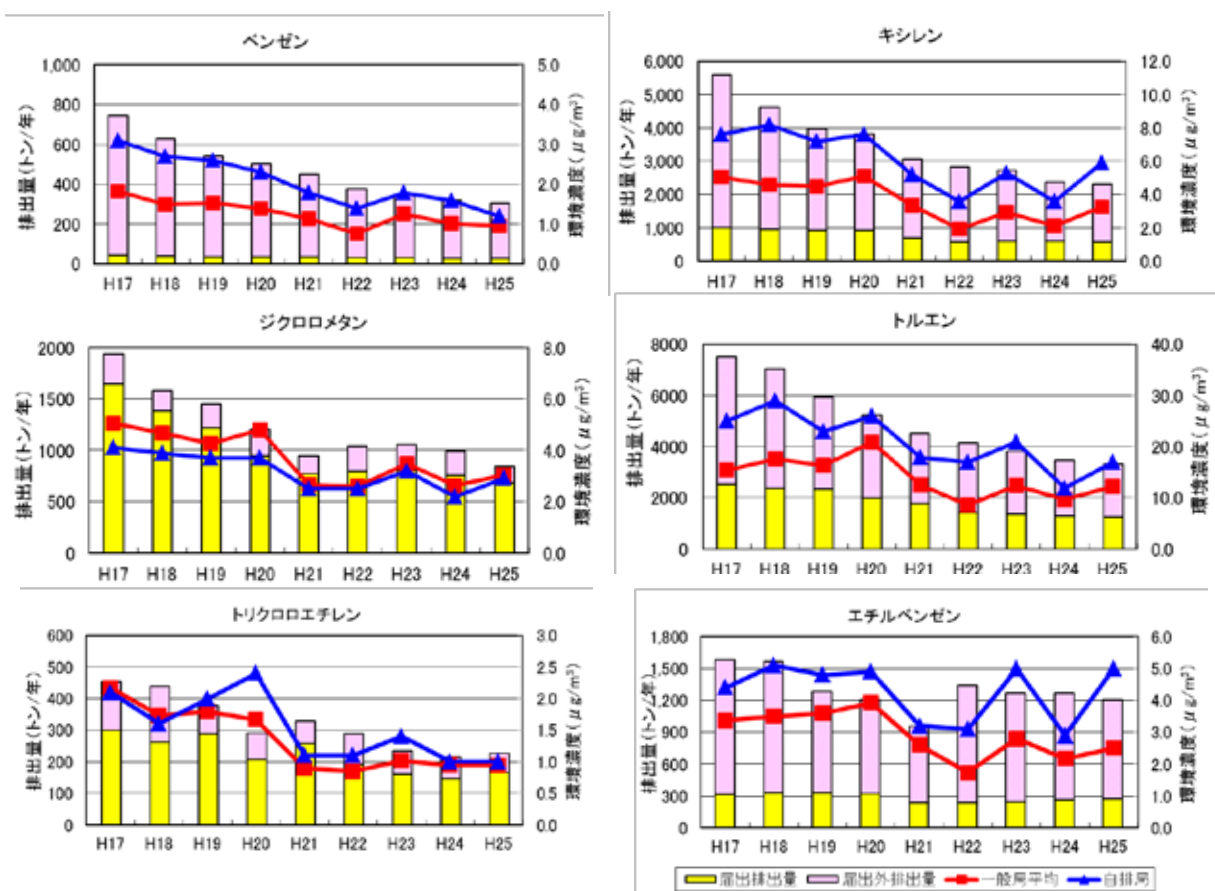


図 1 大気濃度と P R T R 排出量データの経年変化

表1 大気濃度と排出量の相関係数

		排出量合計	届出排出量	届出外排出量
トルエン	一般局平均	0.6490	0.7313	0.5951
	自排局	0.8175	0.8099	0.8038
ジクロロメタン	一般局平均	0.8428	0.8328	0.3546
	自排局	0.8565	0.8516	0.3101
キシレン	一般局平均	0.8549	0.9623	0.8158
	自排局	0.8546	0.9522	0.8175
ベンゼン	一般局平均	0.8679	0.8510	0.8684
	自排局	0.9497	0.9300	0.9502
トリクロロエチレン	一般局平均	0.7903	0.7390	0.6683
	自排局	0.4765	0.5043	0.3172
エチルベンゼン	一般局平均	0.2484	0.8604	0.0633
	自排局	0.4063	0.6759	0.2848

ii. 有害大気汚染物質の常時監視データが高い測定地点の要因の検討

泉大津市役所のニッケル及びその化合物が高濃度で観測された要因を検討した。

平成26年4月度調査結果は490ng/m³であり、大気汚染防止法に基づく指針値25ng/m³(年平均値)を上回った。これは、過去の最大値69ng/m³(平成24年5月、泉大津市役所)を大きく上回った。また、ニッケルは近隣のカモドールMBS(高石市) 浜寺中学校(堺市)でも濃度が高かった。ニッケル以外の重金属成分は他の測定地点と著しい相違はなかった。気象条件等の解析

測定期間中の風向、風速、大気安定度等の解析から、発生源が泉大津市役所の近傍(北方面)にあることが示唆された。



図2 泉大津市役所と周辺の状況

今後に向けた研究所の考え方

事業所からの化学物質の排出量が府域や事業所周辺に及ぼす影響を検討する。
有害大気汚染物質の常時監視データが高い測定地点の要因を解明する。

(3) 有害化学物質による環境汚染状況の把握に必要な調査分析技術の開発
(実績報告書 26 ページ)

必要性

有害化学物質による新たな環境汚染へ対応するためには、環境汚染状況の把握に必要な調査分析方法を開発する必要がある。また、分析法開発調査への取り組みを進めることで、未知の化学物質汚染に即応できる技術基盤を確立することが可能となる。

業務の具体的内容(26年度)

PRTR法の第一種指定化学物質に指定されている「アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム」について、化学物質環境実態調査の中で環境省が示す要求感度を満たした底質及び生物試料における分析方法の開発をする。

業務実施結果の概要(26年度)

- ・ガラス器具や前処理に用いる固相抽出カートリッジからのブランクレベルが高く、ブランクの低減方法を検討した。
- ・試料への添加回収試験では、アルキル鎖長の長いC13LAS、C14LASの回収率が低い傾向にある。
- ・内部標準としてC8LASを用いることは適切でないと考えられるため、内標準物質として¹³Cでラベルされた「4-ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム(RING-¹³C₆)」を用いて検量線、IDL(装置の検出下限)の検討を実施した。

今後に向けた研究所の考え方

- ・現状ではブランクが環境省の要求感度と同等かそれ以上のレベルで検出されているため、まずはブランクレベルを低減することを最優先とする。
- ・ブランク低減後にMDL(測定方法の検出下限)の測定を実施予定。
- ・底質試料では対象物質が高濃度で検出される可能性が高いので、MDLを検討するためには対象物質が低濃度に含まれる底質試料を入手して検討を進める必要がある。

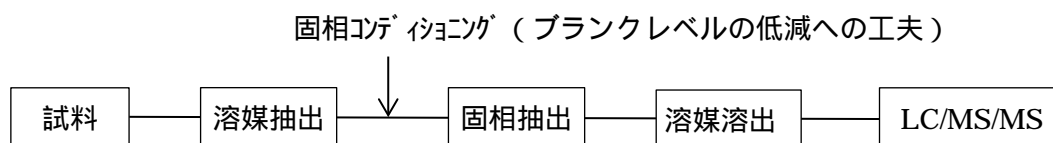


図1 分析方法のフロ-チャート

(4) 廃棄物処分場排水の1,4-ジオキサン対策の検討(実績報告書26ページ)

必要性

廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令が改正(平成25年6月に施行)され、廃棄物処分場の排水、周縁地下水および浸透水に1,4-ジオキサン等の新たな化学物質の基準が追加された。これを受けて、府内の処分場における汚染実態を調査した結果、1,4-ジオキサン検出事例が発生した。

このため、府民の健康被害や環境汚染を速やかに防止・改善するため、現地調査および室内実験を行い、この処分場における1,4-ジオキサンの汚染源の究明、汚染水の環境中への排出経路の推定を行うとともに、効果的かつ効率的な処理方法を検討し対策に資する必要がある。

業務の具体的内容(26年度)

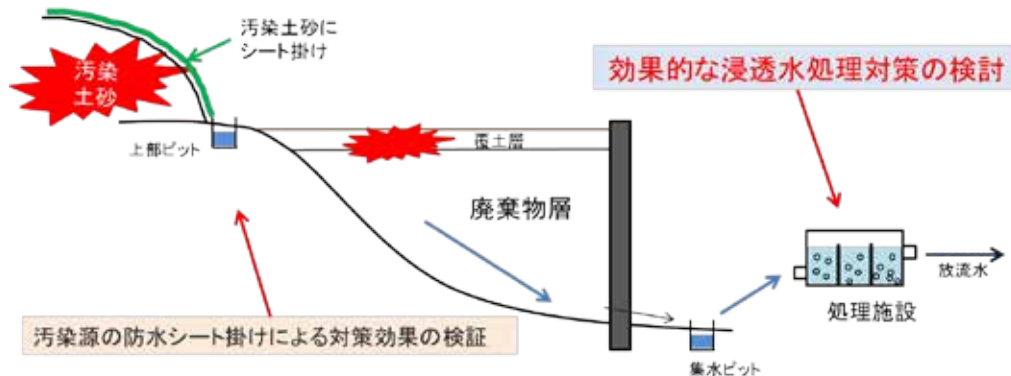


図1 平成26年度調査の概要

防水シートによる汚染源の被覆等による対策効果の検証

- ・大きな汚染源として疑われる地点(処分場の上部)を防水シートで被覆し、雨水の浸透を防止する緊急対策の効果に対策前後の1,4-ジオキサン溶出を解析することで検証した。浸出水の水質の現状(1,4-ジオキサン含有等)および処分場の状況を考慮した効率的な浸出水処理対策の検討

- ・処分場の排水処理施設でのモニタリングを行い、水温と1,4-ジオキサン低減率との関係を解析した。
- ・現地に生息する微生物による分解、あるいは揮散による1,4-ジオキサンの低減を検討した。

業務実施結果の概要(26年度)

防水シートによる汚染源の被覆等による対策効果の検証

- ・汚染土砂が積み上げられた地点を防水シートで被覆後、その付近の浸透水(上部ピット、上流側溝水)では一時的に1,4-ジオキサンの濃度低下が見られたものの、下流側の浸透水の1,4-ジオキサンの濃度低下は見られなかった。

効果的な浸透水処理対策の検討

- ・処分場内の排水処理施設において、水温の上昇とともに1,4-ジオキサン低下率が上昇した(図2)。この要因としては微生物活性あるいは揮散効率の上昇が考えられた。
- ・処分場の排水処理施設にプラスチック製の微生物固定化担体を1ヶ月間浸漬し、微生物が付着した担体を用いて1,4-ジオキサン処理実験を実施した結果、担体を添加した実験区では、添加しない実験区と比較して1,4-ジオキサン濃度の低下が著しかった(図3)。担体には吸着効果あるいは揮散促進効果がないことも確認できたため、現地に棲息する微生物により1,4-ジオキサンを低減することが可能であると推察された。

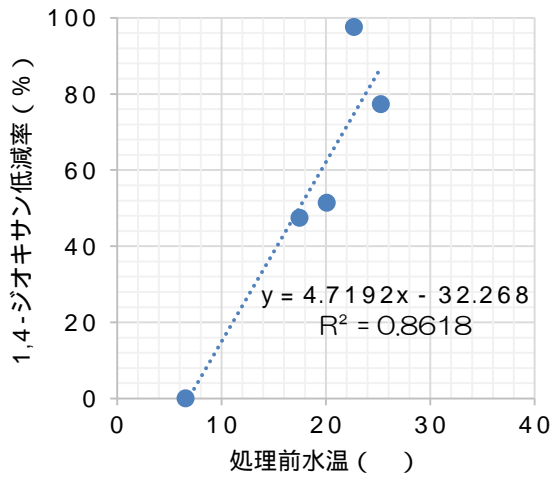


図2 現地処理施設の1,4-ジオキサン低減率と水温の関係

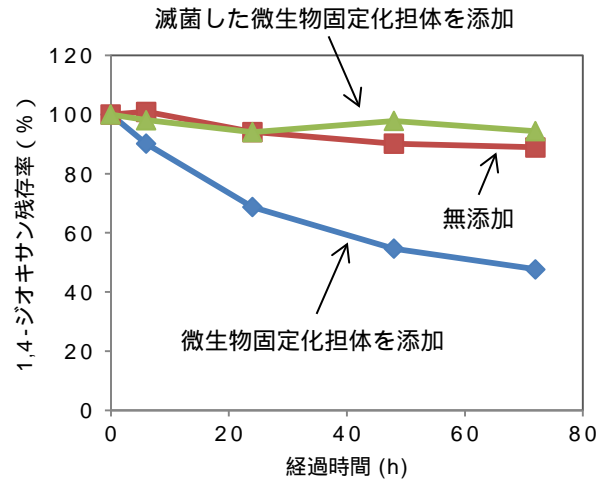


図3 1,4-ジオキサン分解試験の結果 (10)

今後に向けた研究所の考え方

浸出水の水質の現状 (1, 4-ジオキサン含有等) 及び処分場の状況を考慮した効率的な浸出水処理対策の検討

- ・1, 4-ジオキサン等を含む廃棄物処分場浸出水に適した処理対策を構築するため、添加資材や曝気量等の検討を実施する。

廃棄物処分場及びその周辺における1, 4-ジオキサン等の汚染物質の挙動解析

- ・基準値の追加等により廃棄物処分場管理において新たに問題となる1, 4-ジオキサン等の汚染物質について、関連情報の収集に努めるとともに、分析法を検討し、挙動解析を実施する。

(5) 寝屋川流域における浮遊汚泥（スカム）発生機構の解明（実績報告書 26 ページ）

必要性

寝屋川流域ではスカムの発生により河川景観の悪化を引き起こし、周辺住民からの苦情が多く寄せられている。目的を達成することにより、府内の河川および府民の生活環境の改善に貢献できる。府の管理する寝屋川流域で発生している現象であり、当所が解決すべきである。

業務の具体的内容（26 年度）

スカムおよび底質の強熱減量および金属含有量の比較

6 月～8 月に河川スカム、ポンプ場内（沈砂池、雨水吐出井）スカム、河川底質、ポンプ場内（沈砂池）底質、伏越マンホール内底質を採取し、その強熱減量および金属含有量を測定した。

スカムおよび底質の顕微鏡解析

河川スカム、ポンプ場内（沈砂池、雨水吐出井）スカム、河川底質、ポンプ場内（沈砂池）底質、伏越マンホール内底質の特性について、蛍光顕微鏡を用いて解析した。

業務実施結果の概要（26 年度）

スカムおよび底質の強熱減量および金属含有量の比較

- ・強熱減量はポンプ場スカム > 河川スカム 河川・マンホール・ポンプ場底質であった（図 1）
- ・金属含有量はスカムおよび底質ともに Fe、Zn、Mn が高い傾向が見られた。

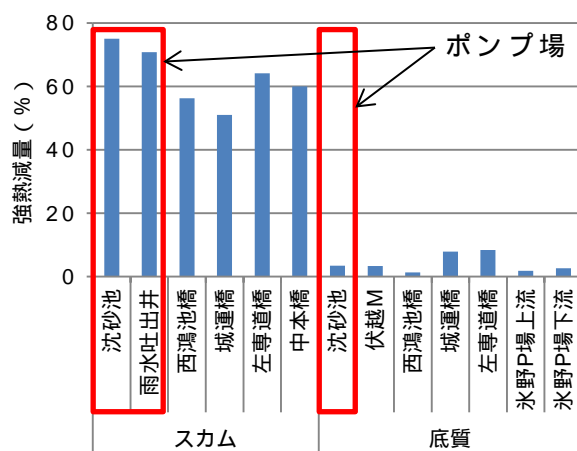


図 1 スカムおよび底質の強熱減量 M：マンホール、P：ポンプ

スカムおよび底質の顕微鏡解析

- ・顕微鏡解析の結果から、蛍光特性を有した繊維状成分が検出された（図 2）。この蛍光特性を有した繊維状成分は下水関連施設の底質からは検出されたが、河川底質からはほとんど検出されなかった。強熱減量の結果から、下水関連施設のスカムや河川底質等がそのまま河川に浮遊したとは考えられず、何らかの相互作用の結果、スカムを形成しているものと考えられる。

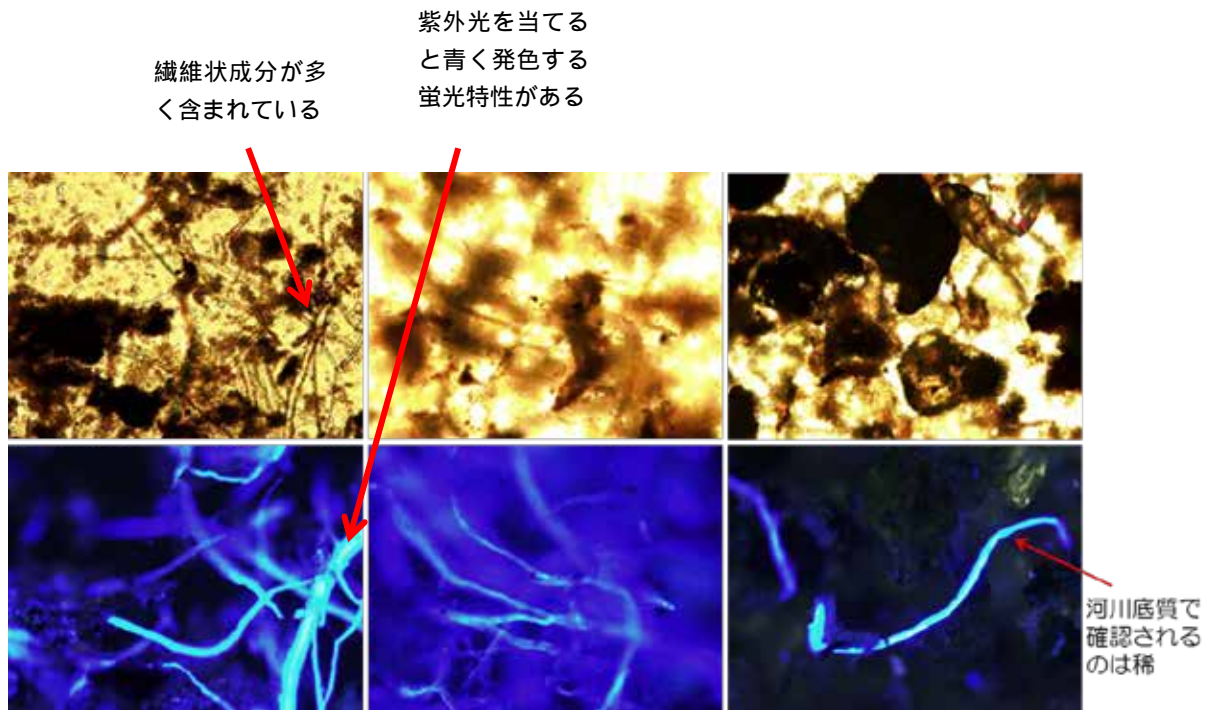


図 2 河川スカム（左）、ポンプ場底質（中）および河川底質（右）の顕微鏡写真（倍率 10×10）

今後に向けた研究所の考え方

平成 27 年度は、府環境管理室、河川室、下水道室、大阪大学、近畿大学等と協力し、寝屋川水系において以下の調査を実施する。

- (1) スカムの発生地点を推定するため、寝屋川流域内で降雨後に河川水が停滞しやすい場所の特定に向けた調査および情報収集等を実施する。
- (2) 発生したスカムや河川底泥の成分分析、顕微鏡調査、微生物解析等を行うとともに浮上実験を実施し、スカムの発生要因の解明に努める。

c 生物多様性の保全

(1) 野生生物被害対策調査(シカ・イノシシのモニタリング調査)(実績報告書 27 ページ)

必要性

シカやイノシシなどの野生動物による被害が深刻化する中、都道府県や市町村では、鳥獣保護法に基づく特定鳥獣保護管理計画などにより適切に野生動物の管理を進めることが求められている。そのためには情報収集と解析を効率化し、現状把握や意思決定能力を向上させる必要がある。

そこで、府内におけるシカ・イノシシの生息分布とその経年変化、対策の効果などを明らかにし、大阪府シカ・イノシシ保護管理計画の策定や進捗状況の点検、見直しのために必要な科学的基礎資料を提供する。また、府内の市町村等の鳥獣被害に係る対策策定や研修等に役立てる。

業務の具体的概要(26年度)

- ・ 狩猟者の出猟カレンダーから目撃効率等を算出する。
- ・ 北部地域 99 か所でのシカ糞塊調査からシカ生息密度分布を推定し、推定生息数を算出する。
- ・ 農業被害調査として、府内全農業集落対象の「農業被害アンケート」から出没頻度、被害強度、獣害対策への取り組み程度等を集計する。
- ・ 森林植生被害調査として、北部地域のスギ林 20 ヶ所、ヒノキ林 54 ヶ所、計 74 ヶ所で人工林植栽木への剥皮被害状況を現地調査する。

業務実施結果の概要(26年度)

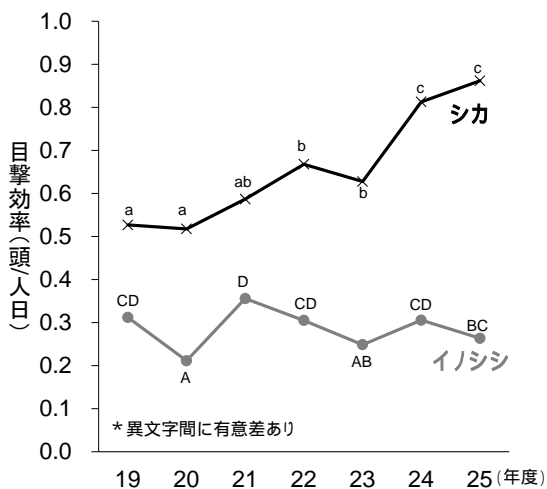


図1 銃猟狩猟者によるシカとイノシシの目撃効率*の変化
*狩猟者1人が1日あたりに目撃した頭数

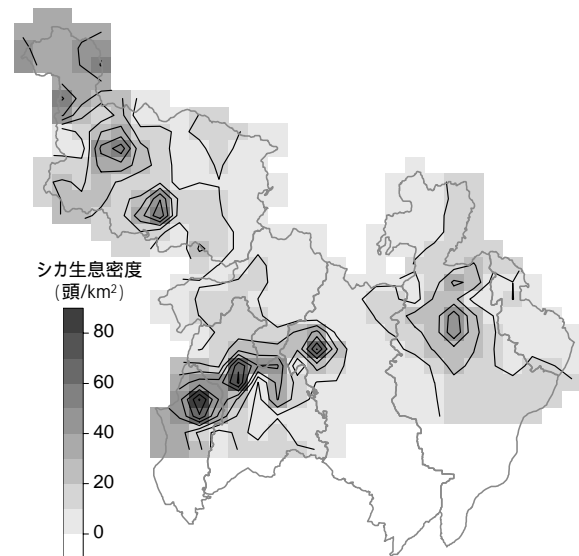


図2 糞塊調査と空間補間法により推定したシカ生息密度分布図

・シカの生息状況

目撃効率が増加していることから(図1)、シカの生息数は増加傾向にあると考えられた。シカ高密度地域が能勢町西部、箕面山域、高槻市中央部の3地域にあり、調査地域全体での平均密度が約15頭/km²に達することが明らかになった(図2)。

・イノシシの生息状況

目撃効率がほぼ一定であることから（図1）イノシシの生息数に大きな変動はないと考えられた。その一方で、アンケート出沒頻度の変化などから、北・中河内地域を中心に分布域が拡大傾向にあることが分かった。

今後に向けた研究所の考え方

継続的な調査から生息状況や被害状況の経年変化を明らかにするとともに、生息頭数の推定や、被害状況に対する生息密度低減効果や被害防除効果の解析を進める。

研究成果の普及先等（印は26年度新たに実施したもの）

市町村鳥獣行政担当者会議

府鳥獣被害防止対策推進協議会

鳥獣被害防止総合対策事業の評価（和泉市・泉佐野市・柏原市・八尾市・千早赤坂村）

明治の森箕面自由休養林管理運営協議会

大阪府環境審議会野生生物部会

J A 鳥獣被害対策研修会

- ・関西地区林業試験研究機関連絡協議会
- ・林業指導普及員担当者会議
- ・シカ・イノシシ保護管理検討会

(2) 天然記念物イタセンパラの野生復帰(実績報告書 27 ページ)

必要性

現在、研究所では大阪府内の生物多様性保全のシンボルとしてイタセンパラを位置づけ、国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所と共同プロジェクトとして、淀川への野生復帰を目指している。その取り組みを推進するため、放流に用いるイタセンパラの増殖、淀川の放流候補地での外来魚の駆除や環境改善などに関する調査研究が求められている。また、得られた研究成果を継続的に利活用するため、市民参加型の保全体制の構築も必要となっている。



業務の具体的内容(26年度)

- ・ 淀川に野生復帰したイタセンパラの生息状況をモニタリングする。
- ・ 外来魚のブラックバスやブルーギル等を駆除し、放流場所の生息環境を改善する。
- ・ 市民参加型の保全活動が安定的に継続するための仕組みづくりを整える。

業務実施結果の概要(26年度)

淀川の城北ワンド群(大阪市旭区)の一部において、外来魚の割合を2~3割程度までに減少させることに成功したことに加え、市民団体や企業、大学、行政の計30団体からなる「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク」による野生復帰支援体制が整ったことから、平成25年10月に城北ワンド群の一部において、当研究所で育成したイタセンパラの親魚500尾を放流した。放流式には、地元の小中学生の児童生徒等を招き、公開で行なった。



その結果、翌春750尾のイタセンパラの稚仔魚が確認でき、自然環境下の繁殖を確認した。その後、市民活動を支援し、継続的に外来魚の駆除を実施したところ、外来魚の割合を平均で12%程度までに抑え込むことに成功した。

今後に向けた研究所の考え方

- ・ イタセンパラの安定した定着を目指して、今後も、淀川河川事務所と共同で野生復帰プロジェクトを進める。
- ・ 「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク」を先導し、イタセンパラ野生復帰の取り組みを進めるとともに、よりいっそう府民が生物多様性保全の取り組みに参画しやすい仕組みづくりを整える。

16 研究活力向上支援事業採択課題（実績報告書28ページ）

No.	課題名	研究分野	研究成果を利用して応募した競争的資金名（一部応募予定を含む）
1	膜濃縮を用いた湿潤バイオマス的高速処理技術	新たな研究分野「都市域におけるバイオマスの地域循環システム」	(独)科学技術振興機構 研究成果最適展開 支援プログラム(A-STEP)
2	牛用腸溶性生菌剤カプセルが牛の腸内細菌相に与える影響	新たな研究分野「その他（先導的等）」	・農林水産業の革新的技術緊急展開事業 ・(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP) ・(公財)伊藤記念財団 研究助成
3	イチジク栽培におけるソーラーシェアリングの可能性調査	新たな研究分野「その他（先導的等）」	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
4	青果物に対するアルゴンガスプラズマとカテキンの殺菌・静菌効果	新たな研究分野「農林水産業の六次産業化の促進支援」	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
5	短時間紫外線(UV-B)照射がブドウの果皮アントシアニン蓄積に及ぼす影響	重点研究分野「大阪湾の環境変化が生態系に与える影響の究明」	(一財)旗影会

17 外部研究資金応募実績(実績報告書29ページ)

No.	機関名	外部資金名	研究体制 (代表機関 /共同機 関)	テーマ	採択	
環境情報部	1	環境省	環境省環境総合推進費	代表機関	調整池の自浄作用とSADシステムによる海面埋立処分場浸出水の窒素低減に関する研究	
	2	日本学術振興会	科学研究助成事業(基盤研究S)	共同研究	大気微粒子のマイクロ・ナノ分析と鉱物・有機物相互作用	
	3	日本学術振興会	科学研究助成事業(基盤研究C)	共同研究	メタゲノム解析と生化学的解析による窒素除去反応系の包括的理解	
	4	(公財)クリタ水・環境科学振興財団	国内研究助成	代表機関	パイル織物の集積培養を用いた浮遊性脱窒菌あるいはアナモックス菌の活性測定による塩水環境中の窒素動態の解明	
	5	特定非営利活動法人瀬戸内海研究会	特定非営利活動法人瀬戸内海研究会「平成26年度瀬戸内海の環境保全・創造に係る研究」	代表機関	瀬戸内海のCODコントロール方策の提案に向けた研究推進のための包括的な文献調査	
環境研究部	6	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同研究	ミズアブの機能を利用した新たな食料循環の基盤構築	
	7	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同研究	侵略的拡大竹林の効率的駆除法と植生誘導技術の開発	○
	8	農林水産省	農林水産業の革新的技術緊急展開事業	代表機関	αリノレン酸に富む高付加価値牛乳の新しい生産技術の実証	○
	9	農林水産省	委託プロジェクト研究「畜産・酪農の生産力強化のための技術開発」	共同研究	繁殖性の改善による家畜の生涯生産性向上技術の開発	
	10	農林水産省	委託プロジェクト研究「畜産・酪農の生産力強化のための技術開発」	共同研究	家畜の生涯生産性向上のための育種手法の開発	○
	11	日本学術振興会	科学研究助成事業(基盤研究C)	代表機関	乳用雌仔牛の腸内細菌叢はどこからきてどこへ行くのか	
	12	日本学術振興会	科学研究助成事業(若手研究B)	代表機関	アメリカミズアブ共生菌の生産するリグニン分解酵素の単離と特性の解明	
	13	日本学術振興会	科学研究助成事業(若手研究B)	代表機関	静電場スクリーンによる臭気物質の吸着特性の解明	
	14	(独)科学技術振興機構	研究成果展開事業研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)	共同研究	牛用腸溶性生菌剤カプセルの実用化研究	
	15	・(独)科学技術振興機構 ・(独)国際協力機構	「地球規模課題対応国際科学技術プログラム」	共同研究	アルゼンチンにおける水系・食系感染症の予防、特に小児に対する志賀毒素産生性大腸菌感染症リスク軽減のための新戦略の構築	
	16	(公財)食生活研究会	研究助成	代表機関	栄養・食料資源としてのアメリカミズアブの周年供給技術	
	17	(公財)千里ライフサイエンス振興財団	岸本基金研究助成	代表機関	飼料用昆虫アメリカミズアブの周年供給を可能にする飼育技術の開発	
	18	(公財)伊藤記念財団	助成事業	代表機関	牛用腸溶性生菌剤カプセルが牛の腸内細菌相に与える影響	○
	19	(公財)住友財団	研究助成	代表機関	特定外来生物アライグマの被害対策に向けた食性解析ー安定同位体情報の応用ー	
	20	(株)池田泉州銀行	コンソーシアム研究開発助成金	共同研究	大阪産食品製造副産物を利用した肉牛用発酵エコフィードの生産技術	
21	内閣府	SIP戦略的イノベーション創造プログラム(次世代農林水産業創造技術)	共同研究	持続可能な農業生産のための新たな植物保護技術	○	

食の安全研究部	22	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同研究	旬を超えるおいしさ、栄養価、機能性を持った野菜の品質保証が可能な生産システム開発	
	23	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同研究	都市近郊エダマメ栽培体系に適応したダイズシストセンチュウの生物的防除法の開発	
	24	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同研究	飛ばない天敵による露地野菜の減農薬技術体系 ～露地でもトバテン～	
	25	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	代表機関	イチジク栽培でのソーラーシェアリングの実用化	
	26	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	代表機関	天王寺カブの「イイとこ取り」選抜・挿し木利用による形状均一化速攻普及技術の確立	
	27	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同研究	夏期の広範囲な園芸作物の高温障害を回避し生産性向上を実現する新規赤外線遮断資材の開発	
	28	農林水産省	農林水産業の革新的技術緊急展開事業	共同研究	精密な土壌水分制御と養分総量評価による高収益輪作体系の実証	○
	29	日本学術振興会	科学研究助成事業(研究活動スタート支援)	代表機関	炭素施肥技術の開発に向けた液化炭素源の葉面散布が植物生育に与える影響	
	30	日本学術振興会	科学研究助成事業(若手研究B)	代表機関	炭素施肥技術の開発に向けた液化炭素源の葉面散布が植物生育に与える影響	
	31	日本学術振興会	科学研究助成事業(基盤研究B)	共同研究	導入天敵スワルスキーカブリダニの野外定着状況の把握と分散過程の解明	
	32	日本学術振興会	科学研究助成事業(基盤研究C)	共同研究	遺伝子発現解析を用いたダイコンの根の形態予測マーカーの開発	
	33	日本学術振興会	科学研究助成事業(挑戦的萌芽研究)	共同研究	有機肥料を用いる水耕栽培野菜の安全性評価とヒト病原性細菌抵抗性微生物の探索	
	34	(公財)鹿島学術振興財団	研究助成	代表機関	露地ナス圃場周辺における土着カブリダニ類の生息実態の解明	○
	35	(公財)園芸振興松島財団	研究助成	代表機関	一口イチジクの「食べやすさ」の評価法開発	○
	36	(一財)旗影会	研究助成	代表機関	果房局所冷却と紫外線照射が立木ブドウ樹の果皮アントシアニン含量に及ぼす影響	
	37	(公財)大阪産業振興機構	おおさか地域創造ファンド	共同研究	上方食文化を守れ! 堺の伝統産業、昆布手加工業の復活	○
	水産研究部	38	水産庁	漁場環境・生物多様性保全総合対策事業	共同研究	瀬戸内海等での有害赤潮発生機構解明と予察・被害防止等技術開発
39		水産庁	資源評価調査事業	共同研究	我が国周辺水域資源評価等推進委託事業	○
40		日本学術振興会	科学研究助成事業(基盤研究A)	共同研究	海産バイオマスプラント船団による栄養塩平滑化の実現可能性研究	
41		日本学術振興会	科学研究助成事業(基盤研究B)	共同研究	豊かな瀬戸内海の再生に資する生態系構造の解明	
42		日本学術振興会	科学研究助成事業(基盤研究B)	共同研究	海岸構造物の直立壁への“浅場機能付”付与技術の開発(粘り強い流線型堤防を例にして)	
43		特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議	大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度	代表機関	大阪湾の底層環境と生物生息の関係、環境改善効果に関する研究	○
44		特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議	大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度	共同研究	東部瀬戸内海における植物プランクトン群集の基礎生産力とその1960年代からの変化	○

18 行政評価（実績報告書29、32ページ）

※ 4段階評価の平均値； 4：よい、3：標準的、2：やや不十分、1：不十分

部会名	分野	行政課題名	評価項目	
			到達水準	総合評価
みどり都市環境部会	みどり	間伐施業が森林の防災機能等に与える効果検証	3	3
	水産	生物多様性研修用プログラムの開発	4	4
環境部会	環境	PM2.5など反応系大気汚染に関する研究	4	4
		異常水質事故の原因究明手法の確立	3	3
		一般環境中の有害化学物質濃度とPRTR排出量データ等との比較検討及び関連性の解析	4	4
		廃棄物処分場における浸出水対策の検討	4	4
		黄砂など広域・越境大気汚染に関する研究	4	3
		寝屋川流域における浄化浚渫の水質改善に関する実証実験	3	3
		河川における水生生物生息状況等調査データの集積	3	3
		省エネ・省CO2相談窓口	4	4
		環境情報プラザの活用と「かけはし」による協働取組の推進	4	4
		ヒートアイランド対策技術に関する調査研究及び対策技術の普及等	3	3
	園芸	ソーラーシェアリングに適した農作物の選定及び影響調査	2	2
農政・食品部会	野菜	水なすのつや無し果対策	2.5	3
		天敵を活用した難防除害虫防除技術の確立	3.5	3.5
		施設野菜栽培の高温対策技術の確立	3	3
		軟弱野菜の生育障害対策技術の確立	2.7	3
		ハウス抑制きゅうりの急性萎ちょう症対策	4	4
		なにわの伝統野菜の優良系統選抜及び出荷長期化のための技術確立	3	3
		みつば新害虫キノコバエの防除方法の確立	4	4
		水なすにおける褐紋病の防除方法の確立	4	4
		地域特産野菜の農業登録適用拡大	3.5	3.5
	果	大阪府特産ぶどう有望品種系統の選定と栽培方法の確立	3.3	3.5
大粒系の黒色、赤色ぶどう品種の着色対策		3.3	3.3	

農政・食品部会	樹	大阪で有望な中晩柑類の絞り込み	4	3.5
		ぶどう波状型ハウスの換気システムの開発	4	4
	花き	電照栽培におけるLEDの適用性	3	3
		球根切り花の作期拡大	3.3	3.3
	農産加工	水なすの漬物加工時における殺菌による色落ち防止策の検討	4	4
		紅たでを利用した加工品開発	3	3.3
		八尾若ごぼうの加工品開発	3.5	3.5
	水稻	水稻の高温障害対策	3.5	3.5
畜産・野生動物部会	畜産	乳牛のストレスに関する研究	3	3.5
		発酵TMRの夜間給与による乳牛の生産性向上	3	3
		乳牛、鶏におけるエコフィード利用による低コストな飼養管理技術の検討	2.5	3
	野生生物	シカ・イノシシのモニタリング調査	4	4
		アライグマのモニタリング調査	3	3
水産部会	危機管理課題(有毒プランクトン、KHV病等の特定疾病)に関する調査・研究	4	4	
	浅海定線調査	4	4	
	資源回復を効果的に支援するための調査・研究	4	4	
	資源管理型漁業の効率的な推進に関する調査・研究	4	4	
	栽培漁業技術開発に関する調査・研究	4	4	
	安威川・余野川河川調査	3	3	
	ため池における外来生物の駆除技術の確立と駆除支援	3	3	
	漁場整備事業(増殖場等)の効果調査	3	3	
	漁場整備事業(大阪湾漁場環境整備事業)の効果調査	3	3	
総合部会	大阪湾における栄養塩の適正管理と底生魚介類への影響に関する研究	3.5	3.5	
	大阪湾における海底窪地の埋戻しに関する研究	3.5	3.5	
平均			3.4	3.4

19 平成27年度に実施する行政依頼事項（実績報告書32ページ）

みどり・都市環境部会

順位	課題名
技術支援G分野-1	省エネ・省CO2相談窓口の継続
技術支援G分野-2	環境情報プラザの活用と「かけはし」による協働取組みの推進
技術支援G分野-3	ヒートアイランド対策に関する対策技術の普及等
園芸G分野-1	ソーラーシェアリングに適した農作物の選定及び影響調査
みどり環境G分野-1,2,3	森林防災に関する調査(①流木対策事業施行地における表面侵食の防止に関する調査、②GIS解析による森林災害危険箇所調査、③間伐によるスギ・ヒノキの根張り抵抗力の向上の検証)
みどり環境G分野-4	ナラ枯れ被害跡地の実態調査
みどり環境G分野-5	放置竹林の樹種転換のための基礎調査
みどり環境G分野-6	間伐施策が森林の防災機能等に与える効果検証
みどり環境G分野-7	衛星画像による緑被率の調査
内水面G分野-1	生物多様性研修用プログラムの検証

環境部会

順位	課題名
環境-1	PM2.5など反応系大気汚染に関する研究
環境-2	異常水質事故の原因究明手法の確立
環境-3	一般環境中の有害化学物質濃度とPRTR排出量データ等との比較検討及び関連性の解析
環境-4	廃棄物処分場における浸出水対策の検討
環境-5	黄砂など広域・越境大気汚染に関する研究
環境-6	寝屋川流域における浄化浚渫の水質改善に関する実証実験
環境-7	河川における水生生物生息状況等調査データの集積
環境-8	大気中超微小粒子(ナノ粒子)の実態把握に関する調査研究

農政・食品部会

順位	課題名
野菜-1	水なすのつや無し果対策
野菜-2	なすの果皮障害(いわゆる焼け果)対策について
野菜-3	施設野菜栽培の高温対策技術の確立
野菜-4	天敵を活用した難防除害虫防除技術の確立
野菜-5	軟弱野菜の生育障害対策技術の確立
野菜-6	ハウス抑制きゅうりの急性萎ちょう症対策
野菜-7	なにわの伝統野菜の優良系統選抜及び出荷長期化のための技術確立
野菜-8	みつば新害虫キノコバエの防除方法の確立
野菜-9	水なすにおける褐紋病の防除方法の確立
野菜-10	地域特産野菜(ふき、葉ごぼう等)の農薬登録適用拡大
果樹-1	大阪府特産ぶどう有望品種系統の選定と栽培方法の確立
果樹-2	ぶどう波状型ハウスの換気システムの開発
果樹-3	大粒系の黒色、赤色ぶどう品種の着色対策

果樹-4	大阪で有望な中晩柑類の絞り込み
果樹-5	研究所育成品種ぶどうの栽培方法の確立
果樹-6	いちじく果実のアザミウマ類被害対策の検討
果樹-7	収量増加のためのミニイチジク栽培方法の検討
果樹-8	果実肥大期のブドウ葉黄化症状(ミイラ葉(仮))の原因調査と対策
花き-1	直売所出荷に向けた切花の簡易な開花調節技術の開発
農産加工-1	水なす漬物(液漬け)における食品微生物に対する調査研究
農産加工-2	八尾若ごぼうの加工品開発
農産加工-3	水なすの漬物加工時における殺菌による色落ち防止策の検討
農産加工-4	紅たでを利用した加工品開発
水稲-1	水稲の高温障害対策について
水稲-2	水稲のエコ農産物生産における緑肥作物の利用技術

水産研究部会

順位	課題名
水産-1-①	危機管理課題(有毒プランクトン)に関する調査・研究
水産-1-②	危機管理課題(KHV病等の特定疾病)に関する調査・研究
水産-2	浅海定線調査
水産-3	資源回復を効果的に支援するための調査・研究
水産-4	資源管理型漁業の効率的な推進に関する調査・研究
水産-5	栽培漁業技術開発に関する調査・研究
水産-6	安威川・余野川河川調査
水産-7	ため池における外来生物の駆除技術の確立と駆除支援
水産-8	漁場整備事業(増殖場等)の効果調査

畜産・野生動物部会

順位	課題名
畜産-1	乳牛のストレス指標の確立とその活用(地域適応型家畜改良研究事業)
畜産-2	地域資源を活用した大阪地玉子のブランド化
畜産-3	生乳の6次産業化にむけての製品開発支援
畜産-4	畜舎環境対策の技術支援
畜産-5	飼料・エコフィードの生産技術支援
畜産-6	発酵TMRの夜間給与による乳牛の生産性向上
野生動物-1	シカ・イノシシのモニタリング調査
野生動物-2	アライグマのモニタリング調査

総合部会

順位	課題名
総合-1	大阪湾における栄養塩の適正管理と底生魚介類への影響に関する研究
総合-2	大阪湾における海底窪地の埋戻しに関する調査・研究
総合-3	大阪湾海岸構造物における環境配慮の実施手法の研究

20 研究アドバイザー委員会による研究課題評価（実績報告書29ページ）

※ 11人の委員による4段階評価の平均点 4:大変よい、3:よい、2:やや不十分、1:不十分

(1) 事前評価

No.	課 題 名	総合評価	研究推進体制	研究目的	研究目標	研究計画	期待される研究成果	期待される事業効果
1	果樹栽培でのソーラーシェアリングの実用化	3.0	3.1	3.2	2.8	3.0	3.0	2.6
2	大阪湾における底魚不漁と環境要因の関係解明に向けた研究	3.0	3.1	3.0	2.9	3.0	2.9	2.3
3	下水汚泥高速処理システムの開発	3.6	3.3	3.4	3.6	3.3	3.3	3.3
平均		3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	2.7

(2) 事後評価

No.	課 題 名	総合評価	研究推進体制	研究成果	今後の普及方針
1	最終処分場の浸出水窒素低減技術	2.8	3.2	2.7	2.7
2	牛用ドラッグデリバリーカプセルの開発	3.3	3.3	3.4	3.0
3	中空構造栽培槽で実現する「勝てる」イチゴ	3.8	3.3	3.7	3.8
4	害虫の光応答メカニズムの解明と高度利用技術の開発	3.3	3.3	3.4	3.1
5	海域バイオマス利用に関する研究	2.6	2.6	2.8	2.1
合計		3.2	3.1	3.2	2.9

21 法人が参画するコンソーシアム一覧（実績報告書31ページ）

分野	名称 (法人が代表者のもの)	構成機関	研究課題	事業
農業	中空構造栽培槽技術開発コンソーシアム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良県 ・ 鳥取大学 ・ (独) 近畿中国四国農研センター ・ 樹脂メーカー ・ 農業機材メーカー 	密度は高く、収穫は長く—中空構造栽培槽実現する「勝てる」イチゴ	農林水産省農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業

分野	名称 (他機関が代表者のもの)	構成機関	研究課題	事業
農業	「施設園芸における高度環境制御技術の開発」共同研究機関	代表機関の千葉大学ほか2大学、5機関、2企業	施設園芸における高度環境制御技術の開発	農林水産技術会議委託プロジェクト研究
	国産飼料(3系)コンソーシアム	代表機関の(独)農研機構ほか1大学、19機関、1企業	自給飼料多給による高付加価値牛肉・牛乳生産技術の開発	農林水産技術会議委託プロジェクト研究
	薬剤抵抗性管理技術の開発コンソーシアム	代表機関の(独)農業生物資源研究所のほか4大学、公設試14機関、4県、民間2社	ゲノム情報等を活用した薬剤抵抗性管理技術の開発	農林水産技術会議委託プロジェクト研究
	フードチェーンプロヒ素コンソーシアム	代表機関の(独)農業環境技術研究所のほか、1大学、5県、6機関、1企業	水稲におけるヒ素のリスクを低減する栽培管理技術の開発	農林水産技術会議委託プロジェクト研究
	炭化プロジェクト共同研究機関	代表機関の日立造船(株)ほか2大学	豚ふん中に含まれる有用資源の循環利用技術開発	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
	「クリのくん蒸処理から脱却するクリシギゾウムシ防除技術の開発」共同研究機関	代表機関の(独)農研機構ほか8機関	クリのくん蒸処理から脱却するクリシギゾウムシ防除技術の開発	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
	「ガスプラズマを用いた農産物の殺菌・消毒法の開発」共同研究期間	代表機関の琉球大学ほか1大学、1高専	ガスプラズマを用いた農産物の殺菌・消毒法の開発	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
	農食事業25071コンソーシアム	代表機関の(独)農研機構ほか1大学、2機関、2事業所	高齢・障がい者など多様な主体の農業参入支援技術の開発	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
	新たな植物保護技術コンソーシアム	代表機関の(独)農研機構ほか1大学、公設試5機関、2県	持続可能な農業生産のための新たな総合的植物保護技術の開発	内閣府 SIP「次世代農林水産業創造技術」
	地域間連携施設野菜コンソーシアム	代表機関の徳島県のほか、1大学、公設試5機関、2県	地域間連携による低投入型・高収益施設野菜生産技術体系の実証研究	攻めの農林水産業実現に向けた革新的技術緊急展開事業
近畿スマートソイルコンソーシアム	代表機関の京都府農林水産技術センターのほか、2機関	精密な土壌水分制御と養分総量評価による高収益輪作体系の実証	農林水産業の革新的技術緊急展開事業	

水産	「微生物解析による沿岸漁業被害の予測・抑制技術の開発」共同研究機関	代表機関の(独)水産総合研究センターほか3大学、公設試3機関、民間2社	海洋微生物群のモニタリングによる早期の赤潮被害発生予測技術及び海洋微生物群を利用した赤潮被害の発生抑制技術の開発	農林水産技術会議委託プロジェクト研究
	生態系ネットワーク共同研究機関	代表機関の(独)水産総合研究センターほか12機関、5大学、2企業	沿岸における漁獲量減少種についての生態系ネットワーク分断要因解消による自律的資源回復技術の開発	農林水産技術会議委託プロジェクト研究
	「我が国周辺水域資源評価等推進委託事業」共同実施機関	代表機関の(独)水産総合研究センターほか39機関、3大学、1社団法人	我が国周辺水域の重要水産資源に係る資源評価等の実施	我が国周辺水域資源評価等推進委託事業
	瀬戸内海赤潮共同研究機関	代表機関の(独)水産総合研究センターほか17機関、6大学、3企業、1NPO法人	瀬戸内海等での有害赤潮発生機構説明と予察・被害防止等技術開発	平成25年度漁場環境・生物多様性保全総合対策事業のうち赤潮・貧酸素水塊対策推進事業
	貝毒リスク管理措置研究グループ	代表機関の(独)水産総合研究センターのほか、公設試9機関	貝毒リスク管理措置の見直しに向けた研究	レギュラトリーサイエンス新技術開発事業

2.2 知的財産保有状況（実績報告書33ページ）

No.	特許（発明）の名称	発明者	共願者	出願番号 出願日	公開番号 年月日	登録番号 年月日
1	牛の飼育方法	藤谷泰裕 西村和彦	チョーヤ梅酒 (株)	特願2002-035229 14年2月13日	特開2003-235467 15年8月26日	第3987734号 19年7月20日
2	フザリウム汚染土壌殺菌用組成物及び該土壌の殺菌方法	岡田清嗣	大阪有機化学工業(株)	特願2004-270430 16年9月16日	特開2006-083108 18年3月30日	第4676180号 23年2月4日
3	食品残渣の保存方法及びその保存方法により保存された食品残渣	西村和彦	ヤンマー(株)	特願2005-010111 17年1月18日	特開2006-197809 18年8月3日	第4300191号 21年4月24日
4	微生物菌体の乾燥方法	西村和彦	(株)林原生物化学研究所	特願2005-011388 17年1月19日	特開2006-197829 18年8月3日	第4630071号 22年11月19日
5	駐車場用窒素酸化物浄化装置	辻野喜夫 吉良靖男	越井木材工業(株)	特願2005-239017 17年8月19日	特開2007-50389 19年3月1日	第4937547号 24年3月2日
6	多孔質資材を使用した食品廃棄物からの機能性成分の吸着濃縮	藤谷泰裕	(株)堀木工所	特願2005-261090 17年9月21日	特開2007-068491 19年3月22日	第4512541号 22年5月14日
7	飛動生物除去装置及び植物保護装置	草刈眞一	カゴメ(株) 近畿大学	特願2006-014135 18年1月23日	特開2007-195404 19年8月9日	第4771310号 23年7月1日
8	水質モニタリング装置	森 達摩 矢吹芳教	(独)農業・生物系特定産業技術研究機構	特願2006-088648 18年3月28日	特開2007-263723 19年10月11日	第4817100号 23年9月9日
9	水質評価方法および水質評価システム	谷本秀夫 古川 真	エス・ツクミック(株) 大阪大学	特願2006-227429 18年8月24日	特開2008-51621 20年3月6日	第4730786号 23年4月28日
10	定量灌水による育苗・栽培方法	森川信也	大阪府立大学 エス・ツクミック(株)	特願2007-012641 19年1月23日	特開2008-178307 20年8月7日	第5010931号 24年6月8日
11 12	誘電分極を用いた分子吸着による防カビ方法、飛動生物除去装置、及び植物保護装置(国際出願)	草刈眞一	(米国での権利) 近畿大学 カゴメ(株)	PCT/JP2007/052562 19年2月14日 米国:12/279,186 20年8月13日 13/337,600 23年12月27日 (分割)	W02007/094339A1 19年8月23日	米国 第8,105,418号 24年1月31日 第8,262,781号 24年1月31日 (日本)第 5599564号 26年8月22日
13	スギ材を用いた二酸化窒素の浄化方法	辻野喜夫 吉良靖男	(有)ホームアイ	特願2007-147511 19年6月1日	特開2009-006310 21年1月15日	第4759550号 23年6月10日
14	飛動可能生物収集兼オゾン発生装置及び植物栽培装置	草刈眞一	近畿大学 カゴメ(株)	特願2007-051756 19年3月1日	特開2008-214119 20年9月18日	第5216225号 25年3月8日
15	養液栽培(湛液式および固形培地方式養液栽培)におけるオゾン水を用いた培養液殺菌技術	草刈眞一 岡田清嗣 磯部武志	(株)神戸製鋼所 (独)農研機構農工研 東京大学	特願2008-5192 20年1月15日	特開2009-165374 21年7月30日	第5453600号 25年1月17日
16	発泡散布装置	森川信也	大阪府立大学 有光工業(株) (株)アワフル	特願2008-191342 20年7月24日	特願2010-22340 22年2月4日	第5358153号 25年9月6日
17	植物栽培装置	内山知二	(株)ヴェイル	特願2008-311990 20年12月8日	特開2010-130981 22年6月17日	第5430919号 25年12月13日
18	養液栽培設備および養液栽培方法	草刈眞一 岡田清嗣 磯部武志	(株)神戸製鋼所	特願2009-146459 21年6月19日	特開2010-000070 22年1月6日	第5308247号 25年7月5日
19	発泡装置	森川信也	有光工業(株) 大阪府立大学 (株)アワフル	特願2009-182639 21年8月5日	特開2011-31221 22年2月17日	第5563792号 平成26年6月20日
20	水耕栽培用パネル	草刈眞一 森川信也 嘉悦佳子	トーヨー工業(株) 金山化成(株)	特願2011-028970 23年2月14日	特開2012-165680 24年9月6日	第5699001号 平成27年2月20日

21	植物生育環境調節装置	内山知二 佐野修司	(株)ヴェイル 大日本プラス ティック(株) ほか3機関	特願2013-096820 25年5月2日	特開2014-217286 26年11月20日	第5725627号 27年4月10日
1	誘電分極を用いた分子吸着による防カビ方法、飛動生物除去装置、及び植物保護装置(国内出願)	草刈真一	近畿大学 カゴメ(株)	特願2008-500512 19年2月14日	W02007/094339A1 19年8月23日	出願済
2	肥効調節機能を有する土壌改質材	佐野修司 内山知二	鳥取大学 (株)モリプラント	特願2011-119035 23年5月27日	特開2012-246386 24年12月13日	出願済
3	微生物乾燥粉末の製造方法	西村和彦 笠井浩司 因野要一 平康博章		特願2012-62088 24年3月19日	特開2013-192490 25年9月30日	出願済
4	容器(切り花用バケツ)	豊原憲子 森川信也		特願2013-100239 25年5月10日		出願済
5	植物のエチレン生合成阻害剤とその利用	豊原憲子	京都府公立大学 法人 クリザールジャパン(株)	特願2013-23264 25年11月9日		出願済
6	温室の換気装置	磯部武士 森川信也		特願2013-207659 25年10月2日		出願済
7	銀ゼオライト粉体混合発泡スチロールによる抗菌化発泡スチロールの成型と生物抑制技術	草刈真一 森川信也	トーホー工業(株)	特願2013-268707 25年12月26日		出願済
8	反芻動物用の経口投与剤およびそれを含む反芻動物用飼料	瀬山智博 平康博章 笠井浩司 藤谷泰裕	森下仁丹(株)	特願2014-17200 26年1月31日		出願済
9	植物体の害虫抑制方法	柴尾学	静岡県農林技術 研究所	特願2014-29080 26年2月19日		出願済
10	プラズマ殺菌装置	西岡輝美 高井雄一 郎 三島朋子	佐賀大学 琉球大学	特願2015-109132 27年5月28日		出願済

・ 品種登録

1	大阪農技育成1号(ふき)	岩本 嗣 中曽根渡		第11980号 11年9月13日		第10632号 14年9月30日
2	羽曳野育成1号(なす)	岩本 嗣 辻 博美 中曽根渡 長町知美		第12479号 12年3月29日		第10976号 15年2月20日
3	ぶどう	細見彰洋 磯部武志 古川真 三輪由佳 林部寿美 雄		第28922号 26年2月13日		

・ 商標登録

1	おおさかエコテック ロゴマーク			商願2012-8139 24年1月24日		第5533649号 24年11月2日
2	エコテック・ゴールド ロゴマーク			商願2012-8140 24年1月24日		第5531919号 24年11月9日

・ 著作権

1	ユリの開花日予測ソフト	豊原憲子	奈良県 農権機構 兵庫県			P第10267号-1 25年6月24日
---	-------------	------	--------------------	--	--	------------------------

2.3 法人職員が受講した研修（実績報告書39ページ）

・専門研修等（他機関が実施したもの）

分類	研修実施機関	研修制度名	受講人数	期間
環境	環境省環境調査研修所	特定機器分析研修Ⅰ（ICP-MS）	1	10日間
	環境省環境調査研修所	特定機器分析研修Ⅰ（LC/MS）	1	10日間
	環境省環境調査研修所	大気分析研修（Bコース）	1	12日間
	環境省環境調査研修所	VOCs分析研修	1	8日間
	環境省環境調査研修所	環境パートナーシップ研修	2	5日間
農業等	(独)農業・食品産業技術総合研究機構（中央農業総合研究センター）	依頼研究員	1	3ヶ月
	(独)農業・食品産業技術総合研究機構	短期集合研修「数理統計（基礎編）」	1	5日間
	農林水産技術会議	農林水産関係研究リーダー研修	1	3日間
	農林水産技術会議	農林水産関係研究中堅研究員研修	1	3日間
	農林水産技術会議	農林水産関係若手研究者研修	1	3日間
	筑波学都資金財団筑波研修センター	樹木と緑化の総合技術口座	1	10日間
水産	(独)水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所	有害プランクトンの同定研修会	1	1日間
その他	(一社)大阪発明協会	知的財産権基礎講座	2	2日間
	(一社)大阪発明協会	効果的な特許検索	2	1日間

・一般研修（法人が実施したもの）

新規採用職員研修（前期・後期）	20	8日間
職員育成計画に関する研修	9	1日間
公的研究費の管理に関する研修	131	1日間
プロパー職員研修	20	1日間
労働安全衛生研修	55	1日間
新任主幹研究員研修	6	2日間
会計研修	66	1日間
労働衛生研修	55	1日間
コンプライアンス研修	73	1日間
若手職員研修	17	3日間
産技研・環農水研合同管理職研修	17	1日間
人権研修	66	1日間

環境マネジメント研修（一般）	25	1日間
環境マネジメント研修（専門）	116	1日間×15回

2.4 目的積立金使途計画及び実績（実績報告書42ページ）

項目		金額（千円）			
		H25	H26		H27
目的積立金確定額		87,004	87,306		
		実績	計画	実績	計画
調査研究資金	・キジハタブランド化に関する調査研究 ・6次産業化支援事業 ・研究活力向上支援事業	0	31,000	12,317	10,700
研究体制強化 （施設・備品）	施設・備品整備計画に基づく執行	7,636	78,000	52,199	151,549
研究体制強化	・次期中期計画策定関連調査	0	1,000	385	1,000
調査研究力向上 （研修等・情報収集）	・職員表彰事業 ・大学院修学 ・通信教育受講支援	500	1,800	890	1,800
	文献検索システム	236	900	540	540
合計		8,372	112,700	66,331	165,589
残額		78,632		99,607	0

※26年度実績には、26年度中に購入を決定し、支払が27年度になるものは含んでいない（37,368千円）

25 法人が有する資源の有効活用事例（実績報告書46ページ）

1	小学校の環境教育のため水生生物センター・環境情報プラザのビオトープ池の利用
2	環境情報プラザの研修室・小会議室・環境実験室(いこらぼ)の環境活動団体等への貸出
3	事業者への食品機能実験室の貸出
4	府農の普及課等への土壌分析室の貸出
5	花の文化園ボランティア花き栽培技術研修受入
6	福祉農園を活用した農産園芸福祉ボランティアおよび地域社会福祉施設の園芸活動受入
7	環境情報プラザの環境啓発パネルの事業者等への貸出
8	石綿の迅速測定のための施設貸し出し(泉州農と緑の総合事務所)
9	自然体験学習に要する機材の貸し出し(堺エコロジー大学)
10	軟X線撮影装置の貸し出し(大阪府立大学)
11	アマモ場造成支援事業に係る水槽の貸し出し(大阪府水産課)
12	大型ネット曳網方法習得のための調査船おおさかへの乗船(香川県水産試験場)
13	窒素酸素安定同位体比調査のための調査船おおさかへの乗船(東京農工大学)
14	濁質成分調査のための調査船おおさかへの乗船(広島大学)
15	栄養塩溶出調査のための調査船おおさかへの乗船(大阪工業大学)
16	ベトナムからの研修・水質分析施設見学受け入れ(大阪府立大学経由)
17	大阪湾の底層溶存酸素分布図の提供(環境省閉鎖性海域対策室)
18	大阪湾の水質測定結果の提供(大阪府環境管理室)
19	海底堆積物調査データ(平成25年8月実施分)の提供(神戸大学)
20	大阪湾の水質測定結果の提供(国土交通省近畿地方整備局)
21	小学校の環境教育のため水生生物センタービオトープ池の利用
22	環境教育のための水生生物センター内水田の活用
23	大阪府立大学「環境活動演習」学生受入
24	奈良学園スーパーサイエンスハイスクール教育課程の研修・種苗生産施設見学受け入れ
25	ルネサンス大阪高等学校サイエンス探求コースの研修・施設見学受け入れ
26	貝塚市立貝塚第3中学校の職業体験学習受け入れ
27	泉南市立信達中学校の職業体験学習受け入れ
28	岬町立岬中学校の職業体験学習受け入れ
29	摂南大学理工学部「生命科学学外演習」受け入れ
30	守口市立八雲中学校職業体験学習受け入れ
31	近畿大学技術研修生受け入れ
32	摂南大学技術研修生受け入れ
33	大阪市立大学工学部インターンシップ受け入れ
34	大阪府立大手前高校集中セミナー受け入れ
35	高槻市立第7中学校職場体験学習受け入れ
36	NPO法人京田辺シュタイナー学校職場体験学習受け入れ
37	高槻市立五領中学校職場体験学習受け入れ
38	八尾市立東中学校職場体験学習受け入れ
39	寝屋川市立第6中学校職場体験学習受け入れ
40	奈良学園スーパーサイエンスハイスクールに関わる研修受け入れ

26 講師派遣実績（実績報告書46ページ）

	タイトル	講演会等名称	主催団体	講演月日	
環境情報部	1	地方自治体の環境行政について	国際環境学特論	大阪府立大学	6月26日
	2	海外の環境問題 我が国の地方自治体ができること	国際環境学特論	大阪府立大学	7月3日
	3	老人福祉施設の省エネ対策について	バリアフリー2014	社会福祉法人大阪社会福祉協議会他	4月19日
	4	省エネ診断について	大阪企業のコスト削減計画支援者研修会	大阪府商工会連合会	6月24日
	5	省エネの取組みについて	省エネ・省CO2研修会	大阪商工会議所南支部	7月23日
	6	事業所の省エネのポイント	平成26年度エネルギー・温暖化対策に関する講習会	大阪府	11月6日
	7	省エネの考え方と取組み	大学と研究機関による省エネルギーワーキンググループ	吹田市	2月23日
	8	日本企業における省エネルギー活動	一般財団法人海外産業人材育成協会 一般研修	一般財団法人海外産業人材育成協会	7月18日、9月9日、10月1日、11月5日、1月5日
	9	日本の低炭素技術	一般財団法人海外産業人材育成協会 一般研修	一般財団法人海外産業人材育成協会	7月29日、9月24日、10月8日、11月18日、1月9日
	10	水処理技術概論	フィリピン水ビジネスセミナー	一般財団法人海外産業人材育成協会	3月13日
	11	大阪の環境問題と取組み	大阪府高齢者大学校自然文化研究科	特定非営利活動法人大阪府高齢者大学校	12月9日
	12	PM _{2.5} ・黄砂の実態と影響について	日中経済貿易センター特別セミナー	日中経済貿易センター	4月21日
	13	大阪府のPM _{2.5} の現状	第55回水・土壌汚染研究部会セミナー	おおさかATCグリーンエコプラザ 水・土壌汚染研究部会	4月24日
	14	公共用水域水質監視業務の精度管理等	平成26年度環境モニタリング技術研修	環境省環境調査研修所	8月1日
	15	大阪におけるPM _{2.5} の現状について	IATSSフォーラム	あおぞら財団	10月1日
	16	PM _{2.5} の国内汚染とその実態	PM2.5による国内汚染の実態と健康への影響その対応ビジネスの参入戦略と留意点セミナー	遠赤外応用研究会	10月30日
	17	大阪府におけるPM _{2.5} 汚染の現状について	第138回技術研修会	NPO法人テクノメイトコープ	11月26日
	18	地方環境研究所におけるPM _{2.5} 対策の研究について	平成26年度大気環境対策セミナー	環境再生保全機構	2月6日
環境研究部	19	切り花の鮮度保持	普及指導員研修(花き)	大阪府	2月24日
	20	小ギクの栽培について	花き栽培技術講習会	JA	2月26日
	21	ユリの栽培について	花き栽培技術講習会	北部農の普及課	8月5日
	22	大阪府における鳥獣害の現状	鳥獣害研修会	JA	2月27日

環境 研究部	23	ナラ枯れと里山保全	里山保全に関する研修会	河内長野市上原里山再生プロジェクト	1月17日
	24	種蒔きから始める花苗の育て方	東大阪市学校園芸講習会	東大阪市みどり対策課	8月20日
	25	種まきから始める花苗の育て方	花の文化園種まき講習会	花の文化園	8月19日
	26	種まきからはじめる花苗の育て方	東大阪市花いっぱい講座	東大阪市みどり対策課	9月17日
	27	園芸療法	府立大学作業療法専攻 作業科学実習	大阪府立大学	4月21日、5月9日、5月30日
	28	葉ぼたんの育苗管理	神立ジャンプK生産者研修	大阪府	7月11日
	29	植物栽培技術研修	中学校技術家庭指導力向上研修	大阪府教育センター	8月12日
	30	ボトムアップで挑む花いっぱいの街	テラプロジェクトシンポジウム	テラプロジェクト	11月19日
	31	産業、市民の暮らし、園芸福祉	ブルーミングフォーラム	(一社)フラワーソサイエティ	1月24日
	32	キクの栽培技術	道の駅かなん出荷者研修	道の駅かなん	2月26日
食の 安全 研究部	33	優良系統選抜越効果についての意見交換会	天王寺カブ検討会	その他	1月9日
	34	リフレッシュ剪定や台木栽培など新しい栽培技術研修	イチジク栽培技術研修	JA	1月13日
	35	病害虫の薬剤防除における薬剤選択と薬剤感受性検定法についてーアザミウマ類ー	植物防疫全国協議会近畿地区研修会	植物防疫全国協議会近畿地区	1月14日
	36	堆肥施用の意義とその効果について	堆肥共励会	動愛課	1月22日
	37	現場で活かせる水稻病害虫の生態と防除について(いもち病菌の薬剤耐性)	研修	全国農業協同組合	2月4日
	38	ブドウ剪定と翌年の新梢管理およびH型の仕立て方について	剪定研修会	JA	2月16日
	39	能勢町のクリシギゾウムシの発生報告、温湯消毒機の検討	栗栽培研修会	能勢栗振興会・JA	2月26日
	40	野菜担当者野菜ほ場視察	野菜担当者研修	大阪府	2月27日
	41	府内の養液栽培における病害と静電場スクリーン	大阪府養液栽培研究会講演	大阪府養液栽培研究会	3月25日
	42	土づくりの基本と作物生産との関係について	地力増進地域指定対策	JA	5月23日
	43	イチジクの年間栽培管理について	イチジク講習会	JA	5月16日
	44	毛馬キュウリの栽培の実際について	JA北河内野菜研修会	JA	6月18日
	45	伝統野菜研究の取り組みについて紹介	田辺大根、天王寺蕪 検討会	JA	7月2日
	46	果樹試験研究の取り組み状況	南河内地区果樹振興会連絡協議会研修会	南河内地区果樹振興会連絡協議会	7月17日
	47	新任普及指導員研修(伝統野菜採種体験)	普及指導員研修	大阪府	7月31日
	48	稲、野菜類の病害について解説	植物防疫協力員研修会	大阪府	7月18日

食の安全研究部	49	田辺大根の栽培方法について	北河内伝統野菜協議会	その他	8月6日
	50	培養土等の栽培と播種等の栽培技術	ものづくりから始まる技術指導力向上研修	大阪府教育センター	8月12日
	51	種蒔きから始める花苗の育て方	東大阪市学校園芸講習会	東大阪市みどり対策課	8月20日
	52	イチジク接ぎ木の研修	普及指導員研修(果樹)	大阪府	9月2日
	53	野菜栽培について	野菜栽培技術講習会	JA	9月9日
	54	府立農業系高等学校初任者研修	府立農業系高等学校初任者研修	大阪府	9月18日
	55	イチジク栽培技術研修	イチジク栽培技術研修	河内長野市	9月25日
	56	田辺大根、天王寺蕪、碓井豌豆の栽培研究について紹介	なにわの伝統野菜の生産・出荷・販売会議	JA	10月7日
	57	紫ブドウについての歴史とウイルス保毒状況について	紫ブドウ研修会	大阪府	10月9日
	58	ブドウ研究についての取り組み状況	ブドウ栽培技術研修	太子町果樹振興会	10月28日
	59	JA営農担当者の営農技術指導について	スーパーアグリアドバイザー養成研修	JA	11月6日
	60	ブドウほ場の土壌管理	ブドウ土づくり講習会	大阪府	11月12日
	61	秋野菜の栽培について	富田林市民見学会	富田林市	11月19日
	62	秋野菜の栽培について	富田林市民見学会	富田林市	11月19日
63	今年のイチジク栽培を振り返って	イチジク講習会	JA	11月25日	
64	養液栽培トマトの品評会および表彰式	大阪府養液栽培研究会	大阪府養液栽培研究会	12月15日 3月25日	
水産研究部	65	大阪湾のさかなの説明	せんなん里海公園磯浜見学会	大阪府港湾局	9月9日
	66	大阪湾に出現する生きものの解説	生き物一斉調査事前説明会	大阪湾環境再生連絡会	5月9日
	67	海岸生物の解説	大阪湾生き物一斉調査	大阪湾環境再生連絡会	5月31日
	68	海岸生物の解説	大阪湾生き物一斉調査	大阪湾環境再生連絡会	6月7日
	69	大阪湾の環境と生物についての講演	大阪湾環境保全協議会講演会	大阪湾環境保全協議会	4月25日
	70	大阪湾と人々の暮らし、その相互作用	大阪湾再生推進会議勉強会	大阪湾再生推進会議	5月22日
	71	「海とさかな」出張授業	「海とさかな」自由研究・作品コンクール授業	富田林市立大伴小学校	6月27日
	72	栽培漁業に関する出張授業	環境月間に係る稚魚放流授業	岬町立深日小学校	6月18日
	73	タッチングプールを使用した大阪湾の魚の説明	阪南市障がい児スポーツ教室イベント	阪南市立総合体育館	8月10日
	74	海岸生物の解説、指導	大阪湾生き物一斉調査(研究発表会)	大阪湾環境再生連絡会	9月23日

75	大阪湾の環境と生物についての講演	海上航行安全講習会	大阪府 大阪府海域美化安全協会	10月21日
76	海岸生物の解説、指導	大阪湾生き物一斉調査(記録資料編集)	大阪湾環境再生連絡会	11月21日
77	大阪湾の水質環境についての講演	産業の水環境対策と閉鎖性海域環境に関するシンポジウム	(一社)産業環境管理協会	11月7日
78	大川の魚類の採集(地曳網体験)と採集した魚類について	大川ふれあいの水辺地曳網調査	水生生物センター、府河川室等	5月17日、11月3日
79	彩都あさぎ里山公園池のヒシ駆除と彩都周辺にすむ水生生物について	彩都あさぎ里山公園池ヒシ駆除	大阪府彩都建設協議会	9月19日
80	「知ろう・伝えようおおさかの生物多様性」冊子を使った生物多様性に関する講習	生物多様性セミナー「知ろう・伝えようおおさかの生物多様性」	大阪府みどり都市推進室	2月20日
81	水辺の生きものや生態系について	大阪府立大手前高校集中セミナー	大阪府立大手前高校	12月11日
82	水生生物センターの業務とイタセンパラの生態について	奈良学園SSH科学専攻クラス研修	奈良学園	11月6日、11月11日
83	環境教育プログラムに関する研修、ビオトープ池での生きもの採集体験、淀川ワンドでの地曳網体験	CST野外体験学習	大阪府教育センター	8月25日
84	水生生物センターの業務と生物と河川攪乱との関係について	滋賀県立大学見学研修	滋賀県立大学	11月7日、11月10日
85	淀川左岸用水路の生きものについて	淀川左岸定例調査	水辺に親しむ会	4月13日、8月13日、10月12日、1月25日
86	大和川にすむ水生生物の採集と観察および採集した生物について	大和川水生生物観察会	八尾市	1月31日
87	生物多様性について	日本環境アセスメント協会技術セミナー	日本環境アセスメント協会	12月5日
88	ビオトープ池での水辺体験とそこにすむ生物について、水草押し葉作り	水辺体験学習	依頼のあった府内小学校	5月9日、7月4日、8月5日、11月5日
89	安威川の生きもの採集と採集した生きものについて	安威川水辺の学校	茨木市立山手台小学校、安威川ダム建設事務所	5月16日
90	千里川の生きもの採集と採集した生きものについて	千里川水辺体験学習	豊中市立豊島北小学校	6月12日
91	ミズアオイの移植とミズアオイの生態について	出前授業	寝屋川市立石津小学校	7月7日
92	ビオトープ池での水辺体験とそこにすむ生物について、水草押し葉作り	なにわ子供エコクラブ体験学習	なにわ子供エコクラブ	8月23日
93	彩都川合裏川にすむ水生生物の採集と採集した生物について	特別授業	箕面市立彩都の丘学園、大阪府彩都建設協議会	10月16日
94	彩都周辺にすむ生物について	特別授業	茨木市立彩都西小学校	10月20日
95	トンボ(ヤゴ)の飼育について	トンボのヤゴ救出作戦in服部緑地	服部緑地管理事務所	5月24日
96	淀川の魚類相等について	近畿水環境交流会in淀川・寝屋川	近畿水環境交流会	7月26日
97	大阪府にすむ魚類や水生生物について	近鉄文化サロン	近鉄百貨店	7月27日、8月3日
98	ビオトープ池での水辺体験とそこにすむ生きものについて、水草押し葉作り	ねやがわ自然塾体験学習	ねやがわ自然塾	8月7日
99	水生生物センターの業務について	交野市自立センター見学研修	交野市自立センター	8月22日

水産研究部	100	イタセンパラの生態や生息環境について	知って親しみ塗って親しむ「イタセンパラ」講座	イタセンネット	11月8日
	101	魚類等調査法と外来種対策	水辺の外来種対策リーダー養成講座	イタセンネット	6月7日、11月1日
	102	水生生物センターの業務について	研修	大阪シニア自然カレッジ	3月4日
	103	大阪の生物多様性	研修	守口市教育研究会理科部会	7月2日
	104	環境教育プログラムに関する研修	研修会	大阪府教育センター	8月18日
	105	環境教育プログラムに関する研修	四条畷市教育研究会理科部会研修	四条畷市教育研究会理科部会	10月8日
	106	環境教育プログラムに関する研修	小中学校「理科」指導者養成長期研修	小中学校「理科」指導者	10月30日
	107	メダカの生態について	社員研修	パナホーム株式会社	6月5日
	108	水辺の生き物たち	水辺体験学習	木屋小学校エコクラブ	8月5日
	109	大阪の生物多様性	CST野外体験実習	大阪府教育センター	8月25日
	110	淀川の生物多様性	水環境の保全研修	NPO法人よどがわ・水研究会	3月25日
	111	希少淡水魚類の保全について - イタセンパラを例に -	自然保護官等特設研修	環境省環境調査研修所	1月15日
	112	多様な主体が連携する生物多様性保全の取り組み	絶滅危惧種に関する都道府県等との連絡会	近畿地方環境事務所	11月14日
113	イタセンパラの生態と野生復帰の取り組みについて	城北わんどイタセンパラ協議会	近畿地方環境事務所	4月24日	

27 役員・委員等の派遣（実績報告書46ページ）

	依 頼 元	役 職 名	期 間
役員・ 経営企画室	1 大阪府環境審議会	大阪府環境審議会幹事	平成24年度～
	2 大阪府環境保全課	環境影響評価連絡会構成員	平成24年度～
	3 産学官連携推進協議会	産学官共同研究開発事業審査委員会委員	平成24年度～
	4 産学官連携推進協議会	産学官連携人材育成等事業審査委員会委員	平成24年度～
	5 近畿中国四国農業研究協議会	評議員	平成21年度～
	6 府商工労働部	大阪府中小企業新事業活動促進法承認等審査委員	平成24年度～
	7 府健康医療部	大阪府食の安全安心推進委員会幹事	平成24年度～
	8 大阪府地方農業協議会	大阪府地方農業気象協議会委員	平成24年度～
	9 大阪府地方農業協議会	大阪府地方農業気象協議会幹事	平成24年度～
	10 大阪府農業共済組合連合会	損害評価委員	平成21年度～
	11 大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会	委員	平成26年度～
環境 情報部	12 (株)エックス都市研究所	環境技術実証事業運営委員会委員	平成24年度～
	13 瀬戸内海水環境研会議	企画検討会委員	平成24年度～
	14 大阪府エコ店舗普及推進協議会	会計監査	平成24年度～
	15 大阪府省エネ外食店舗普及推進協議会	会計監査	平成24年度～
	16 茨木市環境政策課	茨木市地球温暖化対策推進委員会委員	平成23年度～
	17 (株)エックス都市研究所	環境技術実証事業湖沼等水質浄化技術分野検討員	平成24年度～
	18 日本水環境学会	関西支部幹事	平成26年度～
環境 研究部	19 大阪府魚腸骨処理対策協議会	検討会委員	平成18年度～
	20 大阪府鶏卵品評会(大阪府総合畜産農業協同組合連合会)	審査員	平成元年度～
	21 泉南市役所	畜牛品評会審査委員長	平成20年度～
	22 大阪府堆肥共励会	審査委員長	平成24年度～
	23 大阪府鶏卵品評会	審査委員長	平成24年度～
	24 大阪府はちみつ品評会	審査委員長	平成24年度～
	25 大阪府林業経営協議会	委員	平成24年度～
	26 大阪府林業・木材産業構造改革専門部会	委員	平成24年度～
	27 近畿中国森林・林業交流研究発表会	審査員	平成24年度～
	28 (社)大阪府畜産会	非常勤畜産コンサルタント	平成24年度～
	29 大阪花き園芸連合会	大阪府花き園芸品評会審査員	平成18年度～
30 神於山保全活動推進協議会	協議会会員	平成25年度～	
食の 安全 研究部	31 大阪府農業共済組合連合会	損害評価委員	平成21年度～
	32 大阪府エコ農業推進委員会	委員	平成21年度～
	33 大阪府果樹振興会	大阪府果樹品評会審査長	平成21年度～
	34 大阪府花き園芸連合会	大阪府花き品評会審査委員長	平成22年度～
	35 大阪府養液栽培研究会	大阪府養液栽培品評会審査委員長	平成23年度～
	36 河内長野市	河内長野市産品ブランド化委員会認定部会委員	平成23年度～
	37 日本農業気象学会近畿支部	評議員	平成23年度～
	38 大阪府農業会議	大阪府経営構造対策推進委員会 委員	平成21年度～

食の安全 研究部	39	大阪府立園芸高校SSH運営指導委員会	委員	平成24年度～	
	40	園芸学会近畿支部	評議員	平成19年度～	
	41	農林水産省農林水産技術会議	(農・食事業)研究課題評価分科会委員	平成25年度～	
	42	土壌保全調査事業全国協議会	副会長	平成25年度～	
	43	日本砂丘学会	副会長	平成21年度～	
	44	日本土壌肥料学会	地域担当委員	平成23年度～	
	45	近畿土壌肥料研究協議会	理事	平成22年度～	
	46	日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会	幹事	平成17年度～	
	47	関西病虫害研究会	評議員	平成18年度～	
	48	関西病虫害研究会	編集委員	平成18年度～	
	49	農林害虫防除研究会	副会長	平成24年度～	
	50	近畿土壌肥料研究協議会	幹事	平成22年度～	
	51	近畿土壌肥料研究協議会	監査	平成24年度～	
	52	大阪府農業協同組合中央会	JAグループ大阪「スーパーアグリアドバイザー認証試験」試験委員	平成20年度～	
	53	日本食品保蔵科学会	評議員	平成21年度～	
	54	大阪府農業共済組合連合会	損害評価委員	平成25年度～	
	55	近畿中国四国地域農業試験研究推進会議 作物生産部会部会	副部会長	平成25年度～	
	56	近畿中国四国地域農業試験研究推進会議 野菜推進部会	副部会長	平成25年度～	
	57	大阪府農業協同組合中央会	JAグループ大阪「スーパーアグリアドバイザー認証試験」試験委員	平成19年度～	
	58	大阪府能力開発協会	後期技能検定委員	平成18年度～	
	59	大阪府農業共済組合連合会	損害評価委員	平成21年度～	
	水産 研究部	60	日本水産学会	近畿支部幹事	平成11年度～
		61	大阪府岸和田土木事務所	せんなん里海公園(人工磯浜)検討会委員	平成21年度～
		62	大阪府資源管理協議会	副会長	平成23年度～
		63	大阪府豊かな海づくり協議会	副会長	平成25年度
		64	(財)大阪府漁業振興基金	理事	平成25年度
		65	大阪府環境保全課	大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る大阪府域環境保全協議会委員	平成23年度～
		66	国土交通省	大阪湾見守りネット運営委員	平成18年度～
		67	国土交通省	大阪湾環境再生連絡会委員	平成18年度～
68		国土交通省	大阪湾窪地対策技術検討委員会委員	平成18年度～	
69		大阪府環境保全課	大阪府環境影響評価審査会委員	平成18年度～	
70		関西国際空港環境監視機構	委員	平成18年度～	
71		(社)関西経済同友会	関西サイエンスフォーラム専門部会委員	平成18年度～	
72		アナゴ漁業資源研究会	世話人	平成18年度～	
73		(財)みなと総合研究財団	海底地形修復技術に関する検討委員会委員	平成20年度～	
74		(社)日本水産資源保護協会	赤潮情報等ネットワークシステムの高度化事業連絡協議会検討員	平成16年度～	
75		国土交通省淀川河川事務所	淀川イタセンバラ検討会委員	平成20年度～	
76		国土交通省淀川河川事務所	淀川環境委員会委員	平成21年度～	
77		環境省近畿地方環境事務所	淀川水系アユモドキ生息域外保全検討委員会	平成25年度～	

水産 研究 部	78	環境省中部地方環境事務所	イタセンパラ生息域外保全検討会委員	平成21年度～
	79	関西自然保護機構	運営委員	平成24年度～
	80	大阪生物多様性保全ネットワーク	専門委員	平成24年度～
	81	寝屋川市	寝屋川市環境保全審議会委員	平成25年度～
	82	枚方市	環境審議委員	平成26年度～
	83	国土交通省淀川河川事務所	淀川環境委員会水域環境部会オブザーバー	平成18年度～
	84	大阪府北部農と緑の総合事務所	内が池整備検討委員会WG委員	平成18年度～
	85	寝屋川市	寝屋川せせらぎ公園環境管理等業務委託審査委員	平成18年度～
	86	琵琶湖・淀川流域圏再生協議会	水辺の生態系保全再生ネットワークWG	平成21年度～
	87	大阪府河川室	「私の水辺」大発表会実行委員	平成15年度～
農 大	88	大和川水環境協議会	「大和川水環境協議会」水環境アドバイザー	平成22年度～
	89	大阪府学校農業クラブ連盟	大阪府学校農業クラブ連盟研究発表会審査員	平成24年度～
	90	大阪府立農芸高等学校	農芸高等学校学校協議会委員	平成24年度～

